

## 第四 條約ノ國會ノ承諾ヲ得ザル場合ニ於ケル結果

英國々會ガ條約ニ對シテ承諾ヲ拒ミシコト極メテ稀ニシテ、多ク其例ヲ見ズ。然レドモ國會若シ已ニ批准セル條約ヲ不可トシ、承諾ヲ與ヘザルトキハ如何ノ結果ヲ生ズベキヤ。内閣大臣ハ其ノ責任ヲ免ガルベカラズト雖ドモ、其條約ハ無効ニ歸スベキヤ否ヤ、蓋此ノ如キ場合ニ際スルモ條約ハ國王正當ノ權力ニ據リテ締結シタル所ナレバ、議會ノ議論ノ爲メニ之レヲ無効ニ歸スルコトヲ得ズ。而シテ不幸ニシテ此ノ困難ニ遭遇スルトキハ、終ヒニ或ハ外國ト重大ナル事端ヲ開カザルヲ得ザルニ至ルモ亦知ル可ラザルナリ。グナイスト氏曰ク、凡國際法ニ於テハ條約ハ批准ヲ經テ其効力ハ完全ナルモノトス。條約ノ無効ヲ主張スルニハ國際法上ノ理由ヲ主張セザル可ラズ。而シテ代議體ガ承諾ヲ與ヘザルヲ以テ無効ノ理由ト爲スヲ得ズ。立憲諸國ニ於テハ、君主ハ外國ニ對シテ國家ヲ束縛スルノ權力ヲ有スルヲ普通ノ原則トス。然レドモ國法上ニ於テハ立憲政體ノ原則トシテ現行國法ハ獨リ立法ノ方法ヲ以テ變更スルヲ得ルノミニシテ國際條約ニ因テ之レヲ變更廢止スルコトヲ得ズ。即チ新條約ノ執行ニ關シテハ多ク代議體ノ協賛ヲ要ス、故ニ實際ニ於テハ兩者ノ衝突ヲ生ズルコト少シトセズ。而シテ此衝突ヲ解スルニハ高等ナル國際上ノ義務ハ國法ニ優ルト斷定スルヲ要ス。然ルトキハ國權ハ既ニ對約國ニ對シテ

條約ノ束縛ヲ受ケ、又其内國代議體ノ承諾ヲ得ザル可カラズ。若シ其ノ承諾ヲ得ザルトキハ對約國ト談判ノ有様ニ由リ、開戦ニ至ルハ已ムヲ得ザルノ結果ナリト。

コンラードボルンハツク氏ハ云ヘリ、條約締結ニ付テ必要ナル議會ノ協賛ハ全權委員ノ談判濟ト主權者ノ批准トノ間ニ於テ之ヲ求ムルノ便宜ヲ得、且外ニ對シテ國家行爲ノ統一ヲ害スルコトナシ。若シ議會ガ條約案ヲ協賛セズ、若クハ之レヲ修正シタルトキハ主權者ハ條約ノ批准ヲ拒ミ、時ニ依リテハ議會ノ修正ニ從ヒ更ニ對約國ニ新案ノ申込ヲ爲スベキナリト。

此說ニ依レバ主權者ト議會トノ間ニ條約ニ關シ甚シキ困難ヲ來スコトナカルベシト雖ドモ、然レドモ亦憲法ノ規定如何ニ從ハザルベカラズ。英國ノ如キハ議院政治ノ最モ發達シタルニ拘ハラズ、猶ホ條約批准ニ至ルマデハ專ラ國王ノ全權ニ屬シ、議會ヲシテ喙ヲ容レシメザルハ是レ其憲法ハ條約締結批准ノ權ヲ舉ゲテ國王ニ歸スルガ故ナリ。

條約批准ノ後、政府ト議會ト衝突ヲ生ズルトキハ外國ニ對シテハ條約ノ義務ヲ負ヒ、而シテ内國ニ向テハ之レヲ實行スルコト能ハザルノ困難ヲ生ズベク、此ノ困難ヲ避クルノ唯一ノ方法ハ條約中一條ヲ置キ、議會ノ承諾ヲ得ルニ非レバ條約ノ有効トナラザルコトヲ規定スルアルノミ。是レ憲法ニ於テ主權者條約ヲ締結批准スルノ全權ヲ有スル國ニ在テハ實ニ已ム可カラザルノ規定ニシテ、英國ノ如キハ從來條約ヲ締結シテ國會ノ承諾ヲ得ザルハ絶テ無キ所ナリト雖ド



モ、猶此方法ヲ採リ其千八百六十年佛國ト締結シタル通商航海航海條約第二十條ニ於テ左ノ如ク規定セリ。

本條約ニ依リ英國臣民ニ與ヘラレタル利益ニシテ英國ニ關スルモノハ、本條約ニ依リ佛國臣民ニ與ヘラレタル利益ヲ佛國臣民ニ保證スル法律ヲ英國ニ於テ議定スルヲ待テ効力ヲ生ズベシ。又本條約ニ依リ與ヘラレタル利益ニシテ（稅則ヲ除キ）愛爾蘭ニ關スルモノハ、本條約ニ依リ佛國臣民ニ與ヘラレタル利益ヲ佛國臣民ニ保證スル法律ヲ英國ニ於テ議定スルヲ待テ効力ヲ生ズベシ。又稅則ニ依リ與ヘラレタル利益ニシテ英國ニ關スルモノハ、其稅則ニ効力ヲ與フル法律ヲ英國ニ於テ議定スルヲ待テ効力ヲ生ズベシ（千七百八十六年佛英國航海通商條約第十四條）

本條約ハ英國々會ガ本條約ニ於テ英皇陛下ノ約束シタル條項ヲ實行スルヲ承諾スルニ非ラザレバ有効トナラズ（千八百六十年英佛通商條約第二十條）

（注意）此兩條ヲ比較スルニ其目的相同ジト雖ドモ、其體制ハ大ニ同ジカラズ。以テ近代英國王ガ國會ニ讓ル所愈多キヲ察スベキナリ。千七百八十六年ニ於テハ條約ヲ締結スルハ專ラ國王ニアリ、而シテ之レヲ實行スル爲メニ法律ヲ定ムルハ國會ノ議ヲ待ツガ故ニ、單ニ法律ヲ議定スルニ非ラザレバ効力ヲ生ズト云フ。是レ國王條約ヲ締結スル特權ト國會法律ヲ議定スル權利トヲ判別シ、仍テ王權ヲ尊重スルノ大義ヲ表明ス、然ルニ千八百六十年ノ條約ニ於テハ、國王ハ國會ヨリ實行ノ承諾ヲ受クルニ非ザレバ有効ナラズト云フ、是レ條約ニ効力ヲ與フルノ權ヲ悉ク國會ノ掌握ニ歸スルモノ、如シ。前後兩條約共ニ同一事ヲ規定スルニ過ギズト雖ドモ、英國憲法ノ精神ニ從ヘバ前條コソ立言ノ體ヲ得タリト謂ハザルヲ得ズ。

## 第五 結 論

關稅ヲ賦課スルハ素ヨリ一國自主ノ權ニ在リト雖ドモ、通商條約ヲ以テ互ニ其自主ノ權ヲ犧牲ニシテ以テ貿易ノ繁盛ヲ圖ルハ今日列國普通ノ慣例トス。蓋シ條約ハ國際ノ成文律ニシテ、國法ノ制定アルガ如シ。而シテ國法ハ以テ民人社會ヲ約束シ、國際法ハ以テ列國社會ヲ約束ス。故ニ列國互ニ條約ヲ守ルノ義務アルハ一國人民ノ國法ヲ遵守スル義務アルガ如ク、又一國自主ノ權ニ由リテ制定スル法律ハ以テ國際上ノ條約ニ牴觸スベカラザルハ普通ノ定論ナリ（スドロー氏『コンフリクツ・オフ・ラウス』ニ據ル）

今我憲法ニ依ルニ、條約締結ノ權ハ 天皇ノ大權ニ屬スル柄乎タリ。故ニ 天皇責任大



臣ノ贊輔ヲ以テ締結セラレタル諸般ノ條約ニシテ、已ニ之レヲ批准セラレタルトキハ即チ國家ノ遵守義務ヲ生ズルハ疑フベカラズ。但シ關稅ヲ定ムル爲メニハ更ラニ法律ヲ制定スルニ非レバ實効ヲ生ゼザルニ由リ、議會之レヲ協贊スルノ權ヲ有スルハ蓋シ必然ノ又憲法ニ依レル結果ナリ。

因ニ云、今日我國現行條約ニ係ル改稅約定ニ於テ、一々課稅品ニ對シテ稅額ヲ確定シ、後國法ヲ以テ規定スベキ餘地ヲ遺サザルガ如キハ各國ニ其例稀ナルノミナラズ、國家ノ爲メ利益ヲ損スルコト少カラズ。

而シテ議會若シ其法律ヲ協贊セザルコトアルトキハ、條約其ノ物ハ依然トシテ存立スベキモ仍其効用ナキハ法律ノ已ニ發布セラレタルモ未ダ施行日限ニ至ラザルヲ以テ効力ヲ生ゼザルガ如シ。

上ニ論ズル所ニ由リ左ノ結論ヲ得ベシ。

- 一、條約ヲ締結スルハ大權ニ屬スルヲ以テ、其關稅ニ係ルモノト雖ドモ未ダ批准ヲ經ザルニ當リテ議會ハ之ヲ議スルコトヲ得ズ。
- 二、條約批准ノ後之レヲ實行スルニ法律ヲ必要トスル場合ニ於テ議會ハ其ノ法案ヲ討議ス。
- 三、此ノ場合ニ於テ間接ニ條約ニ關シテ可否ヲ論ズルコトヲ妨グズ。

四、議會ガ關稅ニ關スル法案ヲ協贊セザルトキハ已ニ批准ヲ經タル此件ニ關スル條約ハ實行ノ効力ヲ得セシムルコト能ハズ。故ニ關稅條約中ニ一約ヲ置キ其實行ニ必要ナル法律制定ニ至ルマデハ、條約ノ効力ヲ生ゼザルコトヲ明言スルヲ必要トス。

五、更ラニ言ヘバ國稅法案提出ノ前ニピット氏ノ所爲ノ例ニ倣ヒ、政府ハ關稅條約ノ大意ヲ以テ先ヅ議院ノ動機トシ、豫メ贊成ノ決議ヲ經ルヲ要スルヲ便トス。

## 第六 辯理及附言

論者或ヒハ謂ハン、此ノ如クナレバ主權者ガ有スル條約締結ノ全權ハ名アリテ實ナク、議會承諾セザルトキハ主權者之レヲ締結批准スルモ之レヲ實行スルコト能ハズ、是レ條約締結ノ實權ヲ擧ゲテ全ク議會ニ歸スルナリト、然レドモ是レ必ラズシモ然ラザルナリ。我憲法ハ議會ニ稅法ヲ議定スルノ權ヲ認メタリ、故ニ條約ノ内包ニシテ稅法ニ干涉スル場合ニ於テハ議會ノ權利ヲ奪フコト能ハズ。是レ必然ノ結果ナリ。

且條約ノ批准ヲ得タル者ハ議會ノ承諾ヲ得ザルモ消滅スルニ非ラズシテ、唯實行ノ効力ヲ生ゼザルノミ。年ヲ經ルノ後再ビ議會ニ提出シテ其承諾ヲ得ルコトアラバ仍チ之レヲ實行スルコ



トヲ得、議會ガ内部法律ニ干涉スル條約ニ間接ノ承諾ヲ與フルハ法律議定權ノ作用ニシテ、決シテ條約締結權ニ關與スルニ非ラズ。猶之レヲ極論スルトキハ、蓋シ國際條約ノ締結ハ關係當事者、即チ條約國間ノ行爲ニ過ギザルヲ以テ、其ノ法律ニ關スル者ハ未ダ臣民ニ對シテ何等ノ影響ヲモ及ボスコトナシ、内國臣民ヲシテ之レガ爲メニ或ル義務ヲ負荷セシメント欲セバ、別ニ國際法上ノ順序ヲ以テ之レヲ定メザル可ラザルナリ。

之レヲ要スルニ 天皇ハ憲法ノ正文ニ依リ條約締結ノ大權ヲ有シ玉フト雖モ、條約ハ又決シテ憲法ガ國家立法ノ機關ナル帝國議會ニ與ヘタル職權ヲ奪フコトヲ得ザルベシ。故ニ其内國法律ニ干涉スルモノニ至リテハ、帝國議會ノ協贊ヲ經ザル可カラズ。而シテ帝國議會ノ協贊ヲ經ベシトスルトキハ又其協贊セザル場合アルコトヲ豫期セザル可ラズ。故ニ條約ニシテ内國法律ニ干涉スル者ニ於テハ、帝國議會ノ協贊ヲ經ルノ後ニ非ザレバ實行ノ効力ヲ生ゼザルベキコトヲ規定スルノ止ムヲ得ザルハ實ニ此ニ由ルナリ。故ニ憲法第十三條ノ明文ト第三十七條第六十二條ト並立シ、其間相犯スベカラザルノ經界ヲ存立セシムルハ偏ニ政府ノ處置其當ヲ得ルニ在ルノミ。

最後ニ一言スベキモノアリ、政府ガ外國ト條約ヲ議スルニ當リ、國家ノ休戚ヲ體シ國民ノ利益ヲ察シテ苟且ニ付スベカラザルハ固ヨリ論ズルヲ待タズ。而シテ帝國議會ガ其實行ニ必要ナ

ル法律ヲ議スルニ於テモ、亦極メテ慎重ヲ以テシ、條約ニ於テ看過スベカラザル重大ノ危害ヲ發見スルニ非ザルヨリハ妄リニ其法律案ヲ廢棄スベカラズ。是レ實ニ政府及議會ガ憲法上ノ德義ト云フベシ。若シ此場合ニ臨ミ議會其法案ヲ廢棄シ、條約ノ實行ヲ見ル能ハザルコトアラバ國家ノ體面ヲ汚スコト之ヨリ甚シキハナカルベシ。ポメロイ氏合衆國憲法論ニ曰ク、外國關係ノ事ハ總テ憲法ニ於テ大統領一人若クハ大統領ト元老院トニ委任ス。而シテ代議院ハ其事件ニ客喙シ又ハ之レヲ督制スルノ權力ナシ。唯或ル場合ニ於テ條約ノ條項ヲ實行スルニ必要ナル法律ヲ議定スルノ權力否、寧、ロ、義、務、ア、ル、ノ、ミ、ト。是レ合衆國大統領既ニ元老院ノ同意ヲ得テ外國ト條約ヲ締結スレバ、代議院ハ必ラズ之レヲ實行スル法律ヲ議定セザルヲ得ザルヲ謂フナリ。然レバ則大權ニ由リ締結セラレタル條約ヲ實行スル法律ヲ協贊スルハ帝國議會ノ權利ニ在リト云フト雖ドモ、抑亦其義務ト云フベキナリ。



## 倫敦取引所ニ日本公債賣買ノ途ヲ開クコト

本邦理財ノ關係ヲ海外ニ擴張スルノ必要ナルヲ感ジ、從來交際シ居ル英國倫敦府株式取引所幹事兼同所株式及公債局長タルヘンリ、シ、バールヂト氏ニ昨年十一月三日附ヲ以テ同所規則ニ照準シ、左記五ヶ條ノ要領ヲ舉ゲテ我公債ヲ倫敦取引所市場ニ於テ商賣ヲ開始センコトヲ希望シ諮問書ヲ發セリ。

第一 倫敦ノ取引所ニ於テ日本銀貨公債ノ定期賣買ヲ開始シ、而シテ現物渡シ方ハ當分在倫敦日本銀行ニ於テ便宜取扱フコトアルベキ事。

第二 右公債返還金及ビ利子ハ銀貨ヲ以テ支拂フベキモノナレドモ、其ノ期限ノ到來シタルトキハ當分在倫敦日本政府代表理店ニ於テ其ノ日ノ金銀相場ニ依リ金貨ノ支拂ヲナスコトアルベキコト。

第三 日本ノ公債ハ未ダ海外ニ於テ取引ナシト雖ドモ、日本首府及他ノ市府ニ於テ毎日現取引及ビ定期取引アレバ確實ヲ證スルニ足ルベキコト。

第四 公債ノ有高ハ每半年報告シタル如クナレドモ、軍事公債ノ發行高ハ未定ナリ。

第五 右取引開始ニ付キテハ政府ノ都合ニヨリ余自カラ英國ニ赴クコトアラン、然ルトキ取引所ニ對スルノ手續及ビ必要書類如何ノコト。

右ニ對スル返書ハ別紙原文及左記譯書ノ如ク、本年三月十七日ニ落手セリ。

倫敦取引所株引及公債局ニ於テ

千八百九十五年第一月四日

東京三田一丁目三十四番地南貞助君迄

拜啓千八百九十四年十一月三日附ノ貴翰正ニ受取り貴君ノ好良ナル總テノ希望ニ對シ相互ニ申述候。

貴君ノ提起セラル、五ヶ條ノ諮問ハ規則第三百三十三條ニ於テ包含シアルト相考ヘ候。其規則中左ノ通り、

「海外ニ於テ利子ヲ支拂フ公債ハ其公債發行高及ビ之レヲ創造シ並ニ發行スル國ニ於ケル公正相場等ヲ充分證明スルニ於テハ賣買ヲナスコトヲ得ベシ。」

貴翰ニ記載シアル始計第五條ニ對シテハ先例アリ、其最易ナル取ルベキ道ト思フハ、貴君諸件ニ代表シテ當取引所ノ會員タルモノヲ撰舉セラレ、此ノ諮問中始計アル件ニ係ル書類及充分

倫敦取引所ニ日本公債賣買ノ途ヲ開クコト



ノ證明書ヲ提携シテ此ノ事件ニ付余ニ對面ヲ請フベシト命ゼラルベシト思考致候（自筆ニテ記入）貴君ノ行ハント要セラル、事件ヲ成就セシムルニ付テハ六ヶ敷キコトハ些少アルカ或ヒハ無シトスベシ。

日本ノ輸出入、歳出入、公債等ニ係ル統計報告ハ他ノ外國ハ既ニ大概ハ報告ヲ受ケタレドモ今ニ受取不申、又貴君御承知ノ既ニ數年前約束トナリタル日本ノ病院及ビ瘋癲病院ニ係ル書類ハ今ニ何タル報告ヲ受取ラズ、之レハ印刷ニ付セラレツツアルト了解ス、戰爭ハ日本當局者ノ氣付ヲ吞入シタルト余ハ推量スルト雖ドモ、彼ノ病院及ビ瘋癲病院及經濟報告統計ニ、余自身ニ向ツテ通報方ハ放擲ナカラシコトヲ望ム、貴君若シ此ノ事件ニ付確乎タルコトヲ返書シ與ヘラルレバ余ノ悦ブ處ナリ。

貴君ノ話サルル寫真ノコトヲ聞キテ價アルコト、存ジ候、其ノ時現ニ相對スルヨリ偶然ニ於テ尤モ得ルコトアル様ニ特ニ感ジ申候。

新年ノ好良ナル希望ヲ送り併セテ信義ヲ乞。

ヘンリ・シ・パールヂト手記

此ノ返書ニ依テ該取引所ニ於ケル外國公債ニシテ元利ヲ其國ニ於テ支拂フ外國公債ヲ賣買スル規則ノ大體ハ其第三百三十三條ニ包含シアリトノ確答ヲ得タルモノニシテ、我公債モ該取引所ニ於テ賣買ヲ開始スルコトヲ得ルト確信ス。

英國ニ於テ之レヲ開始セバ佛獨米其他ノ各國取引所ニ開始セシムルハ亦易々ノミ。而シテ我公債ヲ歐米ニ於テ自由ニ賣買スルノ道ヲ開通セバ左ノ便利ヲ得ベシ。

- 第一 海外各國ノ金利ヲ平均シ我商工業ノ起ルノ利、
  - 第二 財政ヲ支配スルニ融通ノ場所廣キ便、
  - 第三 輸出入ニ依ツテ起ル硬貨ノ出入ヲ平均スル便、
  - 第四 軍用其他ニ付一時ニ多額ノ硬貨ヲ得ルノ利、
  - 第五 海外ニ我公債所有者ヲ得ルハ理財上交際厚重ナルノ利、
- 前述ノ如ク海外ニ我公債ノ賣買ヲ開始セントスルニ付テハ人或ヒハ云ハン、未ダ海外或ヒハ英國ニ於テ我公債一枚モ取引ナキ前ニ、取引所ニ於テ賣買ヲ開始セントスルハ出來ヌコトナリト、是レ蓋シ倫敦府ノ如ク世界ノ金融ヲ左右スル所ノ取引所ハ、世界ニ現在スル物件ニシテ其何國タルヲ問ハズ之レヲ賣買スルノ實力アルヲ知ラザルモノナラン。該取引所規則第六十一、二兩條ヲ履行セザル國ノ公債ハ賣買ヲ禁止スト、此ニ由ツテ之レヲ觀レバ右兩條ニ觸レザル外



國公債ハ總テ賣買ヲ許スノ規定ニシテ、物件ノ現在シ確實ヲ證明スル上ハ賣買ヲ開始スルヲ得ベシ。而シテ其取引方法ヲ略述スレバ受渡ノ日限ヲ定メ、定期賣買ヲ開始シ、其日限迄ニハ賣方ハ日本或ヒハ他ヨリ現物ヲ輸入シテ之レヲ渡スベシ、初メテ現品ヲ現在ニシ、從テ現取引ヲ實行スルニ至ルナリ。近ク之レヲ譬フレバ我株式或ヒハ米穀取引所ニ於テ東京市内ニ現品ヲ有セズト雖ドモ、期月物ヲ賣リ日限迄ニハ他府縣ヨリ輸入シテ受渡シヲナスガ如シ。又或ヒハ云ハン、銀貨公債ハ銀塊下落ノ爲メニ買得者ナカラン又買得者アルモ非常ノ廉價ナラント、是レ銀塊或ヒハ銀貨公債ノ相場ヲ推測シタル言ニシテ、元ヨリ確信スルニ足ラザルモノナリ。夫レ相場ナルモノハ高下常ナク、多クハ人ノ豫想ニ反スルモノニアラズヤ。故ニ至當ノ相場ヲ知ラント欲セバ倫敦取引所ノ如キ會員三千百余名ヲ有スル大場ニ於テ競争賣買ヲナサシメタル後、始メテ之レヲ知ルベクシテ決シテ一二名ノ裁斷ヲ得ルモノニアラズト信ズ。又或ヒハ云ハン、銀貨公債ヲ（新聞紙ニ廣告ノ手段ヲ以テ）擲賣スルハ將來日本ガ金貨公債ヲ募集スル時ニ於テ妨害アラント、元ヨリ一國ノ公債ヲ斯クノ如キ手段ヲ以テ拋賣スルハ我國體ヲ恥カシムルト同時ニ信用ヲ落スハ勿論ナリ、取引所ニ於テ賣買公認ノ上ハ先ヅ彼等ニ相場ヲ立タセ相當ト相認メタル時仲買ニ注文ヲナセバ安價ニ擲資スルコトナシ、注文ヲ發スルモ發セザルモ隨意ニ掛引ヲナシ得ルハ大相場所ニ於ケル賣買者ノ大便利ナリ。

右ハ大略ヲ記シ詳細ハ口頭ニ讓ル。

明治二十八年五月

南 貞 助



## 石炭外二項ノ鑑定價ニ對スル辯明

本年九月十二日附二通ノ輸入願書ヲ以テ英商フリント、キルビトヨリ願出タル半燒石炭ノ願書一通ノ分ハ、百噸ニテ原價六十四封三志四片、外一通ノ分ハ一〇三噸ト二十分ノ十七ニテ、原價六十六封十二志九片ニ有之、每噸ノ原價ハ三圓十三錢二厘ニ當リ候處、實品ヲ檢セシニ、其品位良好ノ者ニ有之、而シテ其原價ハ之レヲ他商ニ輸入シタル者ニ比スルモ低價ト鑑定致候ニ付、每噸五圓ノ割合ヲ以テ願書一通ノ分ハ五百圓ニ、外一通ノ分ハ五百十九圓二十五錢ニ鑑定價ヲ付シタル義ニ有之、他商ニ輸入シタル一二例ヲ舉グレバ、其仕入書原價ニハ每噸五圓十二錢又ハ六圓二十一錢ノモノモ有之以テ鑑定價ノ不當ナラザルコトヲ知ルベシ。

本月九月七日付二通ノ輸入願書ヲ以テ英國商ゼー、ダブリユー、ホールヨリ願出タル薄紙ハ願書一通毎ニ其品位異ナリ、一通ノ分ハ二百五十リームニテ、原價三十三封十志四片、一リームハ六十五錢四厘余リニ當リ、外一通ノ分ハ二百五十リームニテ、原價二十七封八志六片、一リームハ五十三錢五厘余リニ當リ候處、該品ハ其品質量好ノモノニシテ低價ナリト鑑定致候ニ付キ、一通ノ分ハ每リーム八十五錢ノ割合ヲ以テ二百十二圓五十錢ニ、外一通ノ分ハ每リーム七十錢ノ割合ヲ以テ百七十五圓ニ鑑定價ヲ付シ收税シタル義ニ有之候。其後同月十九日付ヲ以テ右同商ヨリ願出タル薄紙ハ、當該者實品ヲ檢シ之レヲ原價ニ照シ相當ナリト鑑定致候故ニ、仕入書面ノ原價即每リーム六十五錢四厘余ノ割合ヲ以テ其儘收税通關ヲ許シタル義ニ有之、彼レハ之レヲ前回ノ分ト同一ノ品ナリト主張致候ヘドモ、既ニ納税シテ現品通關後ノ今日果シテ彼ガ言フ如ク同一ノ品位ノモノナリシヤ否ヤ之レヲ知ルニ由ナシ。

本年九月二十九日附ノ輸入願書ヲ以テ英商ビセツトヨリ願出タルコルク板五十打ハ、仕入書未着ノ趣ヲ以テ從來實行セル書式ノ願書（其要ハ仕入書未着ニ付税關鑑定價ヲ以テ通關ヲ請フ鑑定價ニ不服ノ節ハ税關倉庫ニ預ケ置云々ト記スルモノ）ニ署名シ、之レヲ輸入願書ニ付貳シ其願書ニハ原價六弗ト記載シテ差シ出タルニ、實品検査ノ後之レニ七十五圓ノ鑑定價ヲ付シタリ。然ルニ右商社雇清人則本品輸入願書ニ記名シタル者ヨリ之レヲ本社ニ告グ、本社ハ再鑑定ヲモ求メズ、突然之レヲ税關ニ賣却スベシト申立タリ。此時恰カモ其七十五圓ヲ付シタルハ違算ナリシヲ覺舉シ、且仕入書ナキニヨリ今直ニ鑑定估價ヲ以テ之レヲ買上ルコトヲ得ザル云々ヲ諭示セシト雖ドモ、更ラニ之レヲ肯ゼズ、且云ク、事ヲ領事ニ告グベシト、然ルニ十月五日同國代理領事ホール來關小官ニ面晤ヲ求メ、前件ノ事ヲ以テス、故ニ答フルニ前述ノ次第ヲ述



べ、再鑑定シテ荷主ノ満足ヲ得セシムベシト、領事諾シテ去ル（領事ハ此事ヲ記憶スベシ、然ルニ其後更ラニ此事ヲ此覺書ニ云起セリ）其後十一月二十日再鑑定ヲ實行シ、拾二圓ノ估價ヲ以テ收税通關落着セリ。右ノ次第ニ有之候處、今回同領事覺書中ニ由レバ（該品ハ一打ノ價一志二片ニシテ尙ホ其内ヨリ多少ノ割引ヲ除去セラルベシ云々）トアリ、是レニ由テ觀ルニ最初同社ノ申立直段六圓ハ其相當ニアラザリシヲ知ル、且ツ一志二片ニ幾分ノ割引ヲ爲セバ殆ンド本關再鑑定ノ直段ト符合スルヲ以テ其評價ノ充當ナルヲ證スベシ。

右鑑定吏ニ於テ取扱ヒタル事實ニシテ、各輸入人ハ既ニ其當時其増價ニ服シテ通關後ノ今日ニ至リ不服ヲ唱フルベカラズ、假令其不服ヲ訴ルモ税關ニ於テハ過去ノ今日當時ノ實品ヲ檢スルノ術ナキ故、之レヲ更ラニ回復スルヲ得ズ。然レバ此三項ハ單ニ例ヲ擧ゲテ今後如此増價勿ランコトヲ請求スル義ト相見エ候。又未文ニ擅ニ價格ヲ定ムル云々トアレドモ、上文ニ述ル如キ事實ニシテ擅ニ價ヲ定メタルモノニ非ラズ、又税則ノ明文ニ背キタル義ニモ無之候ヘバ將來ニ向テ條約第十五條ニ對シ別ニ其ノ處置ヲ改ムベキノミ。固ヨリ貨物ノ價値ハ其品質ノ精粗、良否、需用供給ノ消長、嗜好ノ變遷其他種々ノ原因ニ由テ時々動搖浮沈スルノ状態ナレバ、從價税ナルモノハ定額税（同種品ニシテ劣等品ニ對シ優等品ハ間々三四倍ノ原價ヲ有スルモノ少カラズ然ルニ尙ホ一同ノ課税ヲ受ク）ノ如ク機械様ニ前後優劣一定ニ課税シ得ベキモノニアラ

ズ。從價税ハ貨物價格ノ動搖ニ從フヲ以テ稍其平均ヲ得セシムルガ爲メ審査鑑定スルモノナリ。而シテ其増價ヲ爲シ得ル所ノ條約第十五條ハ輸入高ノ方ニハ不相當ニ價値ヲ低下ニ書出セバ買上ゲラルルノ恐アリ。税關ノ方ニハ不相當ニ増價ヲ付スレバ之レヲ買入ルヲ得ザルノ危険アリ、以テ双方ヲ檢制シテ價値ノ中正ヲ得セシムル公正無私ノ法規ニシテ、此法規ノ存スル以上ハ其時其物ノ景況ニ因リ税價ヲ定ムル者ナレバ、貨物ヲ買上グルノ場合ニ逢フノ萬一ヲ保タザルハ固ヨリ避クベカラザル義ニ有之候也。



## 臨時置局ノ上官有地所分ノ建言書

我全國ノ地積ハ惣反別貳千八百八拾貳萬九千六百五拾九町步餘ニシテ(第五統計年鑑十  
七年ノ調ニ依ル)此内民有地ハ田畑宅地鹽田山村原野等合反別壹千貳百六拾七萬三千三百六拾三町步餘ナルヲ以テ(第五統計年鑑十七年ノ調ニ依ル)差引反別壹千六百十六萬三千八百拾七町步餘ハ官有地ノ姿ナレドモ、目今官有地ノ簿冊ニ登録シタル反別ハ六百四拾七萬六千貳百六拾貳町步餘トアリ(第五統計年鑑十  
七年ノ調ニ依ル)然ルトキハ殘反別九百六拾八萬七千五百五拾五町步餘ハ官民共記帳外ノモノナリ。此記帳外ノ反別ハ目下其筋ニ於テ取調中ノ由ナレトモ、民有地ノ中ニモ山林原野ニハ幾千カ延反別アルベキヲ以テ、官民地ヲ互ヒニ全地積ノ半數宛ト認定セバ中ラズト雖モ遠カラザルベシ。而シテ民有合反別壹千貳百六拾七萬三千三百六拾三町步餘ノ土地ヨリ生ズル租稅ハ四千萬圓以上ニ上リ、此稅額ハ我政府ノ財本タリ。然ルニ全地積半數ノ官有地ハ之ヲ拋擲ニ委シ、空シク看過スルハ國家經濟ノ道ヲ盡シタリト云ヒ難シ。故ニ之ヲ利用スルノ道ヲ考究スルハ今日ノ急務タリ。豈猛省セザルベケンヤ。抑モ從來官有地ノ取扱ヒハ重ニ農商務省山林局ト各地方廳ニ於テ之ヲ管理セリ。其山

林局ニ於テ直轄スル官林ハ林區署ニ置キ之ヲ總轄シテ其事業ヲ掌握スト雖モ、鄙見ニ依ルトキハ甚ダ其當ヲ得ザルモノノ如シ。蓋シ山林ノ事タル土地交換分合ノ方法ヲ行ハズシテ(官民地境  
界犬牙錯雜ノ箇所及隣地ヲ合併セザレバ不都合ノ箇所又ハ官地ノ内ニ孕ミタル民地等ハ土)目今ノ計畫ニ隨ヒ拳大數萬ヶ所地ヲ交換シ或ハ民地ヲ買上ゲ地形ヲ整頓シテ林務ノ計畫ヲ便ナラシムルヲ云フ)別紙靜岡縣下ノミニ付調査シタル官(林ノ反別及ビ箇所ノ數ヲ見ルベシ)ノ山林ヲ此儘墨守スルトキハ非常ノ手數相掛リ從ツテ莫大ノ吏員ヲ要シ(當時山林局員奏任二十一人判任七百三十五人此外林局  
限リノ雇員若干名アリテ殆ソト總員千人ニ滿ルナラン)俸給其他ノ費用相嵩ミ收支償ハザルヲ以テ、勢ヒ良林ヲ伐採シテ之ヲ賣却シ、其不足ヲ補ハザルヲ得ズ。故ニ到底山林ノ實益ヲ見ル事能ハザルハ明白ナリ。又地方廳ニ於テハ未直轄ノ官林及ビ原野荒撫地等一切ノ官有地ヲ官轄スト雖ドモ、各府縣管理ノ方法統一ナラザルヲ以テ、各自ノ考案ニ任セ區々ノ取扱ヒアリテ將來之ヲ利用スルノ計畫ニ妨グアルノミナラズ、此儘ニ經過セバ實地ノ事復タ綜ムベカラザルニ至ルベシ(從前官地貸下及拂下ゲハ政府ニ於テ之ヲ處分スルノ設ケ完全ナラザルト其手續キノ繁重ニ過ギ煩ハシキニ堪ヘ  
ザルトニ由リテ中等以下ノ農商ハ之ヲ利用スル事能ハズ只狹狹漢ノ輩斷スル所トナルノミ依テ今後ノ取扱ヒハ其  
手續ヲ簡略簡明ニシテ普ク之  
ヲ利用スルヲ得セシムベシ)例ヲ舉レバ別紙圖面ノ如ク官有地ノ中ヲ犬牙錯雜星散シテ貸渡シ或ハ拂下ゲヲナスガ故ニ、餘ス處ノ間隙地ハ不體裁ノ形ヲ呈シ、又ハ反別些少ノモノトナリテ之ヲ人民ニ與ヘント云フトモ民地編入ノ上ハ租稅其他ノ負擔アルヲ以テ甘受セザルニ至リ、終ニ棄損ノ地トナルベシ。如此棄損ノ地ヲ生ズベキ取扱ヒヲナシ、延テ全國ニ及ボストキハ大ナル國損ヲ起サン。畢竟地方官ニ於テ官有地ノ全體ヲ計畫スルニ至ラザルハ、他ナシ公務ノ繁忙ナル



ト、未ダ實地ヲ計畫スルマデノ命令ナキト、其費用ノ備ラザルニ依レリ。熟考スルニ牧民官ノ情ハ管下人民ト密接シ情實先キニ立ツモノナルガ故ニ、官有地ヲ管轄シ或ハ之ヲ處分セシメラル、ハ策ヲ得タルモノニ之有間敷ト存候。右ハ從來官有地取扱ノ成跡ナリ、然ルニ今之ヲ悉皆御料地ニ受領シ、御料局ニ於テ夫々其處分ヲナサンカ、各官有地ハ其境界甚ダ不分明ナルヲ以テ、或ハ官民所有ヲ争ヒ詞訟ニ渉ル事モ亦免ルベカラズ、然ルトキハ

帝室ノ御德望ニモ關スルヲ以テ、別ニ之ヲ統轄シ處分スルノ臨時局ヲ設ケ、夫々整頓スルニ如カズ、則チ地租改正ノ際臨時事務局ヲ置カレタルノ例ニ準ジ、內閣へ臨時ニ官地事務局ヲ設ケテ正副總裁ヲ置カレ、其他ノ官吏ハ現今農商務省山林局員及ビ內務省地理局中荒撫地等ノ事ヲ取扱ヒシモノヲ悉皆臨時局員トナシ、又各地方廳ニ於テ從來官地取扱ヒノ事ヲナシタルモノハ何レモ之ニ兼務セシムベシ。而シテ官有地第一種第二種第四種及ビ道路堤塘溝梁池澤湖沼河海官設鐵道敷地等ヲ除ク外、一切ノ官有地ヲ官地事務局ニ於テ一時之ヲ總轄シ、然ル後有名ノ勝地舊跡並ニ水源涵養土砂扞止風防等ノ如キ國土保安ニ關スルモノハ之ヲ再ビ地方廳ノ管理ニ付シ、百町歩以下ノ官地及ビ社寺ノ土地ハ不殘之ヲ賣却シ(帝室又ハ政府ニ於テハ大町歩ニシテ人民一己ノ力ニ及バザル土地ヲ利用シ小反別ノモノハ之ヲ拂下ゲ民力ヲ盡サシムトキハ自然租稅モ進ミ民產モ増殖シ官民ノ利則チ國益ナリ又社寺土地ハ百町歩以上ト雖モ已ニ保管スベキ神官僧侶モ有之ノミナラズ社景ノ風致伐木等ニ關スル事ハ內務省ニ於テ取締リ致シ居候間此際拂下ゲニ相成可然見込ミ)官民土地交換分合ノ資ニ充テ殘餘ノ分ハ之ヲ海防費ニ加フベシ(多分殘餘アル)又百町歩以

上ノモノハ之ヲ實地ニ臨檢シ、土地交換分合ノ事ヲ行ヒ大町歩ノ箇所ヲ纏メ彼是撰拔シテ

帝室ノ御財產ニ備フベキモノハ之ヲ御料局ニ受領シ、又政府ノ所有トナスベキモノハ之ヲ其至當ノ官衙ニ附スベシ。前陳ノ方法ヲ以テ官有地ノ處分ヲナストキハ別ニ吏員ヲ要セザルノミナラズ、事業整頓スルニ從ヒ、順次不要ノ官吏ヲ廢止スルトキハ從來官地ニ屬スル所ノ經費ハ全ク減少シテ終ニハ官地ヨリ巨額ノ收益ヲ見ルニ至ルベシ。以上陳述スル所ハ僅カニ鄙見ノ綱領ヲ認メ進呈候ニ付、詳細之儀ハ尙蒙御下問度然ルトキハ夫々明細ニ答申可仕候右謹テ建言候也。

但本議ハ帝室御財產ニ備ヘラルベキ地所ノ議ニツキテ起案候事故、官有地處分ノ如何ニ依リテハ御財產上ニ就キ將來關係不尠候間、臨時官地事務局ヲ置カレ候節ハ是非トモ御料局員ハ兼勤候様相成度此段添申候也。

明治二十年九月

御料局長官 肥田濱五郎 印

內閣總大臣伯爵 伊藤博文 文殿  
宮內大臣子爵 土方元殿



## 官有地保存ノ議

井 上 毅

官有地ハ之ヲ保存スベキカ將タ之ヲ賣却シテ人民ノ私有トナサシムベキヤ、是古來經濟學上ノ一大問題ニシテ、國家ノ財政中亦重大ノ關係アル事件ナリ。歐洲諸國ニ於テ輒近二十年以來ハ經濟學者ノ論、概ネ官有地保存說ニ傾ムキ、各國政府モ亦多クハ官地官林ノ保存ヲ主トシ、往時ノ如ク濫リニ賣却セザル事トナレリ。我日本ニ於テ經濟ノ學理ヲ論ズル者概シテ彼ノ百年前盛ンニ歐洲ニ行ハレタルアダムスミス氏ノ舊說ヲ祖述スルニ過ギザルヲ以テ、或ハ其說ノ爲ニ國家ノ事ヲ謬ラントスルノ恐ナキニアラズ。故ニ今其說ノ謬妄ナル所以ヲ明カニシ、併セテ官有地ノ保存セザルベカラザル理由ヲ論ゼントス。

アダムスミス氏派ノ說ハ三四十年前マデ盛ンニ行ハレ、各國政府モ亦實際此說ニ謬ラレテ頻リニ其官有地ヲ賣却シタリ。例之ハ奧國ノ如キハ千八百十八年乃至五十一年ノ間ニ二千五百萬「フロレン」(我一千九百拾八萬圓餘)ノ官有地ヲ賣却シ、千八百五十五年ニハ國債償還ノ爲メ面積百五拾方里代價壹億五千六百萬「フロソソ」(我八千貳百萬圓餘)ノ官有地ヲ國立銀行ニ托シ、追次分割シテ賣却セシメタリ。其外同年ニ於テ官有鐵道ヲ二億法(我五千貳百六拾萬圓餘)ニテ佛國ノ資本金ニ賣渡シタルトキニハ、其鐵道ニ附屬スル官有地拾壹萬四千「ヘクタール」(我四拾五萬六千町)ヲモ合セテ讓與シタリ。其後廣大ナル山林ヲ賣却スルコト屢々ニシテ、今ハ奧國ノ西部ニ官有地ナキニ至レリ。博士スタイン氏曰ク、奧國政府ハ斯ノ如ク巨大ノ官有地ヲ續々賣却シタルニモ拘ラズ、遂ニ其財政ヲ整理スルコト能ハザリキト、孛國モ亦千八百四拾年迄ニ三千五百五十萬「ヘクタール」(我貳千六百萬圓)ノ官有地ヲ賣却シタリ。

然ルニ輒近政治法律ノ學ト共ニ經濟學大ニ進歩シ、殊ニ千八百七十年頃ヨリ以後ハ經濟ノ管理其面目ヲ更新シ、既往ノ學說ノ謬謬ヲ正シタリ。官有地ノ保存ニ關シテ現時歐洲學者ノ議論ヲ聞クニ、曰ク國家ニ官地官林ノ如キ官業益金アルトキハ之ヲ政費ノ一部ニ充ツルヲ以テ幾分ノ租稅ヲ輕減スルコトヲ得、殊ニ各國租稅ノ重キヲ訴フル今日ニ於テ、斯ノ如キ收益アルハ國庫ノ爲メニ緊要ナリトス。彼ノ官業ハ人民ノ營業ヲ妨害ストノ說ハ甚ダ謬レリ。何トナレバ政府ニ於テ其土地ヲ小作人ニ貸與シ、又ハ借地トナシ、役員ヲ置キテ之ヲ支配セシムルトキハ大地主若クハ會社ノ爲ス所ニ異ナルコトナク、政府ノ役員勞夫必ズシモ大地主若クハ會社ノ役員ニ劣



ルモノニアラズ、却テ官業ニ役セラル、人員ハ私人ニ雇使セラル、者ヨリモ一層安全ノ地位ヲ有スレバナリ。且ツ民業ニ於テハ資本ノ缺乏、技術ノ不完全ナルヨリ其得ベキ利益ヲ收ムルコト能ハザルノ短所アリ、其他山林及交通運輸ノ事業ニ至テハ財政上ノ利害ヨリモ寧ロ社會上政治上ノ大關係アリ、此等ノ事業ハ政府ニ於テ必ず直接ニ管理スベキモノニシテ人民ノ私業ニ放任スベカラズ。

又官有地ヲ賣却シテ國債ヲ償還スベシトノ論ハ國家永久ノ經濟ヲ知ラザルモノナリ。抑モ一國經濟ノ進歩スルニ從ヒ、貨幣ノ價格即チ國債ノ價格ハ低落スルモノナリ。此ニ反シ土地ノ價格ハ漸次ニ騰貴スルヲ常トス。然ルニ目下ノ負債ヲ免レンガ爲メ、他日ノ巨利ヲ捨テテ土地ヲ低廉ニ賣却スルハ、生命ノ長キ國家ノ爲メ損失ヲ被ラシムルモノト謂フベシ。況ンヤ人民資本乏シキ時、即チ地價ノ低廉ナル時ニ匆卒官有地ヲ賣却スル如キハ國家ノ不利此上ナカルベシ。官有地ハ又農業改良ノ用ニ供スルニ最適當ノモノタリ、政府模範ノ耕牧地ヲ作り農民ヲ勸導スルニ缺クベカラザルモノナリ。

且耕地牧場ノ官有地ハ之ヲ人民ニ貸與シ、政府ハ唯其借地料ヲ徵收スルヲ以テ經濟上得策トスルモ、官林ハ然ラズ、政府直接ニ管理セザルベカラズ。是レ特ニ學問上ノ論タルノミナラズ各國ノ實際ニ於テ然ルナリ。抑モ山林ハ水源ヲ作り季候ヲ調ヘ或ハ海潮ヲ防ギ堤防ノ崩壞ヲ支

ユル等ノ用ヲ爲スモノナレバ、政府ハ現在ノモノヲ保存スルノ外、亦土地ノ情況ニ由テハ新ニ地所ヲ購買シテ之ニ樹木ヲ植付ケザルベカラザルノ場合アリ。此等ノ事政府ニアラズンバ他ニ之ニ任ズベキモノナシ。之ニ反シテ其山林若シ私人ノ所有ナレバ、私業ノ性質トシテ自己ガ收益ヲ主トシ、一般ノ利害ヲ顧ミズ、政府或ハ山林法ヲ設ケテ其濫伐ヲ防グコトヲ得ルモ、其効力ハ政府自ラ之ヲ所有スルノ確實ナルニ如カズ、又國家ノ生命ハ一個人ノ生命ニ比シテ甚ダ長久ノモノナレバ、國家ハ現在臣民ノ子孫ノ爲メニモ永遠ノ計策ヲ爲サザルベカラズ。山林ノ業タル巨大ノ資本ヲ放置シ、數十年ノ星霜ヲ經ルニアラザレバ其結果ヲ望ムベカラザルモノナレバ、一私人ノ力ノ能ク企及スベキモノニアラズ。

一私人ヲシテ其生存中ノ利益ヲ捨テ百年ノ計ヲ爲サシムル如キハ到底期スベカラザルモノナリ。右ノ如ク今日歐洲ノ經濟學者皆官有地保存論ヲ唱ヘタルヨリ、政事家ノ履行スル所亦之ニ傾向シ、現在ノ官有地ヲ保存スルノミナラズ、或國ハ從前賣却シタル土地ヲ更ニ買戻スモノアリ。

獨逸諸國ニ於テ近年官林ノ増加シタル割合左ノ如シ。

|         |         |         |                |
|---------|---------|---------|----------------|
| 宇       | 漏       | 生       | 現在ノ官林ニ對シテ増加ノ割合 |
| 千八百六十七年 | 千八百七十三年 | 千八百七十四年 | 〇、一九%          |
| 千八百四十四年 | 千八百六十八年 | 同       | 〇、二四%          |

官有地保存ノ議



|     |         |   |       |
|-----|---------|---|-------|
| 瓦敦堡 | 千八百六十七年 | 同 | 〇、二三% |
| 巴丁遜 | 千八百五十六年 | 同 | 〇、二九% |
| 索遜  | 千八百七十四年 | 同 | 〇、三七% |

(ワグネル氏財政學一卷四五〇葉)

而シテ又官有地ハ成ルベク之ヲ保存シ、濫リニ賣却セザランガ爲メ、憲法中ニ特ニ明文ヲ掲  
 ゲ「凡ソ官有地ハ國會ノ承認ヲ經ルニアラザレバ賣却スベカラズ」ト定メタリ(巴威里亞憲法  
 第七章十八條、索遜憲法第十八條瓦敦堡憲法第七條、巴丁憲法第五十八條其ノ他ハ略ス)  
 顧ミテ我國ノ官有地ヲ觀ルニ、維新以來殆ント賣却ノ一方ニ向ヒ、更ニ之ガ保存ヲ勉メズ、  
 又之レガ收益ノ有無ヲ顧ミザルモノ、如シ。

現在ノ官有地ハ四百六拾四萬町餘アリテ、之ヲ歐洲諸國ノ官有地ニ比スレバ狭少トセザルモ  
 從來之ヲ放擲シタルガ故ニ其收益一年貳拾四萬圓餘明治二ニシテ、歲入總額ノ三分ノ一ニモ  
 足ラザルノミ。今試ミニ歐洲諸國ノ官有地收入ヲ觀ルニ、英國及伊太利ヲ除ク外多キハ歲入總  
 額ノ三割ニ上リ、少クモ其一分五厘ヲ下ラズ、即チ左表ノ如シ。

|    |                  |       |
|----|------------------|-------|
| 瑞典 | 歲入總額ニ對スル官有地收入ノ割合 | 三四、五% |
|----|------------------|-------|

|                               |        |                                |
|-------------------------------|--------|--------------------------------|
| 孛漏生                           | 一〇、一%  |                                |
| 希臘                            | 一〇、〇%  |                                |
| 瑞西                            | 八、〇%   |                                |
| 巴威里亞                          | 一九、六六% |                                |
| 白耳義                           | 四、〇%   |                                |
| 佛蘭西                           | 二、五%   | (千八百八十一年ノ官有地收<br>入貳千五百九十壹萬二千法) |
| 伊太利                           | 〇、六%   |                                |
| 大貌烈顛                          | 〇、五%   |                                |
| 露斯亞                           | 一三、六%  |                                |
| 又獨逸諸國ノ官業益金ヲ其營業資本ニ對比スレバ割合左ノ如シ。 |        |                                |
| 孛漏生                           | 官業益金   | 營業資本ノ六割六分                      |
| 巴威里亞                          | 同      | 五割六分                           |
| 索遜                            | 同      | 七割七分                           |
| 瓦敦堡                           | 同      | 三割七分                           |
| 巴丁遜                           | 同      | 五割八分                           |

官有地保存ノ議



此ニ又一ノ問題アリ、即チ日本現在ノ官林ヲ地方自治體ニ分與シテ其基本財産ト爲サシムルノ考案是ナリ。

官有地ヲ分割シテ地方自治體ノ財産タラシムルノ議ノ由リテ起ル所ヲ尋ヌルニ、蓋シ我國ノ郡村ハ歐洲各國ノ自治體ニ於ケルガ如キ確タル財産ナキヲ以テ、充分ノ自治政ヲ行フ能ハザラシ歟ト憂慮シタルニ原因スルナルベシ。此考案タル全國ノ經濟上ニ於テハ決シテ策ノ得タルモノニアラズ。今官林ヲ町村郡區ノ共有物トナスニ當リ、其伐採培養ノ事ヲ舉ゲテ自治體ノ自由ニ任スルトキハ濫伐ノ惡果忽チニシテ生ズベシ。顧フニ此論ノ主張者ハ其自由ニ任セズシテ嚴重ナル制限ヲ加ヘント欲スルナルベシ。既ニ制限ヲ加ヘテ濫伐ノ害ヲ豫防セント欲スレバ、政府之ガ監察ヲ密ニセザルベカラズ。宜ナル哉近時佛國及獨逸國ニ於テ町村及組合ノ共有ニ屬スル山林ハ往々其管理ヲ中央政府ニ委託シ、或ハ中央政府ヨリ一定ノ條件ヲ設ケ、此ノ條件ニ從ハザル町村有ノ山林ハ政府直接ニ之ヲ管理スルコト、是レ嚴ナル山村法ヲ以テ之ヲ檢束スルヨリモ寧ロ政府直接ニ管理スルヲ以テ優レリトスレバナリ。我國ニ於テモ若シ果シテ郡村ニ山林ヲ共有セシムレバ他日必ズ獨佛ニ於ルガ如ク嚴法ヲ以テ檢束スルノ煩雜ニ苦シミ、政府直接ノ管理ヲ優レリトスルニ至ルベシ。

此ニ反シテ法律ヲ寬ニシ、自治體ヲシテ自由ニ賣船讓與質入書入等ヲ爲サシメンカ、果シテ

然ル時ハ其山林ハ基本財産タラズシテ忽チ奸商ノ轉賣トナルニ至ルヤ知ルベシ。

且ハ夫レ歐洲諸國郡村有ノ山林ハ古來ノ沿革ニ由リ既ニ久シク其財産トナレルモノナルニ依リ、沿革ヲ異ニスル他國ノ企及スベキモノニアラザルモノアルニ、猶現在其所有權ヲ郡村ニ存シ、其管理ヲ政府ニ委スル便法ヲ取ラントス。然ルニ今我が國ハ何ヲ苦ミテ官有ヲ廢シ村有トナサントスルヤ、山林ノ官有ナルハ山林經濟上無上ニ便益ナルニ、何故ニ殊更此便益ヲ棄テ村有ノ不便ヲ取ラントスルヤ、其他官林ヲ郡村有トナセバ之ヲ郡村ノ共同使用ニ供スルカ、共同使用ノ山村經濟ノ甚ダ有害ナルハ論ヲ俟タズシテ知ルベシ。然ラザレバ之ヲ他人ニ貸與シテ借林料ヲ徵收スルカ、是レ亦山林經濟ノ爲メ最不便トスル方法ナリ。凡ソ山林ノ經濟ハ多年山林學ヲ專修シタル技師ヲ得ルニアラザレバ、之ヲ全クスルコト能ハザルナリ。斯ノ如キ技師ヲ得テ相當ノ收益アルヲ期スルハ今日ニ於テ獨リ政府ノ力以テ之ヲ爲シ得ルノミ。

要スルニ日本ニ於テハ從前經驗シタル官有地賣却ノ濫弊ニ戒心シ、兼テ海外各國ノ例ヲ龜鑑トナシ、自今大ニ其保存ト管理トヲ務メ、濫リニ賣却スルコトナク、若シ已ムヲ得ズシテ賣却セントスルトキハ必ズ議會又ハ樞密院ノ議ヲ經テ始メテ之ヲ決スベシトノ法制ヲ定メラレシトヲ冀フ。



## 官林保護ノ建議

山林ノ國家ニ必要ナルハ茲ニ喋々ヲ要セズ、官林保護ノ從ツテ緊急ナル亦嘔々ヲ須ヒザルナリ。然ルニ今日尙未ダ其保護ノ周到ナラザルノミナラズ、或ハ却ツテ舊藩政ノ時ニ及バザルモノアルハ何ゾヤ、蓋シ曩昔ニ在テハ法制ノ嚴酷ト人情ノ醇厚ト相俟テ自ラ然ルモノアルベシト雖ドモ、職トシテ人民ニ於テ官林ヲ愛惜スルノ念慮深カリシニ由ルナリ。而シテ人民ニ愛惜ノ念深カリシ所以ノモノハ何ゾヤ、他ナシ各藩制度ノ異ナル、其間多少ノ寛苛良否ヲ殊ニスト雖モ、要スルニ官林ノ利益ヲ町村ニ分チシガ故、町村之ヲ愛護セシニ由ルノミ。

聞ク所ニ依レバ貴省ニ於テハ夙ニ林政ノ改良ニ銳意セラレ、我邦ノ慣法ト歐洲各邦ノ良法ヲ斟酌シ、今ヤ專ラ其計畫中ニ係ルト、其完全無缺ノモノタル期シテ俟ツベシト雖モ、安定私カニ謂ラク、我邦官林保護ノ法ニアリ、曰ク官之ヲ直轄シテ監守ヲ嚴ニスルナリ、曰ク人民ニ付托シテ官之ヲ監督スルナリ、而シテ其第一法タル是ハ則チ是ナリト雖モ、果シテ能ク實際ニ行ハルヤ否ヤハ安定未ダ保セザルナリ。何トナレバ監守ヲ嚴密ニセント欲セバ許多ノ費額ヲ要シ

其得以テ其失ヲ償フ能ハザルノミナラズ、犯罪者ヲ出ス愈多キトキハ人民ノ官林ヲ敵視スル益々深シ、甚キハ相謀シテ盜伐放火ノ惡業ヲ逞ウスル事曩ニ之ヲ滋賀縣ニ經驗シ、今復之ヲ本縣ニ實驗セリ。但推シテ以テ全國ヲ評スルハ或ハ早計ニ似タリト雖モ亦敢テ大過ナキヲ信ズルナリ。

然則第二法ハ果シテ實地ニ行ハル、ヤ、安定之ヲ保セント欲ス。何トナレバ舊藩中ニ在テハ概ネ下草落葉枯損木ヲ付與シ、官林ノ利益ヲ其町村ニ分チシガ故ニ、居民喜テ良木ヲ保護シ、官林ヲ視ル恰モ私林ノ如ク自ラ愛惜ノ情厚カリキ、而シテ偶々盜伐者アレバ相互ニ戒メテ深ク將來ヲ慎ミ若シ出火延燒等アレバ相率テ消防ニ勉ムル等之ヲ今人ノ官林ヲ視ル猶仇敵ノ如クニシテ盜伐ヲ圖リ放火ヲ企ツルモノニ比スレバ其差管千里ノミナラザルナリ。是ヲ以テ將來其町村若クハ其近傍町村ニ保護ヲ付托シ、其代償トシテ下草落葉又ハ蕈菌等ノ副産物ヲ付與スルノ法トナシ、官之ヲ監督スル嚴正ナレバ其勞費少クシテ効益ノ多キ固ク信ジテ疑ハズ。語ヲ換テ之ヲ言ヘバ、官林ヲ保護スルニハ單ニ法令ノミヲ以テセンヨリハ寧ロ官民間ノ契約ヲ以テシ、其犯則者ヲ處スルニ刑事ヲ以テセシヨリハ寧ロ違約者ヲ責ムルニ民事ヲ以テスルノ法ニ換ヘ、獨リ官ノミ其利益ヲ占メシヨリハ寧ロ人民ト其利ヲ分ツヲ得策ト認ムルナリ。

然而今之ヲ町村ニ付托スル細目ノ如キ素ヨリ一朝一夕ノ能ク盡スベキニ非ザルノミナラズ、



各地情狀ニ應ジ亦自ラ其方法ヲ同ウセザルベシト雖モ、要スルニ先ヅ土質氣候及運搬ノ便否需用ノ適否ヲ調査シテ、其地相當ノ主點ヲ定メ、又四至ノ境界及面積ヲ測量シテ精確ナル圖面ヲ作り、然ル後テ盜難監守火災消防苗木植繼藤蔓芟除枝條洗伐等其他保護ヲ要スル件ニ及ビ、下草刈取落葉搔探等利益トナルベキ件ヲ舉ゲテ其町村ニ開示シ、町村一致承諾ノ上ハ聯帶負擔ニ屬スル義務ヲ評記セシ受書ヲ徵シ違約者アレバ之ヲ責ムルニ償金ヲ以テシ、其再三ニ及デ改メザルトキハ更ニ他ノ町村ニ付托スル等ヲ要點トナスベシ。

斯ク論ジ來レバ人或ハ難ゼン、付托法ノ如キハ其事頗ル姑息ニシテ且陳腐ニ屬シ、到底今時ニ行フベカラズ、如カズ、歐洲ノ良法ニ倣ヒ、新ニ完全ナル林制ヲ立テンニハト、其レ然リ豈其レ然ランヤ。若シ難者ノ說ノ如ク歐洲ノ良法ヲ取テ我ニ移ストキハ、書面上ノ美ハ則チ美ナルベシト雖モ、恐ク實施上ニ支吾アラン。否書面上ノ美ハ一朝ニシテ移シ得ベキモ、積年ノ慣行ハ俄ニ破ルベカラザルヲ如何セン。假ニ積年ノ慣行ハ一朝ニ破リ得ルモ、恐ラク新林制ヲ實施スルノ費途ナカラン、否ナ林制ヲ施行スルノ費用アリトスルモ之ヲ償フノ利益ナキヲ如何センヤ、而ルヲ況ヤ積年ノ慣行ハ決シテ俄ニ破ル能ハザルヲヤ、又況ヤ新ニ林制ヲ布クノ費用不貲ニシテ之ヲ支ル容易ナラザルヲヤ。

以上具陳スル所ノ大要ハ安定平素ノ宿案ニシテ、今日百事更新ノ時ニ當テ之ヲ言フ、或ハ好奇慕舊ノ嗤笑ヲ取ルベシト雖モ、遠ク之ヲ既往ニ考ヘ、深ク之ヲ將來ニ思ヘバ、衷情自ラ之ヲ禁ズル能ハズ、是レ敢テ管見ヲ吐露スル所以ナリ。且社寺境外土地及鑛山用材官林ノ如キハ其社寺若シクハ坑業者ニ委託シ、其水源涵養土砂扞止等ノ國土保安ニ關スルモノハ風致官林ノ如キハ宜ク特別ノ方法ヲ用ヒ、必ズシモ一定ノ矩準ヲ要セズ、其取捨ニ至テハ閣下幸ニ擇ブ所アレ、謹デ建議ス。

明治十九年三月二日

島根縣令 籠手田 安定

農商務大臣子爵 谷 干 城殿



# 官有財産管理規定

明治二十二年五月

(長官)

(書記員)  
(調査員)

官有財産管理ノ規定ハ、憲法第十條ニ依リ勅令ヲ以テ發布スベキコト當然ナレド、官有財産ノ賣拂讓與貸付及交換ノ事ハ、政府ノ歳出入ニ増減ヲ及ボシ、政府ノ所有權ヲ他ニ移轉スルコトアルニ依リ、其事ノ重大ナルモノハ帝國議會ノ協賛ヲ經ザルベカラズ。又官有財産ノ賣拂貸付等ニ關リテハ、政府ノ所有權ト臣民ノ權利ト衝突シ、訴訟ノ基因ヲ爲スコトアルナキヲ以テ、之ガ爲メ一方ニ於テハ政府ノ所有權ヲ保全シ、一方ニ於テハ臣民ノ權利ヲ毀損セザルノ規定ヲ設ルハ緊要ノ事トス。其ノ他官民ノ間ノ契約ヨリシテ、國庫ハ賠償ノ責ニ任ゼザルヲ得ザルノ

場合アリ。凡ソ此等ノ事項ハ帝國議會ノ權限ニ關ルノミナラズ、亦臣民ノ私權ニ係ルモノナレバ、法律ヲ以テ之ヲ制定スルニアラザレバ有効ナル事ヲ得ズ。是ニ依リ大藏大臣提出ノ官有財産管理規則案ハ之ヲ二分シ、一ヲ法律トナシ、一ヲ勅令ト爲シ發布セラレベキモノト思惟ス。

## 法律案

朕官有財産法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

年 月 日

內閣總理大臣  
大藏大臣

法律第 號

(別紙修正案ノ通り)

## 勅令案

官有財産管理規定



朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

年 月 日

内閣總理大臣  
大藏大臣

勅令第 號

(別紙修正案ノ通)

法律第 號

### 官有財産法

第一條 此ノ法律ニ於テ官有財産ト稱スルハ政府ノ直管ニ屬スルモノニシテ左ノ種類ヲ謂フ。

第一 土地及之ニ屬スル諸權利

第二 森林及之ニ屬スル諸權利

第三 營造物家屋船舶

(以下朱書)官有財産ハ廣ク之ヲ言ヘバ政府ノ所有ニ屬スル一切ノ動産不動産ヲ總稱スルモノニシテ、金錢物件一トシテ漏ル、モノアルナシ、然レモ一大法律ヲ以テ一切ノ官有財産ヲ網羅シ之ガ規定ヲ設ルハ實際爲シ得ベカラザル事ニシテ、各國ノ制ニ於テモ亦甚ダ稀ニ見ル所ノ例ナリ。故ニ官有財産ヲ類別シ、其種類ニ從ヒテ各別ノ規定ヲ設ルハ獨リ普通ノ例ナルノミナラズ、亦能ク實際ノ便宜ニ適ヘ得ルモノトス。今ヤ金錢ニ關シテハ既ニ會計法アリ、動産ニ關シテハ物品會計規則アリテ各其ノ規定ニ缺ル所ナシト雖モ、獨リ官有ノ不動産ニ關シテハ未ダ何等ノ規定アラズ、就中其不動産ニ關シテ政府ト議會及人民トノ關係ハ議會開設ノ當日ヨリ其規定ヲ缺ク能ハザルモノトス。是レ本案ヲ要スル理由ノ一ナリ。而シテ本條ニ於テ特ニ官有財産ノ種類ヲ明記スル所以ノモノハ、一ハ此ノ法律ノ支配スベキ官有財産ノ何物タルヲ示シ、一ハ金錢物品ニ係ル規則ト區別アル所ヲ示シ、以テ疑義ナカラシメンガ爲ナリ。

「政府ノ直管ニ屬スルモノ」トアルハ、現令府縣所管ノ財産ニシテ官有民有ノ別未ダ判然タラザルモノ尠カラザルヲ以テ、此等ノ財産ハ本法ヨリ取除クノ意ナリ。但此ノ如キ財産ニシテ調査濟ノ上官有財産ニ編入シタルモノハ固ヨリ本法ニ依ラシム。



第二條 政府ハ毎年官有財産増減異同總報告書ヲ製シ、及毎十年官有財産總目錄ヲ製シ帝國議會ニ報告スベシ。

(以下朱書) 金錢物品ノ出納ニ關シテハ各主任官アリテ其計算書ヲ出シ、會計検査院ノ審査判決ヲ受クベキモノナリト雖モ、本法ニ掲グル不動産即チ土地森林營造物家屋船舶ニ在テハ、各省大臣之ヲ管理シ、別ニ責任官吏ヲ置カザルニ依リ、帝國議會ニ對シテハ政府ヨリ其増減移動ヲ報告スルニ止メタリ。但其報告ハ毎年歳入歳出ノ決算ト共ニ之ヲ議會ニ提出スルモノトナシ、而シテ其責任ハ大藏大臣及各省大臣之ニ任ズル而已。

毎年目錄ヲ議會ニ提出スルハ其ノ煩ニ堪ヘズ、故ニ増減異動ノ報告ハ毎年提出スルモ目錄ハ每十年ニ提出スルモノト定メタリ。蓋官有財産ハ凡ソ十年間ニ於テ増減異動スルコト尠カラザルベキニ付、其目錄モ亦從テ之ヲ改メザルヲ得ザルノ必要アルベシ。

第三條 國ノ公用又ハ官用ニ供スル官有財産ハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ズ。

前項ノ外ノ官有財産ハ本法ニ依リ賣拂讓與若クハ交換スル事ヲ得。

國ノ公用又ハ官用ニ供シタル官有財産ニシテ其用ヲ止メタルモノハ本法ニ依リ賣拂讓與若ハ交換スルコトヲ得。

官有財産ノ賣拂讓與交換及貸付ノ本法ニ違ヒタルモノハ無効トス。

(以下朱書) 各國ノ例ヲ按ズルニ、官有財産ノ類別各其ノ制ヲ異ニスト雖モ、之ヲ三種ニ區別スルハ最モ穩當ナリトス。即チ第一ハ政府ノ所有スル財産ニシテ、之ヲ國ノ公用ニ供スルモノ、例之ハ道路河川河岸城砦砲臺、兵器軍艦(公有財産)ノ如キ是ナリ。第二ハ官廳ノ使用ニ共スル財産ニシテ第一種ニ屬セザルモノ、例之バ官廳ノ地所建物及執務上必要ノ器械器具ノ如キ(行政財産)是レナリ。第三種ハ之ヲ利用シテ國庫收入ノ源ニ充ツルモノ例之バ土地森林作業場ノ如キ(利殖財産)是レナリ。

今本法ハ前記ノ區別ニ基キ、公用又ハ官用ニ供スル財産ハ賣拂讓與交換セザルモノト定メ、第三種ノ財産及公用官用ヲ廢シタル財産ニ限り之ヲ賣拂讓與交換シ得ルモノト爲ス。

第三項ハ官吏法律ノ適用ヲ誤リ、政府ノ損失ヲ引起サントスル場合ニ於テ官有財産ノ減耗ヲ豫防スルモノナリ。此一項ハ官有財産保存ノ爲ニ極メテ緊要ナリ。

第四條 左ニ掲グル官有財産ハ法律若ハ豫算ニ依ルノ外特ニ帝國議會ノ協賛ヲ經ルニ非ラザレバ賣拂若ハ讓與スルコトヲ得ズ。

第一 一區域ニシテ見積價格一萬圓以上若ハ拾萬坪以上ノ土地及森林

第二 見積價格壹萬圓以上ノ營造物家屋船舶

(以下朱書) 官有財産ノ離權ハ法律ノ結果トシテ之ヲ行フコトアルベシ。次ニ歳出入豫算ヲ掲



ダテ毎年議會ノ議ヲ經ルコトアルベシ。其外特別ノ必要アリテ之ヲ行フコトアルベシ。本條ハ乃チ第三ノ場合ヲ指シタルナリ。

官有財産ノ大小ニ拘ラズ、之ヲ離權スルニ當リ總テ議會ノ協賛ヲ要スルハ、行政ハ其ノ煩ニ堪ヘザルベシ。故ニ重大ナル財産ニ限リテ其協賛ヲ要スルコトニ定メタリ（此レ各國ノ例ニ倣ヘルナリ）而シテ其ノ土地ニ於テ議會ノ協賛ヲ要スルモノト要セザルモノトノ限界ハ、會計規則ニ定ムル見積價格ト面積トヲ以テ標準トナサシム。蓋壹ヶ所ニシテ拾萬坪以内ノ土地、森林ハ通常獨立ノ大經濟ヲ營ムニ足ラザルモノナレバ、便宜之ヲ賣却シ又ハ境界整理ノ爲メ民有地ト交換スル等專ラ行政上ノ便宜ニ任ゼントス。

第五條 前條ニ依リ賣拂ヒタル官有財産ノ代金ハ、其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシム、但賣拂代金十萬圓以上ノモノハ左ノ制限内ニ於テ年賦納ノ契約ヲナス事ヲ得。

第一 賣拂代金十萬圓以上五十萬圓未満ハ五個年以内、

第二 賣拂代金五拾萬圓以上百萬圓未満ハ十個年以内、

第三 賣拂代金百萬圓以上ハ十五個年以内、

（以下朱書）官有財産賣拂代金ハ一時ニ全額ヲ上納セシムルヲ以テ原則トナシ、獨リ巨大ノ金員ニシテ特別ノ事情アル場合ニ於テハ別段ノ契約ニ依リ制限内ニ於テ年賦納ヲ爲スノ餘地

アラシム。

第六條 官有財産賣拂代金全納ニ至ラザル間ハ買受人ニ於テ其財産ヲ他ニ賣拂又ハ讓與スルコトヲ得ズ。但買受人ニ於テ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ保證金ヲ納ムルハ此ノ限りニアラズ。

第七條 官有ノ土地森林ニ屬スル諸權利ニシテ、舊慣ニ依リ地元人民之ヲ使用スルトキ、若ハ從來政府ノ特許ヲ得テ之ヲ使用スル者アルハ、若ハ從來公衆ノ用ニ供スルトキハ其ノ諸權利ハ土地森林ノ買受人ニ屬セザルモノトス。

（以下朱書）土地森林ニ屬スル諸權利トハ伐木落葉下草牧畜漁獵鳥獸獵土石堀採礦泉利用ヲ云フ。

第八條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其貸付料ヲ徵收スベシ。但土地森林又ハ之ニ屬スル諸權利ニシテ、舊慣ニ依リ地元人民ノ使用スルモノハ從來ノ慣例ニ從ヒ貸付料ヲ徵收セザルコトヲ得。

第九條 土地森林ヲ貸付スルニ當リ其ノ土地又ハ森林ニ屬スル諸權利ヲ舊慣ニ依リ地元人民之ヲ使用スルハ、又ハ從來政府ノ特許ヲ得テ之ヲ使用スルモノナルハ、又ハ從來公衆ノ用ニ供スルトキハ其舊慣ヲ存シテ同時ニ貸付セザルモノトス。



第十條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ズ。但別段ノ法律ヲ以テ期限ヲ定ムルモノハ各其定ムル所ニ據ル。

第一 樹木培養ニ供スル土地ハ五十年以内、

第二 農工其他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内、

第三 土地森林ニ屬スル諸權利及家屋ハ五年以内、

第四 右ニ掲ゲタル物件ハ三年以内、

第十一條 官有財産ノ貸付期限内、貸付契約ヲ遵守シ、該財産ノ保存ノ忽ニセザルモノニハ滿一期後尙一期間前ノ契約ヲ繼續シテ該財産ヲ貸與スルコトヲ得。

第十二條 官有財産ノ貸付期間中政府ニ於テ其財産ヲ公用又ハ官用ニ供スルノ必要アルルハ、貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムベシ。

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其受ケタル直接ノ損失ニ付相當ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得。

第十三條 官有財産ノ借受人ハ政府ノ許可ヲ得ズシテ其財産原形ヲ變ジ、若シ故意怠慢ニヨリ之ヲ荒廢ニ歸シ、又ハ毀損凶失シタルトキハ相當ノ賠償ヲナスベシ。

貸付財産ノ修理其他費用ノ負擔ハ契約ノ際特ニ之ヲ定ムベシ。

第十四條 官有財産ノ借受人自ラ其財産ヲ使用セズ、他人ニ轉貸セントスルトキハ政府ノ認可

ヲ受クベシ。但第六條但書ニ據リ貸付料ヲ徵收セザルモノハ他ニ轉貸スルヲ得ズ。

第十五條 官有財産ノ借受人ハ其貸付料一個年分以上ニ相當スル保證金ヲ納ムベシ。

第十六條 從來ノ慣例ニ依リ地元人民ノ使用スル土地森林又ハ之ニ屬スル諸權利貸付ノ方法及貸付ニ關スル契約ノ條件ハ總テ舊慣ニ依ルコトヲ得。

第十七條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ評定價格相均キモノニ限ル。

營造物家屋船舶及其ノ附屬物器具器械ハ他人ノ所有物ト交換スル事ヲ得ズ。

(以下朱書)官有財産ノ交換ハ可成之ヲ行ハザルヲ原則トス。然レモ土地森林ノ如キ經濟上利益アル場合ニ限り之ヲ許ス。但シ交換者ノ一方ヨリ現物ノ不足ノ補償スルニ金額若クハ他物ヲ以テスルコトヲ許サズ。

第十八條 官有財産ヲ賣拂貸付若クハ交換スル場合ニ於テ、其財産ヲ管理シ若ハ其取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ノ交換スルコトヲ得ズ。

第十九條 官有財産ノ賣拂貸付及交換ニ關シ、官吏ト人民トノ間ニ起ル爭訟ハ民事裁判所ノ管轄トス。

第二十條 本法施行ノ前ニ官有財産賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ總テ舊契約ニ依ルベ



シ。

貸付ノ期限ナキモノハ本法施行ノ日ヨリ一個年ノ後本法ニ依リ更ニ契約ヲ爲スベシ。

第二十一條 本法ハ明治二十二年月日ヨリ施行ス、其ノ帝國議會ノ協賛ヲ經ベキモノハ議會開會ノ期ニ至ルマデハ樞密院ノ議ヲ經ベシ。

## 官有財産管理規則

第一條 此規則ニ依リ管理スベキ官有財産ハ官有財産法第一條ニ掲グルモノトス。

第二條 國ノ公用ニ供スル官有財産ハ此規則ニ依ツテ管理スルノ限ニ在ラズ。但其ノ公用ヲ廢シタルモノハ此規則ニ依リ大藏大臣之ヲ管理ス。

第三條 土地ハ大藏大臣之ヲ管理ス、但官用ニ供スル土地ハ各省大臣之ヲ管理シ其用終ルトキハ大藏大臣ノ管理ニ復セシム。

第四條 官有財産法第一條第二及第三ニ掲グル官有財産ハ各省大臣之ヲ管理ス。

第五條 大藏大臣及各省大臣ハ所管財産ノ一部ノ管理ヲ府縣知事ニ委任スル事ヲ得。

第六條 大藏大臣ハ土地ノ總目錄ヲ調製スベシ。

第七條 各省大臣ハ毎年三月三十一日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製スベシ。

第八條 大藏大臣ハ每會計年度間ニ於ケル土地ノ増減異動ヲ調査シ、翌年度六月三十日迄ニ其増減異動報告書ヲ調製スベシ。



第九條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ。

第十條 官有財産ノ増減異動報告書ハ其ノ理由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スベシ。

第一、買入ニ係ルモノハ其代價、

第二、賣拂ニ依ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其價格、

第三、讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ目錄價格、

第四、買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其條件、

第十一條 大藏大臣ハ官有財産増減異動總報告書ヲ調製シ、土地ノ増減異動報告書乃各省所管ノ官有財産増減異動報告書ト俱ニ帝國議會ニ報告ノ手續ヲナスベシ。

第十二條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在セル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ、六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ。

第十三條 大藏大臣ハ每十年官有財産總目錄ヲ調製シ土地ノ總目錄及各省所管ノ官有財産目錄ト俱ニ帝國議會ニ報告ノ手續ヲナスベシ。

第十四條 土地森林ノ賣拂讓與ハ大藏大臣之ヲ行フ、但林木ノ賣拂讓與ハ此限りニ在ラズ。

第十五條 大藏大臣土地又ハ森林ヲ賣拂若ハ讓與セントスルトキハ法律若ハ豫算ニ依ル場合ノ外ハ閣議ヲ經ベシ。

第十六條 此ノ規則第六條第七條ニ掲グル官有財産ノ目錄ハ明治二十二年 月 日迄ニ調製スベシ。

第一回ノ官有財産目錄ハ明治二十二年 月 日ノ現在高ヲ以テ之ヲ調製スベシ。

第十七條 此ノ規則ハ明治二十年 月 日ヨリ施行ス、帝國議會ニ關スルモノハ議會開會ノ後之ヲ施行ス。

従前ノ規則ニシテ此規則ニ抵觸スルモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ廢止ス。



# 官有財産法

議長

## (法律第 二)

第一條 國ノ公用又ハ官用ニ供スル官有財産ハ賣拂讓與又ハ交換スル事ヲ得ズ。

前項ノ外ノ官有財産ヲ賣拂讓與又ハ交換スル事ヲ得。

國ノ公用又ハ官用ニ供シタル官有財産ニシテ其用ヲ止メタルモノハ賣拂讓與又ハ交換スル事ヲ得。

(以下朱書)各國ノ例ヲ按ズルニ、官有財産ノ類別各其制ヲ異ニスト雖モ、之ヲ三種ニ區別スルハ最モ穩當ナリトス。即チ第一ハ政府ノ所有スル財産ニシテ、之ヲ國ノ公用ニ供スルモノ、例之ハ道路河川河岸城砦砲臺兵器軍艦(公有財産)ノ如キ是レナリ。第二ハ官廳ノ使

用ニ供スル財産ニシテ第一種ニ屬セザルモノ、例之ハ官廳ノ地所建物及執務上必要ノ器械器具ノ如キ(行政財産)是ナリ。第三種ハ之ヲ利用シテ國庫收入ノ源ニ充ルモノ例之ハ土地森林作業場ノ如キ(利殖財産)是ナリ。

今本法ハ前記ノ區別ニ基キ公用又ハ官用ニ供スル財産ハ賣拂讓與交換セザルモノト定メ、第三種ノ財産公用官用廢シタル財産ニ限り之ヲ賣拂讓與交換シ得ルモノト爲ス。第三項ハ官吏法律ノ適用ヲ誤リ政府ノ損失ヲ引起サムトスル場合ニ於テ官有財産ノ減耗ヲ豫防スルモノナリ、此ノ一項ハ官有財産保存ノ爲ニ極メテ緊要ナリ。

第二條 官有財産ノ賣拂讓與交換及貸付ハ總テ本法ニ依ルベシ。其本法ニ違ヒタルモノハ無効トス。

第三條 左ニ掲グル官有財産ハ法律若ハ豫算ニ依ルノ外特ニ帝國議會ノ協賛ヲ經ルニ非ザレバ賣拂又ハ讓與スルコトヲ得ズ。

第一、一區域ニシテ見積價格壹萬圓以上若ハ拾萬坪以上ノ土地及森林、

第二、見積價格壹萬圓以上ノ營造物家屋船舶、

(以下朱書)官有財産ノ離權ハ法律ノ結果トシテ之ヲ行フコトアルベシ。次ニ歳出入豫算ニ掲ゲテ毎年議會ノ議ヲ經ルコトアルベシ。其他特別ノ必要アリテ之ヲ行フコトアルベシ。本



條ハ乃チ第三ノ場合ヲ指シタルナリ。

官有財産ノ大小ニ拘ラズ之ヲ離權スルニ當リ、總テ議會ノ協賛ヲ要スルトキハ行政ハ其ノ煩ニ堪ヘザルベシ。故ニ重大ナル財産ニ限リテ其ノ協賛ヲ要スルコトニ定メタリ（是レ各國ノ例ニ倣ヘルナリ）而シテ其土地ニ於テ議會ノ協賛ヲ要スルモノト要セザルモノトノ限界ハ、會計規則ニ定ムル見積價格ト面積トヲ以テ標準トナサシム。蓋一箇所ニシテ拾萬坪以內ノ土地森林ハ通常獨立ノ大經濟ヲ營ムニ足ラザルモノナレバ、便宜之ヲ賣却シ又ハ境界整理ノ爲メ民有地ト交換スル等專ラ行政上ノ便宜ニ任ゼントス。

第四條 官有財産ノ賣拂代金ハ、其財産引渡ノ際一時ニ納付セシム。但土地森林營造物家屋船舶ノ賣拂代金拾萬圓以上ノモノハ左ノ制限内ニ於テ年賦納ノ契約ヲナスコトヲ得。

第一、賣拂代金拾萬圓以上五拾萬圓未満ハ五箇年以内、

第二、賣拂代金五拾萬圓以上百萬圓未満ハ十箇年以内、

第三、賣拂代金百萬圓以上ハ十五箇年以内、

（以下朱書）官有財産賣拂代金ハ一時ニ全額ヲ上納セシムルヲ以テ原則ト爲シ、獨リ巨大ノ金員ニシテ特別ノ事情アル場合ニ於テハ別段ノ契約ニ依リ制限内ニ於テ年賦納ヲ爲スノ餘地アラシム。

第五條 官有財産賣拂代金全納ニ至ラザル間ハ買受人ニ於テ其ノ財産ヲ他ニ賣拂又ハ讓與又ハ交換質入書入スルコトヲ得ズ。但買受人ニ於テ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ保證金ヲ納ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ。

第六條 官有ノ土地森林ニ屬スル諸權利ニシテ、舊慣ニ依リ地元人民之ヲ使用スルトキ若ハ從來政府ニ特許ヲ得テ之ヲ使用スル者アルトキ若ハ從來公衆ノ用ニ供スルトキハ其諸權利ハ土地森林ノ買受人ニ屬セザルモノトス。

（以下朱書）土地森林ニ屬スル諸權利トハ伐木落葉下草牧畜漁獵鳥獵土石堀採礦泉利用ヲ云フ。

第七條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スベシ。但土地森林又ハ之ニ屬スル諸權利ニシテ舊慣ニ依リ地元人民ノ使用スルモノハ從來ノ慣例ニ從ヒ貸付料ヲ徵收セザルコトヲ得。

第八條 土地森林ヲ貸付スルニ當リ其ノ土地又ハ森林ニ屬スル諸權利ニシテ、舊慣ニ依リ地元人民之ヲ使用スルトキ又ハ從來政府ノ特許ヲ得テ之ヲ使用スル者アルトキ、又從來公衆ノ用ニ供スルトキハ其舊慣ヲ存シテ同時ニ貸付セザルモノトス。

第九條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ズ。但別段ノ法律ヲ以テ期限ヲ定ムルモ



ノハ各其ノ定ムル所ニ據ル。

- 第一、樹木培養ニ供スル土地ハ五十年以内、
- 第二、農工其他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内、
- 第三、土地森林ニ屬スル諸權利及家屋ハ五年以内、
- 第四、右ニ掲ゲザル物件ハ三年以内、

第十條 官有財産ノ貸付期限中貸付契約ヲ遵守シ、該財産ノ貸付ヲ忽ニセザル者ニハ滿期後尙一期間前ノ契約ヲ遵守シテ該財産ヲ貸付スルコトヲ得。

第十一條 官有財産ノ貸付期限中、政府ニ於テ其ノ財産ヲ公用又ハ官用ニ供スルノ必要アルトキハ、貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムベシ。

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其受タル直接ノ損失ニ付相當ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得。

第十二條 官有財産ノ借受人ハ政府ノ許可ヲ得ズシテ其財産ノ原形ヲ變ジ、若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ、又ハ毀損亡失シタルトキハ相當ノ賠償ヲ爲スベシ。

貸付財産ノ修理其ノ他費用ノ負擔ハ契約ノ際特ニ之ヲ定ムベシ。

第十三條 官有財産ノ借受人自ラ其ノ財産ヲ使用セズ、他人ニ轉貸セントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ。但第七條但書ニ據リ貸付料ヲ徵收セザル者ハ他ニ轉貸スルコトヲ得ズ。

第十四條 官有財産ノ借受人ハ其ノ貸付料一箇年分以上ニ相當スル保證金ヲ納ムベシ。

第十五條 從來ノ慣例ニ依リ地元人民ノ使用スル土地人民又ハ之ニ屬スル諸權利貸付ノ方法及貸付ニ關スル契約ノ條件ハ總テ舊慣ニ依ルコトヲ得。

第十六條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ評定價格相均シキモノニ限ル。營造物家屋船舶及其附屬物器具器械ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ズ。

(以下朱書)官有財産ノ交換ハ可成之ヲ行ハザルヲ原則トス。然レドモ土地森林ノ如キ經營上利益アル場合ニ限り之ヲ許ス。但シ交換者ノ一方ヨリ現物ノ不足ヲ補償スルニ金額若ハ他物ヲ以テスルコトヲ許サズ。

第十七條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ、其財産ヲ管理シ若シ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ借受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ズ。

第十八條 官有財産ノ賣拂貸付讓與交換ニ關シ官吏ト人民トノ間ニ起ル爭訟ハ民事裁判所ノ管轄トス。

第十九條 政府ハ毎年土地森林營造物家庭船舶ノ増減報告書ヲ製シ、及毎十年其ノ總目錄ヲ製シ帝國議會ニ報告スベシ。



第二十條 本法施行ノ前ニ官有財産賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ總テ舊契約ニ依ルベシ、貸付ノ期限ナキモノハ本法施行ノ日ヨリ一箇年ノ後本法ニ依リ更ニ契約ヲ爲スベシ。

第二十一條 本法ハ明治二十二年 月 日ヨリ施行ス、其ノ帝國議會ノ協賛ヲ經ベキモノハ議會開會ノ期ニ至ルマデハ樞密院ノ議ヲ經ベシ。

## 官有財産管理規則

議長

### (勅令第 )

第一條 此ノ規則ニ依リ管理スベキ官有財産ハ政府ノ直管ニ屬スルモノニシテ左ノ種類トス。

- 第一、土地及之ニ屬スル諸權利、
- 第二、森林及之ニ屬スル諸權利、
- 第三、營造物家屋船舶、
- 第四、器具器械但各廳所用ノ雜具ヲ除ク、
- 第五、美術品

第二條 國ノ公用ニ供スル官有財産ハ此ノ規則ニ依ツテ管理スルノ限ニ在ラズ、但其ノ公用ヲ



廢シタルモノハ此ノ規則ニ依リ大藏大臣之ヲ管理ス。

第三條 土地ハ大藏大臣之ヲ管理ス。但官用ニ供スル土地ハ各省大臣之ヲ管理シ其ノ用終ルトキハ大藏大臣ノ管理ニ復セシム。

第四條 第一條第三項以下ノ財産ハ各省大臣之ヲ管理ス。

第五條 大藏大臣ハ土地ノ總目錄ヲ調製スベシ。

第六條 各省大臣ハ所管官有財産ノ目錄ヲ調製スベシ。

第七條 大藏大臣ハ每會計年度間ニ於ケル土地ノ増減異動ヲ調査シ翌年度六月三十日迄ニ其ノ増減報告書ヲ調製スベシ。

第八條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管ヲ調製シ翌年度六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ。

第九條 第八條第九條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スベシ。

第一、買入ニ係ルモノハ其ノ代價、

第二、賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格、

第三、讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ目錄價格、

第四、交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財産、

第五、買入又ハ受拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件、

第十條 大藏大臣ハ官有財産増減總報告書ヲ調製シ帝國議會ニ報告ノ手續ヲナスベシ。

第十一條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在セル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ。

第十二條 大藏大臣ハ每十年官有財産總目錄ヲ調製シ土地ノ總目錄及各省所管ノ官有財産目錄

ト俱ニ帝國議會ニ報告ノ手續ヲナスベシ。

第十三條 土地森林ノ賣拂讓與ハ大臣之ヲ行フ。但材木ノ賣拂讓與ハ此ノ限ニ在ラズ。

第十四條 此規則第五條第六條ニ掲グル官有財産ノ目錄ハ明治二十二年 月 日迄ニ調製スベシ。

第一回ノ官有財産目錄ハ明治二十二年 月 日ノ現在高ヲ以テ之ヲ調製スベシ。

第十五條 此ノ規則ハ明治二十年 月 日ヨリ施行ス、其ノ帝國議會ニ關涉スルモノハ議會開會ノ時ヨリ之ヲ施行ス。

従前ノ規則ニシテ此ノ規則ニ牴觸スルモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ廢止ス。



# 官有財産管理規則

## 第一章 總則

第一條 此規則ニ依リ管理スベキ官有財産ハ政府ノ直管ニ屬スルモノニシテ左ノ種類トス。

第一、土地及之ニ屬スル諸權利、

第二、森林及之ニ屬スル諸權利、

第三、砲臺城砦鐵道電信其他建設物及其附屬物、

第四、船舶、

第五、器具器械但軍備ニ屬スル兵器及各廳所有ノ雜具ヲ除ク、

第六、美術品標本書籍ノ類、

第二條 土地森林ハ總テ大藏大臣之ヲ管理ス。

國ノ公用若ハ各省ノ使用若ハ政府ノ事業ニ供セラレタル土地森林ハ各省大臣之ヲ管理シ、

其用又ハ事業終ルトキハ大藏大臣ノ管理ニ復セシム。

大藏大臣ノ管理スル所ノ土地森林ヲ國ノ公用若クハ各省ノ使用若ハ政府ノ事業ニ供スルト

キハ閣議ヲ以テ之ヲ定ム。

第三條 第一條三項以下ノ物件ハ各省大臣之ヲ管理ス。

第四條 大藏大臣ハ土地森林ノ總目錄ヲ調製スベシ。

第五條 各省大臣ハ其管理スル所ノ官有財産ノ目錄ヲ調製スベシ。

第六條 土地森林ノ總目錄ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ。

第一、所在、

第二、種類、

第三、坪數、

第四、所有ニ歸シタル年月、

第五、價格、

第六、所用、

第七、收入アルモノハ收入金高、

第七條 各省ニ備フル土地ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ。



- 第一、所在、
  - 第二、種類、
  - 第三、坪數、
  - 第四、所管ニ歸シタル年月、
  - 第五、所用、
- 第八條 各省ニ備フル森林ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ。
- 第一、所在、
  - 第二、坪數、
  - 第三、重要ナル樹木ノ種類及概數、
  - 第四、所管ニ歸シタル年月、
  - 第五、一ケ年ノ收入金高、
- 第九條 第一條第三項第四項ノ物件ノ目錄ニハ其種類ニ依リ左ノ事項ヲ記載スベシ。
- 第一、所在又ハ定繫場、
  - 第二、構造、
  - 第三、大小廣狹又ハ積量等、

- 第四、築造年月又ハ所有ニ歸シタル年月、
  - 第五、保存期限、
  - 第六、築造價格又ハ買入價格、
  - 第七、現在價格、
  - 第八、收入アルモノハ一ケ年ノ收入金高、
- 第十條 第一條第五項第六項物件ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ。
- 第一、所在、
  - 第二、保存期限、
  - 第三、所有ニ歸シタル年月、
  - 第四、買入價格其不明ナルモノハ見積價格、
- 第十一條 前條ノ目錄ハ保管ノ責ニ任ズル主務官吏毎ニ區分シテ二通ヲ調製シ一通ハ所管本廳ニ備ヘ一通ハ主務官吏ニ交付スベシ。
- 各省大臣ハ調査委員ヲ命ジ毎會計年度ノ終リニ於テ第一條第三項以下ノ物件ノ現在高ト目錄トノ照合ヲナサシムベシ。
- 前項ノ場合ニ於テ大藏大臣ハ所屬官吏ヲシテ立會ヲナサシムルコトヲ得。



第十二條 大藏大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル土地森林ノ増減異動ヲ調査シ翌年度六月三十日迄ニ其増減異動報告書ヲ製スベシ。

各省大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減ヲ調査シ官有財産ノ増減報告書ヲ製シ、翌年度六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ。

第十三條 前條ノ報告書ハ其事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スベシ。

第一、買入ニ係ルモノハ其代價、

第二、賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價實際ノ賣拂代價反目錄價格アルモノハ其價格、

第三、讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ目錄價格、

第四、交換ニ係ルモノハ其代リ物件、

第五、買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其條件、

第十四條 大藏大臣ハ其調製シタル土地森林ノ増減異動報告書及各省大臣ノ送付シタル官有財産増減報告書ヲ取纏メ帝國議會ニ報告ノ手續ヲナスベシ。

第十五條 各省大臣ハ毎十年ニ其年三月三十一日ニ現在セル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ六月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スベシ。

第十六條 大藏大臣ハ毎十年ニ土地森林ノ總目錄及各省大臣ヨリ送付シタル官有財産目錄ニ依リ官有財産總目錄ヲ調製シ帝國議會ニ報告ノ手續ヲナスベシ。

## 第二章 官有財産貸付

第十七條 現ニ國ノ公用若クハ各省ノ使用ニ供セザル土地ハ貸付シテ其貸付料ヲ徵收スベシ。森林ハ保存ノ爲メ貸付料ヲ徵シテ之ヲ貸付スルコトヲ得。

各省所管ノ家屋ニシテ一時不用ナルモノハ保存ノ爲メ貸付料ヲ徵シテ之ヲ貸付スルコトヲ得。

官有財産ヲ貸付スルハ前二項ノ物件ニ限ル。

第十八條 各省ニ於テ所管ノ森林ヲ貸付シタルトキハ大藏大臣ニ通知スベシ。

各省ニ於テ所管ノ家屋ヲ貸付セントスルトキハ其離權スベカラザル事由ヲ詳ニシ大藏大臣ニ協議スベシ。

第十九條 土地森林及之ニ屬スル諸權利ニシテ、舊慣ニ依リ地元人民ノ共用スルモノハ從來ノ慣例ニ從ヒ貸付料ヲ徵收セザルコトヲ得。



第二十條 土地森林ヲ貸付スルニ當リ其土地又ハ森林ニ屬スル諸權利ニシテ舊慣ニ依リ地元人民之ヲ共用スルトキ、又ハ從來政府特許ヲ得テ之ヲ利用スルモノアルトキ、又ハ從來公衆ノ用ニ供シタルモノアルトキハ其舊慣ヲ存シテ同時ニ貸付セザルベシ。

新ニ本條ノ諸權利ヲ貸付セントスルトキハ特別ノ契約ヲ以テ定ムベシ。

第二十一條 官有財産ノ貸付期限ハ左ノ定限ヲ超ルヲ得ズ、但別ニ法律勅令ヲ以テ期限ヲ定ムルモノハ各其定ムル所ニ據ル。

第一、樹木培養ニ供スル土地ハ五十年以内、

第二、農商工業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内、

第三、土地森林ニ屬スル諸權利及家屋ハ五年以内、

第二十二條 官有財産ノ貸付期限中貸付契約ヲ遵守シ、該財産ノ保存ヲ忽ニセザル者ニハ滿期後尙一期間前ノ契約ヲ繼續シテ該財産ヲ貸付スルコトヲ得。

第二十三條 從來ノ慣例ニ據リ地元人民ノ共用スル土地森林及之ニ屬スル諸權利ノ貸付期限ハ第二十一條ノ定限ニ拘ラズ總テ舊慣ニ由ルコトヲ得。

第二十四條 官有財産ノ貸付期限中國ノ公用若クハ各省ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ該財産ヲ返還セシムベシ。

本條ノ場合ニ於テハ一ケ年分ノ貸付料ヲ免除ス、但貸付後滿一ケ年ニ至ラザルトキハ貸付料ノ全部ヲ免除スベシ。

第二十五條 官有財産ノ貸付期限中政府ヨリ貸付ノ契約ヲ解キタルガ爲メ、借受人ニ於テ要スル移轉費乃生産營業上ノ損失ハ政府ニ於テ相當ノ賠償ヲナスベシ。

此場合ニ於テ家屋建設物其他土地ニ屬スル培養植物ハ政府ニ於テ相當代價ヲ以テ買入ル、コトアルベシ。

第二十六條 官有財産ノ借受人ハ政府ノ許可ヲ得ズシテ借用財産ノ原形ヲ變ジ、又ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢毀損スルトキハ相當ノ賠償ヲ納ムベシ。

貸付タル財産修理費ノ負擔ノ契約ノ際特ニ之ヲ定ムベシ。

第二十七條 官有財産ノ借受人自ラ其財産ヲ使用セズ、他人ニ轉貸セントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ。但第十九條ニ據リ貸付料ヲ徵收セザルモノハ他ニ轉貸スルコトヲ得ズ。

第二十八條 官有財産ノ借受人ハ其貸付料ノ一ケ年分以上ニ相當スル保證金ヲ納ムベシ。

第二十九條 借受人政府ニ賠償金ヲ納ムベキトキ特定ノ期限内ニ之ヲ納メザルカ、若クハ貸付料ヲ納メザルトキハ、前條ノ保證金ヲ以テ之ニ充ツベシ。尙不足スルトキハ更ニ之ヲ追徵ス。



第三十條 官有財産ノ借受人若シ契約ノ事項ヲ履行セザルトキハ貸付ノ契約ハ其時ヨリ無効トス。

### 第三章 官有財産離權

第三十一條 左ノ官有財産ノ離權ヲナサントスルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ムベシ。但法律ニ據リ政府ニ沒收シタル財産又ハ法律ニ據リ公益ノ爲メ離權スルモノ又ハ保存期限アルモノニシテ、其期限ヲ過ギルモノハ此限リニアラズ。

第一、一域ニシテ價格壹萬圓以上若クハ拾萬坪以上ノ土地、

第二、價格壹萬圓以上若クハ保存期限三十ヶ年以上ノ家屋建設物、

第三、價格五萬圓以上ノ船舶、

第四、價格五萬圓以上ノ農工業場、

第三十二條 各省大臣ハ土地森林ノ外所管官有財産不用ニ歸スルモノアルトキハ大藏大臣ニ協議シ之ヲ賣拂フベシ。

第三十三條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルハ同種類ノ物件ニシテ評定價格相同ジキ

モノニアラザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ。

第三十四條 第一條第三項第四項第五項ノ物件ハ他人ノ所有物ト交換スルヲ得ズ。

第三十五條 第三十一條ニ據リ官有財産ヲ賣拂フ場合ニ於テハ左ノ制限内ニ於テ賣拂代金年賦

納ノ契約ヲナスコトヲ得。

第一、賣拂代金拾萬圓未満 三ヶ年以内

第二、同拾萬圓以上五拾萬圓未満 五ヶ年以内

第三、同五拾萬圓以上百萬圓未満 十ヶ年以内

第四、同百萬圓以上 十五ヶ年以内

第三十六條 官有財産賣拂代金年賦納ノ場合ニ於テ契約ノ期限ニ其代金ヲ納メザルトキハ既納ノ代金ハ政府ノ所得ニ歸シ尙賣拂タル物件ヲ引上グベシ。

第三十七條 官有財産賣拂代金年賦納ノ場合ニ於テ賣拂代金全納ニ至ラザルトキハ其物件ノ所有權ヲ買受人ニ移サザルベシ。

第三十八條 土地森林ニ屬スル諸權利ニシテ舊慣ニ由リ地元人民之ヲ共用スルトキ、又ハ從來政府ノ特許ヲ得テ之ヲ利用スルモノアルトキ、又ハ從來公衆ノ用ニ供シタルモノアルトキハ其權利ハ直ニ該土地森林ノ買受人ニ屬セザルモノトス。



第三十九條 官有財産ヲ管理スル官吏ハ其官有財産ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ズ。

### 第四章 雜 則

第四十條 本規則第四條第五條ニ掲グル官有財産ノ目錄ハ、明治二十二年 月 日マデニ調製スベシ。

第一回ノ官有財産目錄ハ明治二十二年 月 日ノ現在高ヲ以テ之ヲ調製スベシ。

第四十一條 本規則施行前ニ官有財産貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ貸付満期ニ至ルマデハ舊契約ニ據ルベシ。但貸付ノ期限ナキモノハ一ケ年ノ猶豫ヲ付シテ更ニ本規則ニ據ルベシ。

第四十二條 本規則施行前ニ官有財産賣拂ノ契約ヲナシ執行中ニアルモノハ總テ舊契約ニ據ルベシ。

第四十三條 本規則ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス。

## 地 目 調 書

### 地目調

一 整理地目トハ帝國議會ヘ報告シタル地目ナリ  
一 類聚地目トハ各府縣ヨリ差出シタル内務省所管官有土地目錄ノ明細地目ナリ

### 類 聚 地 目

畑。荒田。切換畑。畑及寄洲畑。田及不定田。不定田。畑及切換畑。畑及荒畑。  
荒田。田及荒田。元畑。元田。植物試驗場。畦畔。鹽田。田及畦畔。薙畑。桑園。地。畑及伐畑。伐畑。不定畑。畑及切換荒畑。田及不定鹽田。切替及不定畑。畑及切替不定畑。屯田兵給與地。菓樹園。

宅 地  
元倉庫敷。元船改所敷地。官舎敷地。監獄署附屬地。消毒所及附屬地。樹藝場。外國人貸渡地。宅地。元學校敷地。學校附屬地。元警察署敷地。元郡役所附屬地。元巡查派出所敷地。元戸長役場敷地。警察署敷地。監獄分署敷地。警察分署敷地。



集治監用地。北海道廳附屬地。學校用地及附屬地。火藥置場。元警察分署敷地。倉庫敷地。集治監用地及附屬地。郡役所附屬地。元測候所敷地。元病院敷地。元巡查寄泊所。巡查派出所敷地。戶長役場附屬地。元郡役所派出所敷地。屠牛場。囚徒寄泊所敷地。病院敷地。檢徽所敷地。家畜飼養場。公使館敷地。公使館附屬地。外國人居留地。水量小屋敷。鄉藏敷地。門敷地。觀象臺敷地。丈量臺敷地。水車敷地。水量番敷地。學校敷地。舊縣廳敷地。遙拜敷地。寮地。舊鄉宿所敷地。社務所敷地。舊官倉敷地。舊鄉藏敷地。舊宅地米積場。舊陳屋敷地。舊會社敷地。行宮所。旅所。船改所敷地。行幸地。倉庫床地。

### 荒蕪地

舊測量臺敷地。荒蕪地。崖地。河原地。舊倉庫敷地及物揚場。製紙原料晒場。元水測候所敷地。砂利取場。集治監附屬地。元水窖場。元測量基絲臺敷地。元木挽場敷地。塚地。稻干場。土取場。揭示場。並木敷地。網干場。神社跡地。廢社地。樹木植込地。舊行刑場。舊揭示場。廢寺地。馬療治地。舊池敷地。舊堂宇除地。道場敷地。舊堂宇地。觀音跡地。石取場。舊塚地。土居敷地。土居跡地。不毛地。舊臺場。砂留地。芝地。燈籠敷地。堂宇敷地。物干場。舊砲臺敷地。森地。紀念

碑敷地。鳥居敷地。雜種地。潰地。路傍。魚干場。元地。石垣地。砂磧地。日和山敷地。號砲所敷地。塔敷地。馬爪取場。馬ノ血下ケ場。臺場敷地。砲臺場。標木敷地。岨。土手敷地。土取跡地。塊切場。石塚地。榜示杭敷地。舊堀敷地。舊道敷地。未完地。磧地。古川敷地。火防地。獸除地。舊砲墩。堤外不定地。堀潰地。石燈籠敷地。新開試作地。丘陵。廢跡地。藪地。網干場。塵捨場。舊城敷地。官沒地。湯樋敷地。石川原地。舊城堀敷地。舊城郭敷地。馬置場。寄附地。舊寺院敷地。舊玉淵敷地。舊用水敷地。占堤敷地。舊溝渠敷地。舊高札場。石船地。海面埋立地。分杭場。舊番所敷地。砂留敷地。懲役場。石置場。船繫場。砂鐵洗場。蘭干場。制札場。城址。舊鹽田。往迂隙地。洪水地。砂取場。砂出場。土出場。山。林。砂除地。空地。草地。打揚地。荷積地。里標敷地。舊制札場。未詳地。水碓地。舊水道敷地。櫛床地。舊砲臺及臺場。

### 池沼

沼。池。井戶敷地。湧泉地。湧井地。濠。沼及溜池。溜池。池及溜池。池及水溜地。池沼及溜池。用水池。湧水地。真菰生地。真菰生地及蒲生地。蒲生地。谷地。芦生地。蕘生地。溜井敷地。泉地。菰地。清水地。渚。砂溜堀敷地。汲及溜池。



海濱地

澤。沼湖。湖沼及溜池。池沼及澤湖。沼澤及溜池。用水路。  
海岸地。海岸干場。砂地。濱地。砂濱地。波止場。磯地。白濱地。海岸濱地。干  
瀉。沙溜場。船圍場。砂漠地。海岸砂漠地。船入場。渡船場。濱洲。鹽濱。海岸  
空地。海岸砂地。岬。荒漠地。鹽濱。海岸敷地。石濟地。海岸不定地。積濱地。  
波除地。潮碓用地。潮溜場。船場。潮除場。荒濱地。海岸網揚場。

寄洲

寄洲。附寄洲。石砂洲。浮洲。

社寺地

神地。寺院敷地。堂宇敷地。佛地。不動敷地。寺院及堂宇敷地。地藏敷地。石佛  
敷地。地藏石佛敷地。觀音敷地。

公園  
名勝地

公園地。測占敷地。舊跡地。名所地。測量基點敷地。名區。古跡地。勝地。舊跡  
名區。

墳墓地

墓地。墳墓地。火葬地。招魂墓地。墳墓及墓地。御墓地。燒場。埋葬地。墓地墳  
墓地。舊墓地。墓地及埋葬地。

雜種地

岩石地（朱書）  
岩地。石地。根源石地。石砂地。砂石。石砂敷地。石隈地。海岸石地。石切場。  
石切地。

河岸地（朱書）

川岸地。岸地。湖岸地。川緣地。河緣地。川沿地。溝沿地。

溫冷泉地（朱書）

溫泉地。冷泉地。鑛泉地。鹽泉地。

斃牛場捨場（朱書）

死獸捨場。死獸畜捨場。斃馬捨場。斃牛捨場。



物置場 (朱書)

石置場。石砂置場。砂置場。砂置場及砂留敷地。砂石及土置場。土置場。土砂置場。砂利置場。船置場。芝置場。泥置場。砂留場。土砂捨場。砂捨場。土砂留場。塵捨場。舊塵捨場。土捨場。石捨場。石寄場。石除場。砂除場。芥捨場。

國境標敷地 (朱書)

國境標敷地。國境石敷地。

物揚場 (朱書)

泥揚場。土砂揚場。荷揚場。砂揚場。土揚場。船揚場。物揚場。石揚場。

火除地 (朱書)

土砂扞止地 (朱書)

測量石敷地 (朱書)

夜燈敷地 (朱書)

暴風警報柱敷地 (朱書)

石盛地 (朱書)

島嶼 (朱書)



## 國稅滯納處分規則

### (調査委員修正案)

第一條 國稅ヲ其納期内ニ完納セザル者アルトキハ、郡區長ニ於テ督促令狀ヲ發スベシ。若シ令狀ニ從ツテ完納セザルトキハ其財産ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スルモノトス。滯納税金徵收ニ付テハ總テ他ノ債主ニ對シ先取特權アルモノトス。但滯納シタル稅ノ賦課期前ニ質入書入ト爲シタル財産ニ關シ其債主ニ對シテハ此限ニアラズ。

第二條 督促令狀ニハ滯納税金、令狀手数料並ニ令狀到達ノ翌日ヨリ七日以内ニ完納セザルトキハ財産ヲ差押フベキ旨ヲ記載スベシ。

第三條 財産差押ヲナストキハ郡區長ヨリ差押命令書ヲ發シ郡區吏員ヲシテ之ヲ執行セシムベシ。

第四條 財産ヲ差押フルニハ滯納處分費、滯納税金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ、次ニ

左ノ順序ニ從ヒ其物件ノ賣却代費ヲ概算シ逐次次項ニ及ブベシ。但第一第二第三及第五ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ拘ラズ之ヲ差押フルコトヲ得。

第一、金銀地金、公債證書、證券、株券、手形印紙、郵便電信切手、

第二、土地ノ收穫物。營業上ノ賣品及材料、

第三、第一、第二ニ掲ゲザル動産、一月以内ニ收穫シ得ベキ土地ノ生産物、

第四、不動産、

第五、債主權、

第六、保證金、

第七、質入書入ト爲シタル財産、

第五條 執行吏員ニ於テ差押フベキ物件ノ分割スベカラザルモノ、又ハ分割スレバ價值ヲ減ズベシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得。

第六條 第四條ノ物件ハ滯納者ノ戸主タルト非戸主タルトヲ問ハズ、同居家屬ノ所有ニ係ルモノハ却テ差押ヲ爲スベシ。若シ滯納者ニ於テ自己及同居家屬ノ所有ニアラザル旨ヲ申告スト雖モ、執行吏員ニ於テ其證據分明ナラズト認ムルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得。

第七條 地租滯納ノ場合ニ於テ滯納者中ニ其土地ヲ他人ノ所有ニ移シタルトキハ仍其土地ヲ差



押フルコトヲ得、但滞納者ノ財産ニ差押フベキモノナキカ、又ハ之アルモ滞納處分費滞納税金ニ充ルニ足ラザルトキニ限ル。

滞納者及其同居家族ニ必要ナル左ノ物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ズ。

- 一、生活上缺クベカラザル衣服寢具什器及厨具、
- 二、三十日間ノ食料及薪炭、
- 三、實印、
- 四、祭祀ニ必要ノ物品及ビ石碑、墓地、
- 五、其家ニ必要ナル系譜、日記、書付類、
- 六、身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣、
- 七、勳章其他名譽ノ章票、
- 八、文武ノ官職ニ必要ナル物品、
- 九、學校用必要ノ教科書、器具、
- 十、發明ニ係ル未定ノ物品未ダ發行セザル自著ノ書類、

第八條 滞納者及其同居家屬ニ必要ナル左ノ物件ハ金額ニ見積リ、通ジテ總計金五拾圓ニ超過セザルト認ムル分ハ差押ヲナスベカラズ。

但物件ヲ指定シテ賦課シタルモノハ此限ニ在ラズ。

- 一、農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其三十日間ノ飼料、
- 二、職業ニ必要ナル物件、
- 三、學藝ヲ以テ生計ヲ營ム者其學藝ニ必要ナル物件、

第九條 酒類醬油造石稅、菓子製造稅、北海道水產稅又ハ度量衡稅滞納ニ付キ處分ヲ爲ストキハ未ダ其納期ニ至ラザルモ課額既ニ定マリタル税金又ハ其賣上高若クハ檢印濟ニ依リ課稅ヲ定メ得ベキ税金ハ滞納税金ト併セテ之ヲ徵收スベシ。

納稅者身代限ノ處分ヲ受クル場合ニ於テハ地租、船車稅、所得稅ヲ除クノ外其他ノ諸稅ハ前項ニ準シ處分スベシ。

第十條 第九條第二項ノ場合ニ於テ郡區長ハ其徵收スベキ税金ニ充ル金額ヲ他ノ債主ニ先チ裁判所ヨリ受取ルベシ。又督促令狀ヲ發シタルトキハ其手數料ヲモ併セテ受取ルベシ。

第十一條 執行吏員物件差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帶シ滞納者ノ求メニ應ジテ之ヲ示スベシ。

第十二條 執行吏員差押ヲ爲スタメ滞納者所用ノ家屋、倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ日出後日没前ニ限ルベシ。



物件ヲ脱漏シ又ハ他人ノ家屋、倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿シタリト思料スルトキハ、執行吏員其場所ニ立入り取調ヲ爲スコトヲ得。

前二項ノ場合ニ於テハ本人又ハ其同居家族ヲシテ立會シムベシ。若シ本人家屬トモ不在ナルトキハ戸長又ハ近隣ノ者二人ヲシテ立會シムベシ。

第十三條 物件差押ヲナスニ當リ、本人旅行又ハ失踪シ差押フベキ物件ナキカ、又ハ物件アリテ之ヲ處分シ、仍ホ滞納處分費滞納税金ニ充ザルトキハ、他日本人復歸若クハ所在發見ノ時ニ於テ滞納處分費及其時マデノ滞納税金ニ對シテ處分ヲナスベシ。

第十四條 物件ヲ差押ヘタルトキハ執行吏員ハ其事由及物件ノ種目、數量、概算價額ヲ記シタル目錄二通ヲ製シ、滞納者若クハ立會人ト共ニ署名捺印シ其一通ヲ滞納者若クハ立會人ニ交附スベシ。

第十五條 差押ヘタル物件ハ戸長若クハ其地方ノ身元確實ナル者、又ハ看守人ヲシテ之ヲ保管セシムベシ。但必要ナル場合ニ於テハ滞納者又其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムベシ。

第十六條 質入書入ト爲シタル物件及第三十八條第一項ノ物件ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ執行吏員ハ差押ノ日ヨリ三日以内ニ其債主若クハ所有主ニ差押ノ事由滞納處分費滞納税金及賣

却執行ノ日限ヲ記シタル通告書ヲ發スベシ。

第十七條 第一條ニ依リ督促令狀ヲ發シ及第六條ニ依テ通告書ヲ發シタルトキ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルベキ者在ラザルトキハ、督促令狀又ハ通告書ヲ其門戸ニ貼附スベシ若其住居不分明ナルトキハ、最後ノ住居ト認メタル地ノ戸長役場ノ揭示場ニ之ヲ揭示スベシ。

此手續ヲ終リタルトキハ送達ヲ實行シタルモノト看做スベシ。

第十八條 滞納者若クハ第十六條ニ依リ通告書ヲ受ケタ者賣却執行ノ三日前マデニ滞納處分費滞納税金ヲ完納スルトキハ其物件ノ差押ヲ解クベシ。

第十九條 第十六條ニ掲ゲタル物件ヲ除クノ外差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル第三者ハ賣却執行ノ三日前マデニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ郡區長ニ其取戻ヲ請求スルコトヲ得。

第二十條 滞納者ニ代リ滞納處分費、滞納税金ヲ完納シ差押物件ノ引渡ヲ請求セントスル者ハ滞納者ノ連署ヲ以テ賣却執行ノ三日前マデニ郡區長ニ之ヲ請求スルコトヲ得。

前項ニ依リ引渡ヲ受ケタル者ハ其物件ニ對シ代納金額其利子若クハ保管費ニ限り第一條第二項ニ準ジ先取特權ヲ有スルモノトス。

第二十一條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ郡區長ヨリ義務者ニ對シ差留命令書ヲ發シテ滞



納者ニ對スル義務ノ履行ヲ差留ムベシ。

第二十二條 債主權差押ノ解除ヲ請求セントスル義務者ハ其負債金額又ハ滯納處分費、滯納税金ヲ完納シテ公賣執行ノ三日前マデニ郡區長ニ之ヲ請求シ、其第二十九條第一項ニ依リ公賣ヲ爲サザルモノハ債主權執行ノ時マデニ郡區長ニ之ヲ請求スルコトヲ得。

第二十三條 差押物件ハ公賣ニ付スルモノトス公賣ハ入札若クハ競賣ヲ以テ之ヲ爲スベシ。

第二十四條 物件差押ノ手續ヲ終リタルトキハ郡區長ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スベシ。

賣却ノ公告ハ滯納者ノ氏名、住所、其物件ノ種目、數量、賣却ノ場所、日時及特ニ必要ナル件アレバ其件ヲ記載シ納稅地及物件所在地ノ郡區役所、戶長役場ノ揭示場並物件所在地ニ揭示スベシ。

公賣物件ノ價金多額ノモノナルカ、又ハ滯納者ノ請求アルカ又ハ必要トスル場合ニ於テハ前項ニ掲グル場所ノ外近側人民群集ノ地ニ揭示シ、又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルコトアルベシ。

第二十五條 賣却ハ差押物件ノ存在スル町村内ニ於テ之ヲ行フベシ。但執行吏員ニ於テ物件ノ價額上ニ利アリト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得。

第二十六條 第四條第二第三ノ物件賣却ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六第七ノ物件賣却ハ二十日以外ニ於テ之ヲ爲スベシ。

賣却處分ハ物件差押ノ手續ヲ終リタル日ヨリ四十日以内ニ完了スベシ。但第十六條ノ場合ニ於テ往復日數十日以外ヲ要スルト認ムルトキ又ハ第三十一條第三十五條第三項第三十八條第二項第四十二條ノ場合ハ此限ニ在ラズ。

第二十七條 差押ヘタル物件損敗シ易キモノハ公告ノ手續ヲ履マズ直ニ之ヲ賣却スルコトヲ得、差押物件ノ概算價額金壹圓未滿ナルトキハ公賣ニ付セズ直ニ評價人ニ評價セシメテ賣却スルコトヲ得、但同時ニ處分ヲ爲スベキ件數若シ十件以上ナルトキハ此限ニ在ラズ。

第二十八條 第四條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ左ノ區別ニ依テ處分スベシ。但本人公賣ヲ望ミ又ハ執行吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ本條ニ依ルノ限ニ在ラズ。

一、公債證書、證券、又ハ株券ハ該品取扱營業者ニ命ジ時價ヲ以テ之ヲ賣却セシム。

二、手形ハ取付ケ得ベキ物ハ取付ケノ手續ヲ行ヒ割引シ得ベキモノハ割引ニ付ス。

三、印紙郵便電信切手ハ其賣捌人ニ之ヲ賣渡スモノトス。

四、金銀地金ハ其取扱營業者ニ命ジ其代價ヲ査定セシメ之ヲ賣却ス。

第二十九條 債主權ノ差押ヘタル場合ニ於テ其年度ノ出納閉鎖期日前ニ其債主權執行ノ見込ミ



アルモノハ公賣ヲ行ハズ、郡區長之ヲ執行スベシ。此場合ニ於テ義務ヲ履行セザルトキハ郡區長ハ其權利者ニ代リテ裁判所ニ起訴スルコトヲ得。

出納閉鎖期限前ニ其債主權執行ノ見込ナキモノハ先ヅ義務者ニ照合シ、義務者ニ於テ其義務ヲ認メタル後之ヲ公賣ニ付スベシ。若シ義務者其義務ヲ認メザルトキハ郡區長ハ其權利者ニ代リテ裁判所ニ起訴シ裁判確定ノ後之ヲ公賣ニ付スベシ。

第三十條 差押物件中其物品取扱上特ニ規則アリテ公賣ヲ爲シ難キモノハ各其規則ニ依リ之ヲ處分スベシ。

第三十一條 賣却ヲ爲スニ當リ買受望人ナク、又ハ之アルモ執行吏員ニ於テ不相當ノ低價ト認ムルトキハ、其賣却ヲ停止シ更ニ賣却ヲ行ヒ、若クハ執行吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ滯納處分費、滯納税金ニ對スル概算ノ割合ヲ以テ官ニ買上ゲ、其代金ヲ滯納處分費、滯納税金ニ充ルコトヲ得。

第三十二條 賣却ヲナス地方ノ稅務ニ關スル官吏及傭員ハ直接ト間接トヲ問ハズ、其賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ズ。

第三十三條 賣却ヲ爲シタル物件原所有主證明アラザレバ買主ノ所有權ヲ確定スルヲ得ザルモノナルトキハ、郡區長ハ此規則ニ依リ賣渡シタル證明ヲ買主ニ交付スベシ。

前項ニ依テ郡區長ノ交付シタル證明ハ原所有主ノ證明ト同一ノ効ヲ有ス。

第三十四條 賣却ヲ爲シタルトキハ執行吏員賣却ノ調書ヲ製シテ署名捺印シテ之ヲ滯納者及第十六條ノ被通告人ニ交付スベシ。

第三十五條 賣却物件ノ買受人ハ郡區長ノ公告ニ從ヒ即時又ハ指定ノ日限内ニ代金ヲ完納スベシ。

賣却物件ノ買受人ハ郡區長ヨリ保證金ヲ徵スル場合ニ於テハ其金額ヲ納ムベシ。賣却物件ノ買受人代金ヲ完納セザルトキハ物件ヲ交付セズ、更ニ賣却ヲ行フベシ。

此場合ニ於テ保證金アルモノハ之ヲ還付ス、其金額ハ直ニ滯納處分費、滯納税金ニ補充スベシ。

第三十六條 差押物件ヲ賣却シ、債主權ヲ執行シタルトキハ其代金ヨリ先ヅ滯納處分費、滯納税金ヲ扣除シ、尙ホ剩餘アレバ之ヲ本主ニ還付ス、若シ本主不在ナルトキハ其復歸ヲ待ツテ還付スベシ。

賣却シタル物件質入書入ト爲セシモノナルトキハ、其代金ヨリ先ヅ滯納處分費、滯納税金ヲ扣除シ次ニ本主ニ通知シテ其負債金額ニ充ルマデヲ債主ニ交付シ尙ホ剩餘アレハ之ヲ本主ニ還付スベシ。



前項ノ場合ニ於テ本主不在ナルトキハ直ニ之ヲ債主ニ交付ス。若シ債主不在ナルトキハ其復歸ヲ待テ之ヲ交付スベシ。

第三十七條 差押物件中ノ幾部分ヲ賣却シ、其代金既ニ滞納處分費滞納税金ニ充テタルトキハ、其殘餘ニ係ル差押物件ノ賣却ヲ停止シ、第三十六條ノ剩余金ト同一ノ處分ヲ爲スベシ。差押物件ノ賣却代金若シ滞納處分費滞納税金ニ對シ不足ナルトキハ更ニ他ノ物件ヲ差押フルコトヲ得。

第三十八條 滞納者課税地ノ郡區役所管外ニ住スル場合ニ於テ課税地ニアル納税代入督促令狀ニ從テ納税セザルトキハ、先ヅ其課税地ニアル物件ニ對テ差押ヲナスベシ。課税地ノ郡區役所管内ニ於テ滞納者ノ財産ニ差押フベキ物件ナリ又ハ之アルモ滞納處分費滞納税金ニ充ルニ足ラズシテ他管内ニ該滞納者ノ物件アルトキハ、課税地ノ郡區長ヨリ其ヨリ其物件所在地ノ郡區長ニ滞納處分ヲ囑托スベシ。其囑托ヲ受ケタル郡區長ハ此規則ニ依テ處分ヲナシ其結末ヲ課税地ノ郡區長ニ報告スベシ。

第三十九條 差押物件賣却代金若シ滞納處分費滞納税金ニ充ルニ足ラズシテ他ニ差押フベキ物件ナク、又ハ初ヨリ差押フベキ物件ナキトキハ其徵收シ得ザル金額ハ國庫ノ損失ニ歸スベシ。

第四十條 滞納處分費ハ左ニ掲グル費目ニシテ實際支辨スルモノヲ言フ。

- 一、督促令狀手数料、
- 二、評價人看守人及雇人ノ給料、
- 三、差押物件目錄及賣却調書調製費、
- 四、滞納者又ハ所有主、債主、負債主ニ對スル通信費、
- 五、財産ノ運搬、保管、保存又ハ賣却ニ要スル諸費、
- 六、公告費、

第四十一條 督促令狀手数料ハ滞納税金額一圓以下ナルトキハ金三錢トシ、一圓ヲ超ユルトキハ一圓ヲ超スコトニ一錢ヲ加フ。

第四十二條 納滞者若クハ第三者ニ於テ物件差押ノ處分ニ於テ此規則及施行細則ニ違リト思料スルトキハ、其旨ヲ執行吏員ニ通知シ其處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ、路程猶豫ヲ除キ三日以内ニ地方長官ニ出願スベシ。但路程ハ十里ヲ以テ一日程トス、其十里ニ滿タザルモノハ仍ホ一日ヲ以テ算ス。

前項ノ場合ニ於テ差押處分ハ仍ホ執行スベシト雖モ、賣却ハ地方長官ノ指令アルマデ之ヲ猶豫ス。但第二十七條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラズ。



第四十三條 第四十二條ノ場合ニ於テ地方長官ノ指令ニ服セズ、裁判所ニ訴ヘントスルモノハ其旨ヲ郡區長ニ通知スベシ。但其賣却前ニ係ルモノハ滯納處分費滯納税金ヲ完納スルニ非ラザレバ訴フルコトヲ得ズ。

第四十四條 國稅徵收ノ手續ヲ爲サズシテ納期後滿三年ヲ經過シタルカ、又ハ滯納處分ニ着手スルモ其ノ處分ヲ中止シタル後滿三年ヲ經過シタルモノハ滯納處分ヲ爲サズ。

第四十五條 滯納處分ノ際其税金ノ徵收ヲ免カル、爲メ財産ヲ藏匿脱漏シ、又ハ虚偽ノ質入書入ヲ爲シタルモノハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ、又ハ二圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス。第十五條但書ノ場合ニ於テ其保管ニ係ル財産ヲ藏匿脱漏若クハ毀損シタルモノハ、一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ、又ハ四圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス。

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ズ。

第四十六條 此規則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム。

第四十七條 此規則ハ明治 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス。但沖繩縣ニハ當分ニ之ヲ施行セズ。

### 此修正案ノ重ナル要點

- 一 不動産ノ公賣ハ地方長官ノ處分ヲ請フ事。
- 一 大藏大臣ハ一年ヲ限り延期ノ許可ヲ與フル權アル事。
- 一 差押公賣ノ手續ハ總テ訴訟法ノ一般ノ定規ニ準ズル爲ニ本法ニ之ヲ略スル事。
- 一 差押ノ順序收獲物生産物ヲ他ノ動産ヨリ先ニスル事。
- 一 本法ハ地租滯納者ノ處分ニ止メ他ノ營業稅間稅等ノ處分ト區別スル事。
- 一 質地ノ納稅義務ハ仍地主ニ屬セシムル事。
- 一 滯納催促令狀ヲ發スルヲ以テ郡長又ハ區長ニ屬スル事。原案ハ戶長ニ屬ス。
- 一 本法ハ地方稅町村稅ニ通行スル事。原案國稅ニ止ム。
- 一 戶數割ノ爲ニ公賣スルハ不動産ニ及バザル事。
- 一 購買者ナキ戶官ニ買上グルノ條ヲ削ル事。



## 地租滞納處分規則

第一條 凡地租ハ法律ニ指定シタル納期ニ於テ之ヲ納ムベシ。若納期ヲ過テ納メザル者アルトキハ郡長又ハ區長ヨリ催促令狀ヲ發スベシ。令狀ニハ猶豫期日迄ニ納稅セザル者ハ其財產ヲ差押フ可キ旨ヲ記載スベシ。  
猶豫期日ハ令狀送付ノ翌日ヨリ七日タルベシ。

第二條 催促令狀ヲ受取リタル後義務者仍猶豫期限マデニ完納セザルトキハ、其財產ヲ差押ヘテ之ヲ徵收スベシ。

第三條 財產差押ハ左ノ順序ニ從ヒ、其物件ノ價ヲ概算シ滞納稅金及差押公賣費用ニ充ツルニ足ラシムベシ。

第一、收穫物、

第二、一月以内ニ收穫シ得ベキ生産物、

第三、動産、

第四、其租稅ヲ賦課サレタル不動産、

第四條 財產ハ其滞納額ニ比例シ、全部又ハ一部ヲ差押フベシ。但分割スルヲ得ザル者又ハ分割スレバ價値ヲ減却スベキ者ハ其比例ニ拘ラズシテ全部ヲ差押フルコトヲ得。

第五條 收穫物生産物及總テ動産ヲ差押フルニハ本法ニ別ニ規定スル條款ノ外一般民事上ノ差押手續ニ從ヒ郡長又ハ區長ノ差押命令書ニ依リ郡區吏員之ヲ執行ス。

第六條 執行官吏財產差押ヲ行フ時ハ上官ノ命令書ヲ携帯シ滞納者ニ宣示ス可シ。

第七條 執行官吏財產差押ヲ行フ時ハ滞納者ハ其家屋倉庫及其他ノ場所内ニ在ル物件ノ自己ニ屬スルト他人ニ屬スルヲ問ハズ總テ之ヲ開示ス可シ。

第八條 執行官吏財產差押ヲ行フ爲ニ滞納者ノ家屋倉庫及其他ノ場所ニ立入ルハ日出後日没前ニ限ルベシ。

第九條 財產ヲ他人ノ家屋倉庫又ハ其他ノ場所ニ移轉藏匿シタリト思料スル時ハ、執行官吏ハ其地ノ戸長又ハ用掛總代又ハ近隣ノ者二人以上ヲシテ立合ハシメ日出後日没前ニ之ヲ搜索スルコトヲ得。

第十條 財產ヲ差押ヘタルトキハ看守人ヲ置キ又ハ帳簿ニ登録シ封印シテ之ヲ本主又ハ其町村ノ戸長若ハ用掛ニ寄託スベシ。



第十一條 不動産ヲ公賣スルトキハ郡長又ハ區長ハ義務者ノ生活ノ事情及不納ノ原因並ニ意見ヲ具ヘテ地方長官ノ處分ヲ請フベシ。

第十二條 地方長官ハ不納者ノ情狀ニ從ヒ或ハ不動産ノ公費ヲ命ジ、或ハ大藏大臣ニ具申シテ延納ノ許可ヲ請フベシ。

第十三條 大藏大臣ハ水旱罹災ノ土地ニ對シ事情ヲ酌量シテ一年ヲ限り地租ノ延納ヲ許可スルコトヲ得。

第十四條 地租延納ノ許可ヲ受ケテ翌年ノ納期ノ終迄ニ仍滞納スル者ハ公賣ノ處分ヲ免カル、コトヲ得ズ。

第十五條 地租ハ其賦課シタル物體ニ付他ノ債主ニ對シ先取特權アル者トス。

第十六條 質入書入トナリタル地所ノ地租ハ仍其所有主ヨリ徴收ス、但其地所ノ差押ヲ行フトキハ三日以内ニ債主タル者ニ差押ノ事由及滞納金額ヲ通知スルヲ要ス。

第十七條 地租滞納土地ハ已ニ他人ノ所有ニ移ルト雖、仍之ヲ差押フル事ヲ得、滞納者他ニ差押フベキ財産ナク又ハ其財産ノ差押公賣費用及滞納税金ニ充ルニ足ラザルトキハ、買主ハ其缺額ヲ辨償スルノ義務アリ。

第十八條 差押ヘタル財産公賣ニ付セザル前ニ滞納者若ハ債主ヨリ滞納税金及差押費用ヲ完納

シタル時ハ其財産ノ差押ヲ解クベシ。

第十九條 收穫物生産物ハ時價ヲ以テ之ヲ市場ニ賣却スベシ。

動産ノ公費ハ其腐敗シ易キ物件ヲ除ク外、揭示公告ノ日ヨリ五日以外不動産ノ公賣ハ十五日以外ニ於テ之ヲ行フベシ。

差押ヘタル財産ノ一圓ニ滿タザル時ハ公費ニ付セズシテ評價人ニ評價セシメ賣却スル事ヲ得、此場合ニ於テモ仍之ヲ公告スベシ。

第二十條 公費ノ時日場所ハ揭示ノ同日之ヲ滞納者ニ通知ス可シ。其物品ニ付特權アル債主アル時ハ又之ヲ通知スベシ。

第二十一條 物件賣却ノ代價差押公賣費用及滞納税金ヲ償フニ足ラザル時ハ再其他ノ財産ヲ差押ノ可シ。

第二十二條 公賣ヲ行フニ當リ代價不相當ニシテ公賣ヲ停止スルカ、又ハ購買者ナキ場合ニ於テハ之ヲ其他方町村ニ委托シ、後日ヲ待テ再ビ公賣ヲ行フカ又ハ他人ニ賃貸セシムベシ。

他人ニ賃貸シタル場合ニ於テハ其賃價ヲ以テ差押公賣費用及滞納税金ヲ補償シタル後之ヲ本主ニ還付スベシ。

第二十三條 公賣ヲ行ヒタル時ハ其代金ヨリ先差押公賣費用及滞納税金ヲ引去リ、次ニ特權ア



ル債主ノ請求アルトキハ更ニ裁判所ノ判決ヲ經其債額ヲ交付シタル後仍餘アレバ之ヲ本主ニ還付ス可シ。

第二十四條 財産ノ看守寄托運搬費用滞納者並ニ債主ニ通知スルノ費用目録調製費用立會人ノ給料ヲ差押費用トシ、揭示公告運搬費用賣却目録調製費用評價入及傭人ノ給料ヲ以テ公賣費用トス。

第二十五條 執行官吏ハ直接又ハ間接ニ公賣物件ヲ買收スル事ヲ得ズ。

第二十六條 滞納者若クハ第三者ニ於テ財産差押ノ處分ニ不服アルトキハ、其由ヲ執行吏員ニ通知シ、處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ路程猶豫ヲ除キ五日以内ニ地方長官ニ請願スベシ。此ノ場合ニ於テ差押處分ハ仍之ヲ執行スト雖モ公賣ハ腐敗シ易キ物件ヲ除ク外地方長官ノ指令アル迄之ヲ猶豫スベシ。

第二十七條 地方長官ノ指令ニ服セズシテ裁判所ニ訴ヘントスル者ハ其由ヲ部長又ハ區長ニ通知スベシ。但其公賣前ニ係ルモノハ先差押費用及滞納税金ヲ完納スルニ非レバ訴フルコトヲ得ズ。

第二十八條 差押處分ノ際又ハ其後ニ於テ徵收ヲ免カル、爲ニ財産ヲ隱匿シ、又ハ隱匿セシメタル者ハ十一日以上三圓以下ノ罰金ニ處ス。

第二十九條 地方稅備荒儲蓄金區町村費及徵發令ニ依レル義務ノ滞納ハ總テ此規則ニ照準シテ處分スベシ。

但戸數割ニ對シテハ不動産ヲ差押フルヲ得ズ。

第三十條 此規則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム。

第三十一條 此規則ハ明治 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス。



# 不納租稅ニ關スルボアソナード氏 答議

## 問

歐洲諸國ニ於テハ未納ノ租稅ヲ辨償スルニハ不動産ヲ公賣シ、而ル後不動産ヲ公賣スル規則ナリ。我日本ニ於テハ然ラズ、租稅ヲ賦課シタル品物ノミヲ公賣シテ未納稅ヲ辨償セシムルノ法ナルガ故ニ二個ノ弊害ヲ生ズルニ至ル。

第一 納稅者地稅ヲ拂ハザルハ政府ハ容易ニ其遺傳ノ財產ヲ差押ヘテ之ヲ他人ノ手ニ移轉セシムルニ至ル。是レ納稅者ノ爲メニ惜ムベキナリ。

第二 營業稅ニ付テ言ヘバ營業者ガ稅金ヲ拂ハズシテ差押ヲ受ケントスル前ニ、竊ニ製造品及製造器ヲ他人ニ賣却スル事アリ。然ルトキハ營業者ハ他ニ財產ヲ有スト雖モ政府之ヲ公賣シテ稅金ヲ償ハシムル能ハズ。

右二個ノ弊害アルガ故ニ、日本ニハ歐洲ノ法律ヲ採用スベキカ、將タ弊害ノアル所ヲ救正シ

テ我が國法ヲ保持スベキカ高見如何。

## 答

凡租稅ヲ拂ハザル者アルトキハ、官廳ハ不動産公賣ノ前ニ先動產ヲ公賣シテ以テ之ヲ償フコトヲ得ルト信ズルナリ。何トナレバ租稅ハ他ノ尋常負債ノ如ク抵當トシテ義務者ノ總財產ヲ有スル一個ノ負債ニ外ナラザレバナリ。

若動產ノ代價不充分ナル場合ニ於テハ、官廳ハ先未納者ノ已ニ刈取シテ藏蓄シタル收穫物、又ハ未ダ刈取セズシテ猶地上ニ在ル收穫物ヲ公賣ニ付スベシ。官廳ハ之等ノ收穫物ニ付キ先取特權ヲ有スルモノトス。但官廳ハ前年ノ未納稅ニ付テモ本年ノ收穫物ニ先取特權ヲ有スルナリ（佛蘭西ニ於テモ斯ノ如ク爲シ來レリ）

收穫物ノナキトキハ官廳ハ土地ヲ公賣スルヲ得、佛蘭西ニ於テハ官廳ハ租稅ニ付キ不動産ノ代價ニ先取權ヲ有セザル規則ナレドモ、日本ニ在テハ先取特權ノ制ヲ立ルモ原理ニ違背スルコトナキナリ。不動産ヲ公賣スルヲ許ストキニハ容易ニ未納者ヲシテ遺傳ノ財產又ハ一家ノ財



産ヲ失ハシムルニ至ル。是レ義務者ノ爲ニ惜ムベキコトナリ。然レドモ之ノ弊害ヲ豫防セントスルニハ亦甚容易ナリ。

第一 上等官廳ハ其僱屬ニ命ジ、屢次ノ納税ノ催促ヲ爲シタル上ニアラザレバ財産差押ヲ爲スベカラズト命ズベシ。但收税官ヨリ地方長官ノ許可ヲ得ルニハ、收税者ヨリ租税未納者ノ景状未納者ノ善意惡意未納者貧困ノ原由等ニ付意見書ヲ差出シ、地方長官ハ之ヲ閱覽シ、以テ或ハ財産差押ヲ許可シ或ハ之ヲ拒絶スルコトアルモノトス。

第二 遺傳ノ不動産ハ二年又ハ三年間ノ間税ヲ延滞シタル場合ニ非ザレバ之ヲ差押ヘテ公賣スル事ヲ得ズト定ムルコトヲ得ベシ。

若シ他ノ債主アリ不動産ヲ差押フルトキハ、政府ハ二年又ハ三年ノ期限ヲ俟タズ、租税徴收ノ權利ヲ主張シ得ルハ勿論ナリトス。之ヲ豫防ノ方法トス。

政府ノ差押ヲ爲ス前ニ所有者ヨリ善意又ハ惡意ニテ他ニ財産ヲ賣却スルコトアリ、此場合ニ於テハ財産買主ハ前年ノ租税又ハ本年ノ租税ヲ拂フノ責ニ任ズベキハ至當ナリト思ハル、ナリ。何トナレバ買主ガ代價ヲ拂フ前ニ賣主ニ於テ租税ヲ延滞セザリシヤヲ調査シ、若シ延滞アルヲ知リシトキハ政府ニ辨償ヲ爲サンガ爲ニ代價ノ幾分ヲ留置ハ買主ノ責任ナレバナリ。

然レモ余ノ同意スル能ハザル所ノ者ハ、若シ財産ヲ公賣ニ付シ買主ノアラザルトキハ政府ニ於テ之ヲ沒收スト制定シタルニ在リ。是レ法理ニ背クノ條項トス。

若シ財産賣却ヲ公告スルトキハ必ず買主ノアルベキ理ナルガ故ニ、一人モ買主ナキハ實地アラザル事タリ。ヨシヤ買主ノアラザルトキハ公賣ヲ他日ニ譲リ且代價ヲ低減シテ公賣ヲ爲スベシ。猶斯ク爲シタル上ニテ買主ノアラザルトキハ財産ニハ毫モ價ノアラザル事ヲ證スルモノニシテ、收獲ト賦税ノ割合其度ヲ失シタルヲ證スルモノナリ。斯ノ如キトキハ官廳ハ租税賦課ノ適度ヲ失シタルハ過失アルヲ證スルモノナリ。

然レドモ他ノ諸人公賣ノ財産ヲ購買セザルハ不動産ヲ差押ヘラレタル所有者(即チ納税ヲ忘リタル者)ノ爲メニ讎ヲ復セント欲スルニ在リトスルモ、政府ハ沒收ヲ爲スベカラズ。自ラ財産ヲ購買スルカ又ハ管理人ヲ撰ビ財産ヲ之ニ付托セザルベカラズ。

營業稅ニ於テハ官廳ハ商品及製造器ヲ以テ之ヲ拂ハシムル事ヲ得ベシ。

政府ハ營業稅ニ付キ先取權ヲ有スルモ、原則ニ背カザルナリ。佛蘭西ニ於テハ政府營業稅ニ付先取特權ヲ有セズ、何トナレバ佛蘭西ニ於テハ營業稅ヲ十二分シテ之ヲ月々ニ徴收スルガ故ニ、政府ニ於テ先取特權ヲ主張スルナク之ヲ收税スル容易ナレバナリ。



營業者ノ竊ニ轉宅スルキハ其住居セシ土地ノ所有者ハ未納ノ營業稅ヲ償フノ責ニ任ズベシ。  
 營業稅ハ動產不動產ヲ以テ之ヲ拂フベキモノタルハ疑フベキ事ニアラズ。而ルニ日本ニ於テ  
 斯ノ如クナラザルハ蓋シ租稅ハ尋常負債ヲ爲スノ方法ヲ以テ之ヲ設クルモノニアラズ、又納稅  
 者ノ之ヲ出サントノ意志ヲ直說スルモノニアラザルガ故ニ、之ヲ尋常負債ト看做サバリシニ因  
 ルナラン。之ヲ要スルニ租稅ハ法律ヨリ生ズル一個ノ義務ニシテ、總テ財產ヲ以テ履行セザル  
 べカラザルモノナリ。

東京千八百八十三年七月二十七日

ボアソナード

### 租稅免除權ニ就テロエスレル氏答議

問

普國ニテ大藏大臣ハ罹災ノ窮民ニ對シ其租稅ヲ免除スル權利ヲ有スト聞ケリ。  
 果シテ然ラバ其之ヲ免除スル爲ニ何等ノ要件<sup>コンチチヨシ</sup>アリ乎。又何等ノ制限モナキ乎。乞教。

井 上 毅

ロエスレル氏貴下

答

予ハ貴問ニ答フルニ際シ、租稅免除ニ關シ純然タル恩赦及權宜ヨリ生ズルモノト、法律ノ規

不納租稅ニ關スルボアソナード氏答議



定ニ從ヒ行政上ノ手續ヲ以テスルモノトヲ區別スベシト認ム。

純然タル恩赦及權宜ヨリ生ズル免稅權、又一層正當ナル語ヲ用ユルトキハ、免除權ノ執行ニ依テ之ヲ爲スヲ得ルノミ。而シテ此權ヤ孛國ニ於テハ國王ノ特有ニ歸スレドモ、如何ナル場合ニ在テモ一大臣殊ニ大藏大臣ノ副署アルヲ例規トス。予ノ見ル所ニ依レバ、赦免權ハ刑罰ニ關シテ施行スルヲ得ルノミニシテ、臣民ノ義務ニ係テハ施行スルヲ得ズ。免除權ハ孛國憲法ニ掲載セザレドモ實際尙之ヲ施行シ、以テ憲法頒布前ニ承諾セラレタル國王ノ權利ヲ繼續セリ。而シテ孛國々王ハ千八百二十四年十二月十八日ノ會計検査院章程ニ於テ、此免除權ヲ保存シタリト雖、千八百七十二年四月二十七日ノ會計検査院法ニ於テハ、代議士院ノ異議ニ依リ之ヲ除キタリ。然レドモ憲法ニ此權ヲ禁止スルノ明文ナキノミナラズ、爾來續々之ヲ執行シタルノ事實アルヲ以テ、政府ハ千八百六十二年ヲ以テ尙之ガ實行ヲ試ミタリ。蓋國法學ニ於テハ英國ノ原則ニ倣ヒ、法律ノ明文ヲ以テ此權ヲ與フルニ非ザレバ許サル、モノトセリ。然レドモ孛國政府ハ從來此權ノ保存ニ付疑ヲ容レザルノミナラズ、又一ハ權宜ニ適フ爲、一ハ納稅者ノ資力ヲ害セザル爲、到底缺クベカラザルノ理由ヲ以テ其口實トナシタリ。今ヤ孛國ニ於テ實際免稅權ヲ執行スルヤ否、及其程度ニ至テハ予之ヲ陳辯スルヲ得ズト雖ドモ、主義上尙此權ノ存續スルハ爭フベカラザルコト、ス。蓋英國憲法ノ原則ハ直ニ獨逸國ニ採用スベキモノニ非ズ。獨逸國法

ニ依レバ國王ハ法律ノ明文ヲ以テ制限セラレ、又ハ取除ケラレザル限リハ免除權ヲ占有ス。而シテ茲ニ其數例ヲ舉ゲンニ、巴威爾憲法第三章第四條ニ依レバ法律ヲ以テ許シタル免許ノ外國民ニ對シ、公然ノ負擔ヲ免除スルヲ得ズ。又瓦敦堡ニ關シテハ「モール」氏其瓦國々法論第一卷第二百九丁第二百二十七丁ニ於テ免除權ノ存續ヲ主張ス。孛國ニ關シテハ「リヨンネ」氏其孛國々法論第四卷第四百十八條第七百四十五丁ニ於テ論ズル所、全ク此權ヲ排斥シタルニハ非ザレドモ、凡ソ租稅ノ免除ハ純然タル恩典ニ出ベカラズ、豫メ之ガ検査ヲ爲スカ若クハ十分ノ理由アルニ非ザレバ之ヲ許可スベカラザルノミナラズ、屢々其許可ヲ與ヘ以テ法律ヲ無効タラシムベカラズトノ說ヲ爲ス事殆ンド「モール」氏ノ所見ニ異ナル事ナシ。而シテ此制限ヤ正當ナルモノト認メザルヲ得ズ。但茲ニ注意スベキ一事ハ、免稅權ハ大藏大臣ニ屬セズ、一大臣ノ副署ヲ以テ國王ノ特有ニ歸スル事はナリ。

法律ノ規定ニ準據スル行政上ノ免稅ハ、正當ノ順次ヲ經テ管轄廳之ヲ行フモノトス。其判定ヲ行政廳ノ意見ニ任スルト、納稅者ノ法律上權利ト認ムルノ區別ニ從ヒ、甲ノ場合ニ於テハ大藏大臣終審ノ裁決ヲナシ、乙ノ場合ニ於テハ行政裁判院其裁決ニ任ズルモノトス。予ノ知ル所ニシテ果シテ誤ナキトキハ、孛國並巴威爾ニ於テハ行政廳其終審裁決ヲ爲スモノノ如シ。蓋巴威爾ニ於テハ千八百三十四年七月一日ノ免稅法アリ、而シテ該法ニ依ルトキハ凡ソ免稅ハ納稅



義務者ノ過失アルニ非ズ、損傷ノ爲納稅物ノ收獲ヲ減ズル事四分ノ一以上ナル場合ニ限り之ヲ許可スベク、孝國ニ於テハ各國ノ租稅ニ關シ各別ノ法律ヲ以テ免稅ノ事ヲ制定セリ。

孝國千八百六十五年八月二十一日勅令ニ依ルモ、尙地稅ハ洪水水害降霰暴風ノ如キ天災ノ爲平均收獲ヲ損失スルコト三分一以上ナル時ハ之ヲ減稅スベシト雖、千八百六十七年二月六日ノ勅令及千八百六十七年二月八日ノ法律第五十二條ヲ以テ、國庫ニ對スル免稅ノ請求ハ後來之ヲ許可セズ、而シテ免稅ヲ許可スルノ決議ヲ爲スノ權又之ヲ補充スルノ目的ヲ以テ、國庫ニ對シ一定ノ資金ヲ徵收スルノ權ヲ舉ゲテ州會又ハ其他ノ地方議會ニ放任スベシト規定ス。蓋孝國ニ於ケル地租補充資金ハ千八百三十九年一月二十一日ノ訓令ヲ以テ設置シタルモノ是ナリ。

家屋稅ノ免除ハ千八百六十九年五月二十一日ノ家屋稅法第十九條ヲ以テ制定セリ。該法ニ依ルトキハ火災又ハ其他ノ天災ノ爲一箇年ノ家屋收益ヲ全失シ、又其一部ヲ失フコト一箇年ノ使用收益ノ三分ノ一以上ニ出デ、又ハ一箇年間全ク家屋ヲ使用セザル場合ニ於テ免稅ヲ許可スベキノ規定タリ。

營業稅ノ免稅ニ關シテハ千八百六十一年七月十九日ノ法律第二十一條、千八百七十二年三月二十日ノ法律第二條、及千八百七十四年六月五日ノ法律第二條ニ於テ大抵ハ上ト同一ノ規定ヲ設ク。

以上論述シタル免稅權ヨリ生ズル免稅ノ問題ハ政府ハ豫算ノ收入ヲ必定徵收スベキ無限ノ義務ヲ有スルヤ否ニ關スル點ヨリ論ズレバ、憲法上ニ必要ノ關係アリ、而シテ豫算ヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ必定遵守スベキ効力アルモノト見ルトキハ検査上ヨリ出ル免稅權ハ既ニ成立スルヲ得ズト雖ドモ、豫算元來概算ノ性質ヲ帶ルモノナレバ、之ヲ履行スルト否トハ當時ノ事情如何ニ依ルベキナリ。予ノ見ル所ニ依レバ豫算ハ未ダ以テ憲法ニ準據スル行政權ヲ廢滅スルニ足ラズ、而シテ其他ノ豫算超過ヲ生ジタル場合ニ於テ、尙之ヲ承認スベキヤ、又豫算ニ關スル無限ノ裁決權ハ總テ之ヲ議院ニ與フベカラザルヤノ重要ナル理由ハ則チ此一點ニ歸スルナリ。

明治二十年十二月二十三日

リヨースレル 再拜



# マエツト氏預金條例ニ係ル意見

(明治二十年六月二十六日譯成)

## 第一

問 政府ニ於テ一私人又ハ諸會社等ニ係ル預金ヲ取扱フハ正當ナルモノナルヤ。或ハ之ヲ一銀行若クハ數銀行ニ委スベキモノナルヤ。

答 政府ニ於テ之ヲ取扱フハ原則上正當ナリトス。若シ不當トナストキハ官立貯金預所ノ設立ヲ以テ原則ニ違フモノト爲サザルヲ得ズ。然レドモ現ニ數多ノ國ニ於テ郵便貯金預所ヲ置キ此事ヲ取扱ハシメ、以テ政府ノ職分ニ屬スルモノト信認スルモノニ據リテ其正當ナルヲ知ルニ足レリ。

又數多ノ國ニ於テ右貯金預所ノ外、更ニ官立ノ他種預金取扱所アリ、即チ佛國ノ預金局、

伊國ノ預金兼國債局ノ如キ是ナリ。

## 第二

問 政府ハ此等ノ預所(譯者曰ク即前項ノ郵便貯金預所及預金局等ヲ合稱ス以下之ニ做フ)ニ籍リテ國庫ノ利益ヲ收ムルコト、其公衆ニ與フル利益ヨリモ多カラシムコトヲ圖ルヲ得ベキカ。

答 此ノ如キ計畫ハ未曾テ見ザル所ナリ。假令預所ハ種々ノ利益ヲ國庫ニ與フルコト少ナカラザルモ、其主旨タル直接ニハ公衆ノ利益ヲ圖ルニ在リ。何トナレバ此設アルヲ以テ自ら勤儉ト氣風ヲ養成シ、且細民ヲシテ困難ノ際其需用ニ應ズルノ資金ヲ得セシムレバナリ。又右佛國及伊國ノ預金局ハ固ヨリ公衆ノ利益ヲ圖ルヲ以テ第一ノ目的トス。而シテ伊國ノ預金局ニ於テハ左ノ二項ヲ以テ業務ノ主要トナセリ。

甲 裁判所及其他ニ於テ保管スベキ現金並ニ公債證書及一私人又ハ諸會社ヨリ利殖ノタメ各都市ノ預金支局ニ預ケ入レタル現金併ニ金券等ヲ受入レ及保管スル事。

乙 受入レタル金ハ貸付規約ニ據リテ町村又ハ一私人ニ貸付ケ建築ノ如キ公益事業ヲ起スノ



費用ニ充テシメ、或ハ縣會若クハ町村ノ負擔セル苛重ノ義務ヲ解カシメンガ爲メ低利ヲ以テ貸付ル事。

佛國預金局ハ所有權未定ノ財産ヲ保管スルヲ以テ業務ノ主要トナシ、且ツ左ノ支局ヲ設ク。

- 一、養老貯金預所、
- 二、教徒手當金預所、
- 三、軍ノ受贈金預所、
- 四、共救會社受贈金運轉資金及退隱料預所、
- 五、陸海軍隊受贈金預所、
- 六、惡路修繕貯金預所、
- 七、生命保險金預所、
- 八、農工業保險金預所、

右ニ據レバ伊國ノ預金局ハ預リ入レ及運轉ヲ以テ公衆ニ利益シ、佛國ノ預金局ハ單ニ預リ入レヲ以テ公衆ニ利益スルモノナルヲ知ルベシ。

(備考) 三國ノ官立貯金預所ニ於テ國家財政上ノ利益ヲ先ニシ人民ノ利益ヲ後ニスルコトアルハ第七乙ニ就テ見ルベシ。

### 第三

問 一般ノ幸福ヲ目的トセズシテ專ラ理財上ノ目的ヲ以テ官設預金局ヲ設立スルノ考按ハ之ヲ排斥スベキヤ。

答 否之ヲ排斥スベカラズ。然レドモ之ヲ實行スルニ付キテハ少クモ一般ノ幸福ヲ害セザル丈ノ規程及制限ヲ設ケザル可カラズ。

### 第四

問 草案ノ法ハ一般ノ幸福ヲ害スルヤ。

答 然リ之ヲ害ス。

甲 額面二圓五圓及十圓(第三條)ノ無記名預金年賦證券ハ利付紙幣ニ外ナラザルナリ、然リ而シテ其次期ニ拂渡スベキ賦金券ト受取人拂渡期モ金額ヲ受取ラザル賦金券ノ未ダ期滿免除ニ至ラザルモノトヲ紙幣ノ如ク世上ニ流通スルト然ラザルトハ其證券ノ體裁如何ニアルモノナリ。蓋シ證券ヨリ各賦金券ヲ切取リテ現金ニ引換フルモノトセバ、二圓五圓拾



圓ノ賦金券ヲ切放サズ、其賦金券ハ紙幣トナラザルモ證券(少クモ小額ノ證券及ビ五年並ニ十年ノ期限アル小額ノ證券)全體ヲ以テ紙幣ト一般ニ流通スルニ至ルベキナリ。夫ノ無知無學ニシテ後年ニ於テ拂渡スベキ賦金券ノ現時ニ在リテ幾分カ其價ガ減ズベキ所以ヲ知ラザル者ハ、各種ノ證券ヲ以テ必ズ左ノ價格ナリト信ズルナルベシ。

- 二圓宛ノ賦金券十枚ヲ附シタル證券ノ價額(甲)二十圓
  - 二圓宛ノ賦金券二十枚ヲ附シタル證券ノ價額(乙)四十圓
  - 五圓宛ノ賦金券拾枚ヲ附シタル證券ノ價額(丙)五十圓
  - 五圓宛ノ賦金券二十枚ヲ附シタル證券ノ價額(丁)百圓
- 又賦金券ノ内既ニ四枚ヲ切取リタルモノハ即チ左ノ價格アルモノト信ズルナルベシ。

- (甲) 十二圓
- (乙) 三十二圓
- (丙) 三十圓
- (丁) 八十圓

然ルニ此證券ノ實價ハ獨リ利倍增殖計算法ヲ熟知シ、殊ニ利倍增殖計算法ヲ所有スルモノニアラザレバ知ル能ハザルナリ。故ニ學識アルノ輩ト雖モ各證券ノ實價ヲ知ルハ甚ダ難

シトス。左レバ此證券ニ付テハ或不知シテ損失ヲ被ルモノト、或ハ知リテ不當ノ利益ヲ得ル者トアルベキナリ。

此各種證券ハ左ニ掲グル數種ノ價格アルヲ以テ取引所ニ於テ其相場ヲ定ムルコト甚ダ難カルベシ。

- 償還期三十年(即賦金券六十枚ヲ附シタル)ノ證券ハ其現在賦金券ノ多少ニ由リ、
  - 六十種
  - 五十種
  - 三十種
  - 二十種
  - 十種
- 同上二十五年ノ證券同上
- 同上十五年ノ證券同上
- 同上十年ノ證券同上
- 同上五年ノ證券同上
- 合計 百七十種

故ニ毎年預金年賦證券ヲ發行スルトキハ取引所ニ於テ遂ニ百七十種ノ相場ヲ立テザルヲ得ザルベキナリ。

此他預金年賦證券ハ特ニ一定ノ償還期限アリテ隨時償還スル者ニアラザルガ故ニ、恰モ往時ノ金札ニ於ケルガ如ク硬貨ニ對シテ打歩ヲ拂ハザルヲ得ザルベシ。



預金年賦證券ノ不利ナル、獨リ此ニ止マラズシテ、夫ノ利倍增殖計算表ヲ有シ、且ツ打歩計算法ヲ知リテ實價ヲ算出スルコトヲ得ル者ト雖モ、尙時々ノ普通利子ノ高低モ注意セザル可カラザルナリ。何トナレバ普通利子ノ高低ハ他ノ公債證券ノ相場ニ影響スルガ如ク預金年賦證券ニモ亦影響ヲ及ボスベキヲ以テナリ。

故ニ預金年賦證券ヲ流通ニ供スルハ紙幣ヲ流通スルニ如カザルベシ。紙幣ハ同時ニ二種ノ相場ヲ有セズ。而シテ其相場ハ新聞紙ニ由リ直ニ之ヲ知ルコトヲ得ベシト雖モ、預金年賦證券ニ在リテハ其實價ヲ知ラント欲セバ一々錯雜ナル計算ヲナサザル可カラザルヲ以テ此證券ノ爲メ損害ヲ被ル者ハ獨リ無知無學ノ輩ノミニアラズ、知識アルノ輩ト雖モ亦此損失ナキヲ保セズ、而シテ最モ利益ヲ受クル者ハ専ラ兩替商及ビ高利貸ノ輩ニアルナリ。

乙 預金年賦證券ハ細民ヲ誤ラシムルモノト謂フベシ。蓋シ此證券モ亦些少ノ金額ニ利子ヲ付スルガ故ニ、恰モ貯金預所ト同一ノ利益ヲ與フルガ如ク見ユ。而シテ貯金預所ノ主眼タル勤儉者ノ金錢ヲ預リ、成ル可ク之ヲ徒費セザラシムルノ大目的ハ一モ此證券ニ存セザルナリ。然ルニ今條例草案第一條ニ據レバ、郵便貯金預所ニ於テ預リタル貯金ト雖モ、亦其證券ヲ發行スルコトヲ得セシムルノ主意ニ出デタルモノノ如シ。其害ノ大ナル亦以テ知ル可キノミ。

丙 預金年賦證券ハ貯金ノ原則ニ違ヒ、節儉蓄積ヲ分割シテ徒ラニ幾多ノ少額トナスノ害アルナリ。貯金ハ決シテ之ヲ分割スルノ便利ヲ與フベキモノニアラズ。若シ預人ニ於テ一定ノ年限中毎年同一ノ金額ヲ要スルコトアラバ、隨意ニ貯金ノ拂戻ヲナシ、自カラ預金局ノ預金年賦證券ヲ購入スベキナリ。何ゾ貯金局ニ特別ノ方法ヲ設ケテ故ニ預人ノ便利ヲ計ルノ要センヤ。況ヤ如斯ハ極メテ稀ナルニ於テヤ。

### 第五

問 預金通常證券ハ一般ノ幸福ヲ害スルモノナルヤ（此證券ハ整理公債證券ノ一種トス）

答 否ナ之ヲ害セズ、此證券ヲ害スルハ他ノ高利公債證券ノ利子ヲ低減スルノ良法トス。而シテ公債證券ノ利子ヲ低減スルトキハ納稅者ノ利益トナルベキナリ。

今額面十圓及三十圓ノ如キ少額ノ證券ニ付テハ種々ノ反對說及賛成說アリト雖モ、余ハ寧ロ之ヲ賛成セント欲スルナリ。

思フニ之ヲ攻撃スルノ要點ハ草案中利子額ヲ定ムルノ箇條ヲ掲グズシテ、一ニ大藏大臣ニ委スルノ一事ニ在リトス。抑モ公債證券ノ利子額ハ財政上法律ヲ以テ之ヲ確定シ置カザ



ル可カラズ。故ニ草案ニ於テモ亦豫メ其額ヲ定ムルヲ要スルナリ。然レモ大藏大臣ヲシテ時々低下セル普通利子ニ依リテ低減スルコトヲ得セシメンガ爲メ（是レ固ヨリ草案ノ趣意ナラン）草案ニハ唯證券ニ整理公債證書ヨリ高額ノ利子ヲ附ス可ラザル旨ヲ掲グルヲ以テ充分トナスナリ。

### 第六

問 預金局ノ預リ金ニ對シ通常預金證券ヲ發行スルハ果シテ正當ナルヤ。

答 若シ預金局ノ性質ヲシテ佛國ノ預金局ト異ナル所ナカラシメバ、政府ノ危險擔任ヲ以テ預金ヲ運轉スルコトヲ得ベシ。夫ノ佛國預金局ハ即チ其預金ヲ以テ政府ノ抵當證券公債證書等ヲ買收シ、而シテ相場ノ高低ヨリ生ズル損失ノ外元金及利子ニ付キ總テ預人ニ對シテ其責ニ任ゼリ。

余ノ遺憾トスル所ハ日本預金局規定ノ詳細ヲ知ル能ハザルニ在リ。何トナレバ此事ヲ調査スル甚ダ急速ヲ要シ、而シテ本案ヲ草スルニ僅カニ兩日午後ノ時間ヲ得ルニ過ギザレバナリ。然レドモ條例草案第一條預ケ人ノ望ニ依リ云々ノ文ニ據リテ考フレバ、預金局ハ全ク他ノ性質ヲ

有スルモノ、如シ。

故ニ預金局ニ於テ其預金ヲ以テ相場上昂低ヲ及ボス所ノ金券ニ換ヘントスルニ、惟法律上及德義上ニ於テ其買收ヲナスノ權利アル預ケ人ニ限ルモノトセバ、之ヲ預金通常證券ニ換フルモ余ハ決テ異議ヲ容レザルナリ。

### 第七

問 郵便貯金預所ノ預金ヲ預金通常證券ニ組換フルヲ得ベキヤ。

答(甲) 佛國白耳義國及奧國ノ預金局ニ於テハ一冊ノ通帳ヲ以テ漸次預入レ又ハ其利子ノ増殖スルニ由リ、一定ノ金額ヲ超過シタルモノアレバ直ニ其金額ヲ公債證書ニ換ヘテ之ヲ保管シ、且其利子ヲ受取リテ右ノ通帳ニ記入スル等ノ取扱ヲ爲スナリ。

此方法ニ依ルトキハ自ラ政府ヲシテ巨額ノ預金ニ關スル責任ヲ免レシムルガ故ニ、最モ必要ナル良法ト謂フベシ。何トナレバ若シ預ケ人ニ於テ世上金融逼迫及公債證券相場下落ノ場合ニ當リ（戰爭ノ時ノ如シ）其金額ヲ取戻スニ至ルモ、政府ハ其通帳ニ記入シタル金額ヲ支拂フニ過ギズシテ其相場ノ差違ハ獨リ預ケ人ノ損失ニ歸スベキヲ以テナリ。故ニ日



本ニ於テ此等ノ方法ヲ用フルトキハ貯金規則ノ改良ト言フベキナリ。

(乙) 佛國白耳義國及奧國ニ於テハ又預ケ人ノ望ニ依リ假令一定ノ金額ヲ超過セザルモ、其預金ヲ以テ公債證書ヲ買收シ之ヲ保管スルノ方法アリ。

然ルニ此方法ハ亦短所ナキニ非ズ。何トナレバ貧窶ナル預ケ人ハ僅少ノ資金ヲモ之ヲ得ルコト甚ダ難ク、而シテ急難ノ際多クハ其預金ニ依頼スルガ故ニ、之ヲ公債證書ニ換フルトキハ終ニ其預ケ人ヲシテ相場上ノ損失ヲ被ラシムルノ患害アルヲ以テナリ。元來郵便貯金預所ヲ設クルノ主旨ハ決シテ此等ノ手段ヲ施スベキモノニ非ズ。故ニ余ハ將ニ狂惑ノ二字ヲ以テ此方法ヲ評セシノミ。其國庫ノ利益ヲ後ニシテ細民ノ利益ヲ先ニスベキハ固ヨリ論ヲ俟タザルナリ。蓋細民ノ利益トスル所ハ公債證書ヨリ幾分カ低利ナルニ拘ラズ、該證書ヲ換ヘズ現金ニテ預ケ置クニアルモノトス。

(丙) 條例草案ニ據レバ貯金ヲ以テ組換ヘタル預金通常證券ハ貯金局ニ於テ引續キ保管セザルナリ。然ルニ其保管ヲ爲スハ無知蒙昧ニシテ利券ノ何物タルヲ辨ゼズ、且利子ノ受方ヲモ知ラザルノ輩、又ハ小市僻邑ニ住居シ利子ノ受取方不便ナル者等ニ對シテハ甚ダ必要ノ事トス。蓋シ該證券ノ如キモ其保管ノ方法アリテ始メテ世人(下等人民モ亦含有セリ)ノ好尙ヲ招クニ至ルベキナリ。

又此方法ニ依ルトキハ盜難ニ懼ルノ憂ナク、且ツ其勞苦シテ得タル所ノ證券ヲ容易ニ沽却シテ浪費スルコトナカラシムベシ。

(丁) 故ニ余ハ貯金局ニ於テ特ニ方法ヲ設ケ、貯金ノ預入レ及利殖ニ因リテ一定ノ金額ヲ超過シタルモノハ、預ケ人ノ危險承認ヲ以テ之ヲ預金通常證券又ハ他ノ法律上ノ金券ニ換ヘ引續キ保管セシメラレンコトヲ欲スルナリ。

## 第八

問 預金局及郵便貯金ノ運轉ヲナスハ預金通常證券ニ換フルノ一方法ニ過ギザルベキヤ。

答 否預金ヲ以テ公債證書ニ組換ユルハ(正當ナレモ)決シテ最良ノ方法ニ非ズ、但伊國預金兼國債局ニ於テ施行スルモノ、如キハ最良ノ方法ト稱スベシ(第二ヲ觀ルベシ)

伊國ニ於テハ中央預金局ノ設ケナキモ帝國銀行ヲシテ其業務ヲ取扱ハシメ、或特種ノ預金即孤兒ノ所有金ニ係ルモノ、如キハ一定ノ金券ニ換フルノ成規アルヲ以テ、伊國ノ方法ト同一ナルノ効益アリトス。其金券ノ種類及貸付ヲ爲スベキ物件左ノ如シ。

### 一、帝國公債證書

マエツト氏預金條例ニ係ル意見



二、聯邦公債證書

三、帝國及聯邦保證ノ公債證書

四、帝國及聯邦銀行ノ抵當證書

五、帝國地方（縣郡區町村等）ノ公債證書若クハ其銀行等ノ金券

六、確實ナル抵當物及地所（收穫純益十五倍迄）

又裁判所及後見事務所ノ保管ニ係ル金銀及寺院學校病院其他慈惠ノ目的ニ出ヅル諸結社等ノ資金ヲ運轉スルコトヲモ亦獨逸銀行ヲシテ取扱ハシメリ。蓋シ獨逸銀行ハ其條例第十二條ノ旨趣ニ導ヒ、全國ノ金融ヲ管理シテ取引ヲ便利ニシ且流用ニ供スベキ資金ヲ運轉スルノ義務ヲ有スルナリ。

故ニ伊國及孛國ニ施行スル方法ハ預金局及郵便貯金局ノ預金ヲ運轉スルニ惟通常預金證券ニ組換フルノ一法ヲ用ユルモノニ比スレバ經濟事業上頗ル高尚ニシテ且ツ善ク世益ヲ成スノ目的ヲ達スルモノト謂フベシ。

日本ニ於テハ未ダ地方ノ金融ヲ助クルノ方法即取引所ニ於テ賣買スベキ縣債郡債町村債又ハ縣郡町村ノ保證ヲ以テ成立スル銀行等ノ金券及抵當證券ヲ發行セザル間ハ固ヨリ其銀ヲ金券ニ引換フルコトヲ得ズ。故ニ現今ニ於ケル金銀運轉ノ道ハ政府發行ノ公債證書及ビ政府ノ保證ア

ル株券ヲ買收スルノ一途アルノミ。加之ナラズ一種若クハ二種ノ公債證書ニ止ルヲ以テ得策トスルノ有様ナリ。

然リ而シテ若シ銀行（日本銀行）ニ於テ右預リ金ニ依ラズシテ獨逸銀行ト同様ノ職分ヲ容易ニ盡シ得ルモノトセバ、預リ金ノ組換ヲ爲スモ現今ニ在リテハ格別ノ不都合ナカルベシ。然カレドモ其組換ヲ爲スガ爲メ、銀行ノ職分ヲ害スルニ至ルカ、又ハ銀行ニ於テ預金ノ使用ヲ要スルトキハ勿論其銀行ヲシテ之ヲ運用セシメザル可カラズ。

左レバ第八問ニ對シ「否」ト答ヘタルハ其語意甚輕クシテ實際ノ狀況ニ依リテ斟酌スベキ意味ヲ含蓄スルモノトス。

第九

問 預金年賦證券ヲ發行シテ國庫ニ貯金ヲ收集スルヨリハ日本經濟上ノ爲メ他ニ之ニ優ルノ良法ナキヤ。

答 然リ之レアリ。余曩ニ學校貯金論ヲ著シ、貯金事業擴張ノ考案ヲ提出シタルコトアリ（該論ハ千八百八十年日本教育會ニ於テ之ヲ日本文ニ反譯シテ出版セリ）



余ハ該論ニ於テ甚ダ簡易ナル貯金法ヲ説述シタリ。其方法ハ獨リ學校ノミナラズ、町村會社船舶、製造所、鑛夫組合諸結社及官吏組合等ニテ亦之ヲ用フルコトヲ得ルモノナリ。然リ而シテ貯金預所ヲシテ如此大ニ事業ヲ擴張（此ニ大ニト言フ所以ノモノハ他ナシ全國町村ノ數七萬千七百七十八ニシテ學校ノ數ハ大凡ソ三萬ノ多キニ及ベルヲ以テナリ）セシムル所ノ新法ハ、年號ヲ印シタル貯金切手ヲ用ヒ、拂戻ノ際其實下以降ノ利子ヲ元金ト共ニ交付スルノ方法トス。而シテ其元利ノ高ハ利子計算一覽表ニ依リテ立チドコロニ之ヲ知ルコトヲ得ベシ。此切手ハ貯金局ヲシテ之ヲ製造セシメ、貯金預所ノ設ケアル學校町村會社船舶等ヲシテ賣下ヲ爲サシムルノ方法ナリ。

該切手ハ余之ヲ地方別トナシ、之ヲ賣下ゲタル學校町村等ニ限リテ其拂戻ヲナシ、而シテ賣下學校ヲ知り且ツ切手ノ検査ヲ容易ナラシメンガ爲メ、各切手ニ學校町村等貯金預所印ヲ押サシム、是其切手ヲ流通紙幣ニ代用スルノ弊ヲ防ガンガ爲ナリ。

此他各貯金切手ニハ其裏面ニ之ヲ買求メタル者（生徒農夫等）ノ氏名ヲ掲グルモノトシ各學校町村等ヲシテ其量定ニ從ヒ氏名ヲ記セシム。思フニ此方案ハ之ヲ一般ニ施行スルモ敢テ之ヲ攻撃スルノ説ナカル可シ。何トナレバ其原則タル一定ノ人員ヲ以テ一二ヶ年以上一定ノ年限間結合シテ其貯金事務取扱人（教員戶長等）各組合員ヲ面識シ又ハ之ヲ識別シ

得ルモノニ施行セント欲セルヲ以テナリ。

然リ而シテ預ケ人口別簿每半年利子計算簿等ヲ省略シ、並ニ貯金利子ノ幾分ヲ事務取扱人ノ報酬及學校町村等ノ利益トナスガ如キ貯金法ヲ擴張スルニ便利ノ方法ハ學校貯金論ニ於テ之ヲ論ジタルガ故ニ其詳細ハ姑ク之ヲ該書ニ譲リテ茲ニ之ヲ論ゼザルベシ。

要スルニ余ハ草案中預金年賦證券ニ係ル一項ヲ削除シ、マイエツトラコトコウスキ法ノ貯金切手ヲ使用シ、貯金法ヲ擴張シテ貯金ノ額ヲ増加セラレンコトヲ望ムモノナリ。

### 第十

問 貯金法擴張ニ由リ預所ニ預リタル金額ヲ以テ、單ニ公債證書ノ利子低減ニ使用スルハ果シテ正當ナルヤ。

答 否正當ナラズ。抑モ日本金融ノ組織宜キヲ得ザルハ現今既ニ見ル所ニシテ、地方ノ金錢漸ク東京大阪京都ノ三府ニ集マルノ弊ヲ現ハセリ。是レ余ノ曾テ日本農業保險論ニ於テ詳論スル所ナルヲ以テ姑ク該書ニ譲リテ此ニ之ヲ論ゼズ。

余ハ該保險論ニ於テモ亦郵便町村預所ヲ設立シテ利附貯金切手ヲ斷行センコトヲ建議シ、



且ツ後來各地方ニ相當ノ地方金融會社（縣貯金兼土地抵當貸付會社）ヲ設立スルニ至レバ其地方ニ於テ郵便貯金預所ニ預ケ入レタル金額（此金額ハ貯金切手ヲ地方別ト爲ストキハ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ベシ）ヲ地方金融社ニ貸付クベキ事ヲ建議セリ。

第十一

問 預金通常證券抽籤ノ時、大藏省及ビ會計検査院官吏並ニ日本銀行役員ノ立會ヲ要シ、遞信省官吏ハ何故ニ立會ハシメザルヤ。  
答 其當ヲ得タリト言フ可カラズ。

千八百八十七年六月廿三日

マ  
エ  
ツ  
ト

法律第 號

地籍條例案

第一條

凡土地ノ地籍ハ此條例ノ定ル所ニ從フモノトス。

第二條

地籍トハ土地臺帳地圖及地稅臺帳ヲ總稱ス。

- 一、土地臺帳ニハ土地ノ番號名稱面積等級地價所有ノ區別及所屬又ハ所有者ノ名ヲ登錄ス。
- 二、地圖ハ市町村圖字圖ノ二種トシ市町村圖ニハ四隣ノ境界及每字ノ地形ヲ畫キ字圖ニハ四隣ノ境界及每筆ノ地形番號名稱等級ヲ記入スルモノトス。
- 三、地租臺帳ニハ名稱毎ニ市町村總計ノ面積地價地租ヲ登錄ス。

第三條

土地所有ノ區別ハ左ノ如シ。

- 御 有 地
- 官 有 地
- 府 縣 有 地

地籍條例案



郡有地  
市町村有地  
公共組合有地  
私有地

第四條

土地名稱ノ區分ハ左ノ如シ。

|      |     |      |      |     |    |    |      |    |
|------|-----|------|------|-----|----|----|------|----|
| 皇有地  | 官廳地 | 軍用地  | 郡村宅地 | 鹽田  | 池沼 | 原野 | 燈臺地  | 溝渠 |
| 御陵墓地 | 神社地 | 學校敷地 | 田    | 鑛泉地 | 森  | 遊園 | 鐵道敷地 | 堤塘 |
| 皇族邸地 | 寺院地 | 市街宅地 | 畑    | 牧場  | 山岳 | 道  | 製作用地 | 運河 |

|     |    |     |
|-----|----|-----|
| 河川  | 海岸 | 火葬場 |
| 河岸地 | 濱地 | 雜地  |
| 湖   | 墓地 | 地   |

第五條

土地ノ面積ハ市街宅地ハ坪數ヲ以テ定メ、其他ハ總テ段別ヲ以テ定ムルモノトス。  
坪數ハ方一間ヲ坪ト爲シ、坪ノ十分ノ一ヲ合ト爲シ、合ノ十分ノ一ヲ勺ト爲ス、勺未滿ハ算入セズ。

段別ハ方一間ヲ步ト爲シ、三十步ヲ畝ト爲シ、十畝ヲ段ト爲シ、十段ヲ町ト爲ス、但步以下ハ步ノ十分ノ一ヲ合トナシ、合ノ十分ノ一ヲ勺ト爲ス、勺未滿ハ算入セズ。  
土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ一間ト爲ス。

第六條

土地ニ異動ヲ生ジ、左ノ各項ニ該ルモノハ地籍官吏ニ申告シ、面積地價ノ量定若クハ年期ノ査定及地籍ノ登錄ヲ請フベシ。

- 一、無租地除租地ノ有租地トナリタルトキ
- 二、有租地ノ無租地除租地トナリタルトキ



- 三、土地ヲ開墾スルトキ
- 四、一筆ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルトキ
- 五、土地ノ面積量定ニ誤謬アルヲ發見シタルトキ
- 六、荒地開墾地ノ年期滿限ニ至ルトキ
- 七、土地ノ衰頽シタルトキ

第七條

地籍ノ謄本ヲ要スルトキハ地籍所ニ左ノ手数料ヲ納メ請求スルコトヲ得。  
但手数料ハ地籍謄本印紙ヲ以テ納付スルモノトス。

土地臺帳謄本

一筆ニ付

金貳錢

地圖謄本

同

金貳錢

第八條

地租ハ府縣會地郡有地市町村有地公共組合有地私有地ニ賦課シ、御有地、官有地ニハ之ヲ賦課セザルモノトス。

第九條

府縣有地郡有地市町村有地公共組合有地私有地ノ中左ノ各項ニ該ルモノハ地租ヲ蠲除ス。

- 一、府縣郡廳舍其他直接ノ公用ニ供スル土地
- 二、鐵道敷地公共ノ用ニ供スル道路溜池用惡水路溝渠
- 三、鄉村社境內及公立學校地
- 四、禁伐林其他風火水災防禦ノ爲メ公共ノ用ニ供スル土地
- 五、墓地火葬地
- 六、天災ニ罹リタル荒地

第十條

荒地ノ除租ハ被害ノ年ヨリ二十年以内トス。

第十一條

開墾ノ土地ハ五十年以内ノ開墾年期ヲ定メ該年期内ハ其地價ヲ更定セズ。

第十二條

地方ノ衰頽シ左ノ各項ニ該ルモノハ現狀ニ由リテ地價ヲ更定ス。

- 一、道路河川港灣等ノ變更ニ由リ其土地ヲ著ク衰頽シタルトキ。
- 二、地方衰頽ニ由リテ素地ノ形狀ニ歸シタルトキ。

第十三條



第六條ニ依リ處分ヲ了シタル土地ハ荒地ノ外翌年ヨリ地租ヲ賦除更正スルモノトス。

第十四條

除租又ハ地租ヲ更定スベキ土地ニシテ其申告ヲナサザルトキハ尙現地租ヲ徵收ス。

有租又ハ増租ト爲ルベキ土地ニシテ其申告ヲ爲サザルトキハ異動ヲ生ジタル時ニ遡リ其租額ヲ追徵ス。

但三年前ニ遡ルコトヲ得ズ。

第十五條

地價ハ地租改定以降査定ノ額ニ据置ク其一般ニ地價ヲ更定スルハ特ニ法律ニ依ル。

第十六條

地租ハ地價百分ノ貳箇半ヲ以テ一ケ年ノ定率トス。

第十七條

地價ハ其地ノ品位ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙土地ノ情況ニ應ジテ之ヲ定ム。

第十八條

地租ノ市町村額ハ毎年三月十五日限府縣知事之ヲ市町村ニ達ス。

第十九條

地租ノ納期ハ大藏大臣之ヲ定ム。

第二十條

市町村ハ其市町村ノ地租ヲ取立テ及ビ之ヲ納付スルノ義務アルモノトス。

第二十一條

市町村ハ地租收入役ヲ置クモノトス。

第二十二條

此條例ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム。

第二十三條

北海道沖繩縣小笠原島伊豆七島ニハ此條例ヲ施行セズ。

第二十四條

明治五年二月達地券渡方規則明治七年第二百十號布告地所名稱區別明治十年第十八號布告買上地拂下地等收稅除稅區分明治十四年第十四號布告地租徵收期限明治十七年第七號布告地租條例其他從前ノ法律規則中本條例ニ牴觸スルモノハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス。

第二十五條

本條例ハ明治二十二年 月 日ヨリ施行ス。



## 地方税賦課徴收主管ノ件

謹按ズルニ、地方税賦課徴收ノ事ヲ舉テ大藏大臣ノ專管ト爲ストキハ、内務大臣ニ於テ地方事業ノ張弛及其費途ノ増減ヲ爲サントスルモ之レニ隨伴スル賦課徴收ノ難易輕重ヲ知ルニ由ナシ。例ヘバ或縣其年度ノ支出豫算百萬圓ニシテ、之レヲ前年度ニ比スレバ十萬圓ヲ増層セリ。其支出ニ於テ増層スル所ノ事業須要ナルモ、徴收拾萬圓ノ増層ハ激進ト言ハザルヲ得ズ。然レドモ其賦課徴收方法ノ奈何ニ在リテハ或ヒハ須要ノ事業ヲシテ目的ヲ達セシムベキ金額ヲ得ルノ易キコトアルベシ。然ルヲ單ニ支出ノミニ依リ其當否ヲ裁斷セントスルハ恰モ府縣會ハ經費ノ豫算ヲ議定スルモ、其經費ヲ以テ支辨スベキ事業ヲ議スルヲ得ズト謂フモノト同一一般ニシテ元來事實ニ於テ之レヲ區別シ得ベキモノニアラズ。故ニ地方税ヲ以テ支辨スベキ經費豫算ハ内務大臣ニ、其賦課徴收ハ大藏大臣ニ於テ主管シ、其別ヲシテ劃然ナラシムルヲ得ベカラズ。是レ現行法律ニ於テ内務大臣ノ專管スベキモノト、内藏兩大臣ノ併管スベキモノト其別ヲ明カニシ、特ニ制文ヲ掲ゲタル所以ナリ。然ルニ說ヲ爲スモノ曰ク、各省大臣其主管ヲ明カニシ、彼

我交渉セズ、以テ繁文ヲ省キ淹滞ヲ通ジ、併セテ其費途ヲ減省スベキハ載セテ總理大臣ノ趣意書ニアリ。乃チ内藏兩大臣ニ交渉スル地方税支出徴收等検査ノ如キハ、此際必ラズ分擔シ、以テ從來ノ弊ヲ一掃セザルベカラザルハ論ナキノミト。然レドモ其結果ノ如何ヲ顧ザルトキハ輒ク此說ノ是非ヲ判斷シ難キモノアリ。蓋シ地方税賦課徴收ヲ大藏大臣ノ專管トスルモ、同大臣ハ其經費支出ノ事ヲ知ラザレバ賦課徴收ノ當否ヲ判斷スル能ハザルベシ。例ヘバ營業雜種税ノ賦課額ニ付、大藏大臣其國税ノ賦課ニ大ナル關係ヲ有シ、又ハ理財ノ點ヨリ見テ其府縣ノ賦課額ヲ減縮セントスルノ意見ナルモ、大藏大臣亦支出ノ點ニ於テ之レヲ検査スルノ權ナクンバ行ハレズ。故ニ假令之レヲ分擔トスルモ兩大臣協議ニ非ラザレバ到底行ハレザルナリ。今大藏大臣ノ提出案ニ據ルニ、地方税目ノ國税ニ關係アル今日ニ始マルモノノ如シ。然レドモ從來國税ニ關係アルガ故ニ地方税營業税雜種税規則ニ内藏兩大臣ノ併管スベキノ明文アリ。大藏大臣一人ニシテ地方税目ヲ検査セザレバ國税ノ目的ヲ達スル能ハザルノ理ナカルベシ。但内務大臣ト併管スルトキハ、或ヒハ其ノ所見ヲ異ニスルノ場合アルハ難保ト雖ドモ、前項ニ掲グル如ク内務大臣ハ地方税目及賦課徴收ヲ管セザルヲ得ザルヲ以テ、單ニ大藏大臣トノ異見アルヲ顧慮シテ内務大臣ノ主管ヲ除クベカラズ。若シ兩大臣ノ議相協ハザルコトアルトキハ閣議ニ提出スルノ道アリ。故ニ大藏大臣ニ於テ主管スルモ、内務大臣ト併管スルモ國税ノ目的ヲ達スルコトヲ得



ザルノ患ナカルベシ。因テ地方税ノ事現行ノ法律ニ據リ從來ノ慣例ニ從ヒ内務大藏兩大臣ノ併管ト爲スヲ至當ナリトス。

明治十九年一月

内務大臣伯爵 山縣有朋

## 地方税規則ニ付内藏兩省ノ主管ヲ分割スルノ件

各省所管ノ事務ヲ明劃シ、彼此交渉ノ繁雜ヲ省キ簡捷ニ就クハ今日ノ急要タルベキヲ以テ、爰ニ地方税ニ關スル條項中内務大藏兩大臣ノ所管ニ係ルモノヲ更ラニ分析シテ大藏大臣ノ專管ニ歸セントスルノ議アリ。元來大藏大臣ニ於テ地方税ノ事ニ就キ專管ヲ要トスルノ理由ハ、蓋シ地方税賦課ノ輕重、其税種ノ奈何ハ國税ノ贏縮ニ關スルヲ以テ、人民ノ政府ニ對スルト地方ニ對スルコトヲ問ハズ、苟クモ政費トシテ徵收スル所ノ總額ヲ觀、以テ其負擔如何ヲト知セントスルト現行地方税則ノ基本法タル地租割三分一ノ制ヲ除クノ外、營業税雜種税戸數割ハ其税種科目ヲ示スニ止マリ、其賦課ノ方法課額ハ專ラ府縣會ノ議決ニ放任シタルヲ以テ、其標準均一ナラズ。貧富平當ナラザルヲ以テ漸次之レガ改良ヲ圖ラントスルトノ二點ニアルベシ。然リ而シテ重要ナル此二理由ノアルハ地方税規則營業税雜種税規則ノ法律ヲ制定スルノ當時ニ在テ業ニ已ニ判明ナルヲ以テ、該規則ニ於テ之レヲ内務大藏兩大臣ノ所管ニ屬セラレタルナルベシ。故ニ税目上ニ課額上ニ又大體地方税ノ輕重上ニ就キ、國税ニ對シ贏縮消長ノ關係ノアルアラバ



大藏大臣ニ於テ之レガ取捨折衷ヲ加フベキハ當然ニシテ、從前既ニ之レニ加ヘラレタルモノト  
 思考セザルベカラズ。然ルニ元來内務大藏兩大臣ノ所管ニ屬スルノ事項ナルヲ以テ、取捨折衷  
 ノ意見ハ兩大臣ノ間ニ相協ハザレバ行ハレザルガ爲メ、自ラ兩省間ノ交渉繁雜ニ赴キタルノ實  
 況ナキニアラズ、然レドモ是多クハ主務ノ局課從前處務上ノ弊置ニ原由シ來ルモノニシテ、敢  
 テ兩大臣職權ノ混同ニ由來スルモノト云フベカラズ。然レドモ畢竟一事兩屬ナレバ互ノ議相協  
 ハザルノ事ハ既往將來ニ於テ免ルベカラザルノ數ナルヲ以テ、成ルベク双方ノ專管ニ分析シテ  
 施政ノ簡捷ニ就クヲ要ス。是ニ因テ地方稅規則等ノ法律ニ就テ專管ノ分別ヲ爲サントスルニ、  
 地方稅ノ賦課及徵收ニ關スルノ事ハ大藏大臣ノ專管トシ、支出ノ當否及費途ノ緩急ヲ裁決スル  
 ノ事項ハ内務大臣ノ專管ト爲サントノ目的ヲ以テ、關係ノ法律ヲ案ズルニ、地方稅ノ賦課徵收  
 ト支出トハ二ツナガラ府縣會議決ノ認可不認可ニ關シ、互ニ相俟テ離レズ。殊ニ地方經濟ノ點  
 行政全體ノ監督上ヨリ觀ルトキハ、賦課ノ堪否徵收ノ難易ヲ知ラズシテ支出ノ緩急ヲ判別スル  
 コト難シ。故ニ逐條全ク兩大臣ノ併管ヲ止メテ一方ノ專管トナスハ到底能ハザルナリ。因テ或  
 ヒハ兩分シテ專管トシ或ヒハ從前ノ通り兩大臣ノ所管トナシ、又ハ内務大臣ニ於テ處分後大藏  
 大臣ニ通牒スルガ如キノコトナカルベカラズ。關係法律ノ逐條ニ就キ之レカ分別ヲ爲スコト左  
 ノ如シ。

地方稅規則（明治十三年四月第十六號布告）

明治十一年（七月）第十九號布告地方稅規則左之通改正候條此旨布告候事。

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス。

- 一、地租三分ノ一以内
- 一、營業稅並雜種稅
- 一、戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之レヲ定ム。

『右第一第二ノ兩條ハ地方稅稅課ノ根本法タルヲ以テ大藏省ノ專管トス』

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スベキ費目左ノ如シ。

- 一、警察費
- 一、警察廳舍建築修繕費
- 一、土木費
- 一、區町村土木補助費
- 一、府縣會議諸費
- 一、衛生及病院費

二ノ内ノ  
 一ノ本ノ  
 二ノ朱ノ  
 三ノ本ノ  
 四ノ本ノ  
 五ノ本ノ  
 六ノ本ノ  
 七ノ本ノ  
 八ノ本ノ  
 九ノ本ノ  
 十ノ本ノ  
 十一ノ本ノ  
 十二ノ本ノ  
 十三ノ本ノ  
 十四ノ本ノ  
 十五ノ本ノ  
 十六ノ本ノ  
 十七ノ本ノ  
 十八ノ本ノ  
 十九ノ本ノ  
 二十ノ本ノ  
 二十一ノ本ノ  
 二十二ノ本ノ  
 二十三ノ本ノ  
 二十四ノ本ノ  
 二十五ノ本ノ  
 二十六ノ本ノ  
 二十七ノ本ノ  
 二十八ノ本ノ  
 二十九ノ本ノ  
 三十ノ本ノ  
 三十一ノ本ノ  
 三十二ノ本ノ  
 三十三ノ本ノ  
 三十四ノ本ノ  
 三十五ノ本ノ  
 三十六ノ本ノ  
 三十七ノ本ノ  
 三十八ノ本ノ  
 三十九ノ本ノ  
 四十ノ本ノ  
 四十一ノ本ノ  
 四十二ノ本ノ  
 四十三ノ本ノ  
 四十四ノ本ノ  
 四十五ノ本ノ  
 四十六ノ本ノ  
 四十七ノ本ノ  
 四十八ノ本ノ  
 四十九ノ本ノ  
 五十ノ本ノ  
 五十一ノ本ノ  
 五十二ノ本ノ  
 五十三ノ本ノ  
 五十四ノ本ノ  
 五十五ノ本ノ  
 五十六ノ本ノ  
 五十七ノ本ノ  
 五十八ノ本ノ  
 五十九ノ本ノ  
 六十ノ本ノ  
 六十一ノ本ノ  
 六十二ノ本ノ  
 六十三ノ本ノ  
 六十四ノ本ノ  
 六十五ノ本ノ  
 六十六ノ本ノ  
 六十七ノ本ノ  
 六十八ノ本ノ  
 六十九ノ本ノ  
 七十ノ本ノ  
 七十一ノ本ノ  
 七十二ノ本ノ  
 七十三ノ本ノ  
 七十四ノ本ノ  
 七十五ノ本ノ  
 七十六ノ本ノ  
 七十七ノ本ノ  
 七十八ノ本ノ  
 七十九ノ本ノ  
 八十ノ本ノ  
 八十一ノ本ノ  
 八十二ノ本ノ  
 八十三ノ本ノ  
 八十四ノ本ノ  
 八十五ノ本ノ  
 八十六ノ本ノ  
 八十七ノ本ノ  
 八十八ノ本ノ  
 八十九ノ本ノ  
 九十ノ本ノ  
 九十一ノ本ノ  
 九十二ノ本ノ  
 九十三ノ本ノ  
 九十四ノ本ノ  
 九十五ノ本ノ  
 九十六ノ本ノ  
 九十七ノ本ノ  
 九十八ノ本ノ  
 九十九ノ本ノ  
 一百ノ本ノ

地方稅規則ニ付内藏兩省ノ主管ヲ分割スルノ件



- 一、教育費
  - 一、區町村教育補助費
  - 一、郡區吏員給料旅費及廳中諸費
  - 一、教育費
  - 一、浦役場及難破船諸費
  - 一、諸達書及揭示諸費
  - 一、勸業費
  - 一、戶長以下給料旅費
  - 一、地方稅取扱費
  - 一、府縣廳舍建築修繕費
  - 一、府縣監獄建築修繕費
- 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サズ
- 一、豫備費

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クベシ。

『第三條ハ地方政務ノ張弛緩急及府縣會ノ監督ノ起因スル所ニ關スルヲ以テ內務省ノ專管トス』

第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年度トナシ、府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スベキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ、其府縣會ノ議決ヲ取り其年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スベシ。

『右第一項收入ハ支出ト相伴ハザルベカラズ。而シテ其豫算ノ總額ハ歲計上ノ參考ニ供スベキモノタルヲ以テ、大藏大臣ニ於テモ了知セザルベカラズ。故ニ本條ハ仍ホ從前ノ通』

地方稅ヲ以テ支辨スベキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ニ定メ、府縣會ノ議決ヲ取り、府縣知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之レヲ施行スルコトヲ得。

『右第二項ハ明文ノ通り內務省ノ專管トス。蓋シ數年繼續ノ議決ハ經費支出ノ豫算ノミニニシテ、收入豫算ハ各年議決スベキモノタルヲ以テ大藏省ニ關係ナシ』

第五條 非常ノ費用ハ別ニ賦課スルヲ得ルト雖ドモ、其府縣會ノ議決ヲ取り內務卿及大藏卿ニ報告スベシ。

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得ザル事故アリテ費目中不足ヲ生ズルモノアルトキハ



府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得。

『右第五條ハ第四條ノ一項ノ如ク從前ノ通』

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之レヲ定ムベシ。

『右第六條ハ大藏省ノ專管トス』

第七條 府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ、精算帳及計表ヲ製シ、翌年通常會議ノ初メ

ニ於テ之レヲ府縣會ニ報告シ、然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スベシ。

『精算ノ報告ハ則チ豫算ノ結果タルヲ以テ、右第七條モ第四條一項及第五條ノ如ク從前ノ通』

第八條 刪除（本條ハ十三年以降ノ改正ニ係ル後刪除ト記スルモノ皆之ニ準ズ）

第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ、府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ、其

裁可ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之レヲ分別スルコトヲ得。

『右第九條ハ內務省ノ專管トス』

第十條 刪除

營業稅雜種稅規則（明治十三年四月第十七號布告）

『本則ハ總テ大藏省ノ專管ニ歸ス』

明治十一年十二月第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ビ制限左ノ通り改正候條此旨布告候事。

第一條 營業稅ヲ課スベキ種類左ノ如シ。但シ國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラズ。

商業

工業

第二條 雜種稅ヲ課スベキ種類左ノ如シ。

料理屋、待合、茶屋、遊船宿、芝居茶屋、飲食店ノ類

湯屋

理髮人

傭人受宿

遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、翳間、藝妓ノ類

市場

演劇、其他興行遊覽所

地方稅規則ニ付內藏兩省ノ主管ヲ分割スルノ件



遊技場

人寄席

船車

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但シ漁業税、採藻税ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之レヲ徵收スベシ。若シ其ノ慣例ヲ改正シ又ハ新税ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クベシ。

第三條 刪除

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一第二條目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得。

第五條 府知事縣令ハ其賦課スベキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ税額ヲ査定スベシ。

第六條 刪除

第七條 刪除

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ報告スベシ。

第九條 第一條第二條課税種類ノ外地方特別課税ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クベシ。

府縣會ハ固ヨリ内務大臣ノ主管ニ屬スト雖ドモ、前諸則ノ如ク地方税ニ關スル事項ヲ兩大臣ノ分掌ト爲スニ於テハ府縣會規則中左ノ二條ハ朱記ノ如キ取扱ヲナサザルベカラズ。

第五條 府縣會ノ決議ハ府知事縣令認可ノ上之レヲ施行スベキモノトス。若シ府知事縣令其議決ヲ認可スベカラズト思慮スルトキハ、其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フベシ。

『不認可ノ事項ハ概ネ經費ノ増加ニ係リ本條ハ專ラ内務大臣ノ職權ニ屬スト雖ドモ、不認可ノ爲メ經費ニ増減ヲ來ストキハ隨テ賦課税額ニ増減ヲ生ズベキヲ以テ、大藏大臣モ亦不



認可ノ議ヲ與フベキガ如シ。然レドモ其ノ認可スベキトスベカラザルトキトハ、内務大臣ニ於テ地方施政ノ緩急張弛ヲ察シテ之レガ指揮ヲナスベキニ付、其徵稅ニ關スルモノニ限リ大藏大臣ニ通牒スルコト、ス』

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ、府知事縣令ニ説明ヲ求ムルコトヲ得。若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務大藏兩卿ニ上申スルコトヲ得。

『本條ハ地方經費ノ支出ト地方稅ノ收入等ニ對スル異見ヲ上申スルモノニ付、其經費ノ支出科目ニ關スル事項ハ之レヲ内務大臣ノ主管ニ屬シ、其賦稅上ニ係ルモノハ大藏大臣ノ專管ニ歸スベキニ似タリト雖ドモ、元來府縣會ハ内務大臣ノ所管ニ屬スベキモノナルヲ以テ府知事縣令ノ施措ニ對スル府縣會ノ意見ハ總テ内務大臣ニ於テ之レヲ判斷取捨セザルベカラズ。況ンヤ議會ノ意見ハ概ネ經費ノ支出ニ關シ賦稅上ノ事件ハ從來ノ經驗ニ於テ甚ダ稀有ナルニ於テオヤ。蓋シ畢竟徵收方法ハ即チ議會ノ議定セシ課目課額ニ據ルノ一途ニ止マルモ、經費ニ至リテハ定額ノ贏縮流用等支途ノ多端ナルヨリ、府知事縣令ト意見ヲ同フセザルコト往々之レアルハ勢ノ免レザル所ナリ。故ニ本條ハ從前ノ取扱ニ仍ルベキモノトス。

達案

明治十三年（四月）第十六號布告地方稅規則第一條第二條第六條同十三條同十三年（四月）第十七號布告營業稅雜種稅規則ハ大藏大臣ノ主管ニ屬シ、同地方稅規則第三條第九條ハ内務大臣ノ主管ニ屬ス但同規則第四條一項第五條第七條ハ從前ノ通。

内閣總理大臣

内務大臣

大藏大臣

右閣議ヲ請フ。

内務大臣伯爵 山縣 有朋

地方稅則改正ノ件

地方稅規則ニ付内藏兩省ノ主管ヲ分割スルノ件



現行ノ法制ニ依リ地方税ニ關スル事項ヲ分析シテ内務大藏兩大臣ノ主管ヲ明割セントスレバ別紙縷陳ノ如クニシテ、或ヒハ猶ホ未ダ充分ナラザルノ感覺アルベシ。因テ更ラニ一案ヲ提出シテ閣議ヲ仰ガントス。

若シ夫レ大藏大臣ノ地方税ニ關スル事項ヲ專管セント欲スルノ要點ハ、賦課ノ輕重其標準ノ均一徵收ノ繁簡課目ノ多少ニ在テ國稅ト地方税トヲ分タズ。凡ソ租稅トシテ徵收スル所ノモノヲ總監シ、國稅ノ目ト地方税ノ目トヲ互ニ取捨増損シテ稅法大體ノ改良ヲ圖ルニアリトセバ、現行ノ法律ニ就キ分割ニ困難ナルモノヲ勉メテ分割シテ猶ホ不充分ノ感覺ヲ免カレズ。或ハ併管ノモノヲ一方ニ專屬シタルガ爲メ、却テ地方ノ政務經濟ノ監督ヲシテ支難セシムルガ如キノ情勢ヲ招カンヨリ、寧ロ一步ヲ進メテ大ニ地方税規則營業稅雜種稅規則ヲ改正シ、地方税規則中國稅及ビ歲計上ニ關係ノ箇條ヲ更定スルノ優レルニ如カザルガ如シ。

熟々現行地方税規則ヲ案ズルニ、地租稅雜種稅ニ至テハ賦課ノ標準均一ナラザルヲ課セザルヲ以テ原則トナスガ故ニ、稅種僅少ニシテ賦課頗ル煩苛ニ涉レリ。戶數割ニ至テハ或ヒハ家屋稅ノ實アリ。或ヒハ財產稅ノ質ヲ帶ビ、或ヒハ戶主稅ノ體ヲ爲ス等名實相副ハズ。其賦課法區區ニシテ不平等ノ最モ甚ダシキモノタリ。蓋シ營業稅雜種稅ハ多ク直稅ニシテ、之レヲ歐洲各國ノ例ニ徵スルモ最モ收入多カルベキ稅種ナリトス。故ニ其ノ賦課ノ標準ハ彼レノ所謂營業免

許稅（英ノ「ライセンス」佛ノ「パテント」ノ類）ノ賦課法ヲ參酌シ、法律ヲ以テ賦課概則ヲ制シ、彼レノ副稅ノ主義ニ依倣シテ收稅ノ道ヲ規正セバ縱令今俄ニ其幾分ヲ國稅ニ收入スルニ至ラザルモ、終リニ此收入ヲ國庫ニ觀ルノ日ヲ期スベキモノ、如シ。苟クモ商工業ノ免許稅ニシテ各地其賦課ノ方法ヲ異ニスルハ實ニ不公平ノミナラズ、商工業自由ノ開發ヲ妨害スベシ。然リ而シテ内外ノ法制實驗ニ徵シ、法律ヲ以テ賦課概則ヲ查定スルニハ到底府縣廳若クハ府縣會ノ能クシ得ベキノ事業ニアラズシテ、獨リ稅法專門ノ大藏省ノミ之レヲ能クシ得ベシトス。冀クハ此際大藏大臣ニ於テ改正ノ法案ヲ調査シ發議アラントヲ。又戶數割ニ至テハ其名稱性質ヲ一變シ、家屋稅又ハ財產稅トナシ、以テ貧富ノ等差ヲ立テ稍々公當ニ賦シ漸次其收入ノ額ヲ増進スベシ。

營業、雜種戶數割ノ三稅ハ大ニ望ヲ將來ニ囑スベキノ稅種ナルヲ以テ、其賦課法ノ改良ハ當ニ獨リ地方税ノ爲メノミナラン。此改良ニシテ一タビ成ラバ大藏大臣ハ地方ノ稅目賦課方法ノ如何ヲ了知スルノ確法ヲ得テ、常ニ其國稅ニ對スル贏縮消長ノ關係ヲ勘査スルコト、恰モ現今地租割ノ制限ニ於ケルガ如ク、一片ノ報告ニ依リ各府縣賦課ノ輕重ヲ察知スルヲ得ベク、内務大臣ニ於テハ既定ノ概則ニ從テ賦課シ、其制限以內ニ於テ徵收スルモノ、當否緩急ヲ監督スルニ付キ、敢テ兩省ノ通議ヲ要スルノ煩ナク自然繁文ヲ省クニ至ルベシ。畢竟不完全ナル現行ノ



地方税規則ニ依ルトキハ内務大藏兩大臣ノ所管ヲ幾分カ明割スルヲ得ベキモ、纔ニ兩省交渉事務ノ取扱手續ヲ少ク簡便ナラシムルニ過ギズ。猶未ダ地方税規則改良ノ一端トナスニ足ラザルベシ。抑モ大藏大臣ノ今日ニ於テ地方税ノ專管ヲ望ムハ單ニ其取扱手續ノミヲ簡便ナラシメント欲スルノミニアラズシテ、漸次大ニ地方税ノ制則上ニ改良ヲ加ヘ、以テ國税法ノ改良ニ隨伴セシメントノ至意ニ出ルヤ知ルベシ。是レ本案ヲ提出シテ地方改正ノ發議ヲ催ス所以ナリ。

内務大臣伯爵 山縣 有朋

## 地方債ヲ起スニ就テノ議

今ヤ興業銀行設立ノ舉アルニ際シ、豫メ論定セザルベカラサルモノニアリ。曰ク府縣郡區ノ分合廢置ヲ容易ニセズシテ、其畛域ヲ悠久ニ保持セシムルナリ。曰ク府縣及郡ヲ認メテ自治區即チ經濟的ノ區劃ト爲スナリ。此ノ二者ハ内治ノ根本ニシテ甚ダ重大ノ議ナリトス。而シテ府縣分合廢置ノ事ハ曩ニ已ニ上陳スル所ナリ。請フ左ニ府縣及郡ヲ以テ自治經濟ノ區ト爲スベキノ大要ヲ論述セン。

現今ノ制タル、府縣ハ行政區劃中ノ重且大ナルモノナリト雖ドモ、單ニ行政區劃ニシテ自治區即チ經濟的ノ區劃タルノ資格ヲ有セザルモノトス。然レドモ實際ニ於テハ既ニ自治區タルノ事實ヲ具有ス、府縣會ノ設ケテ地方稅經濟ノ制即チ是レナリ。既ニ一ツノ經濟ヲ立ツ、其財產ヲ有シ、債ヲ負ヘルハ實際免カルベカラザルノ理勢ナリ。既ニ明治十三年財政改革ノ時ニ際シ、府縣廳舍以下地方稅經濟ニ對シ繼續シタル土地家屋アリ、此素ト所得收入ノ目的ヲ以テ所有スルモノニアラスト雖モ、財產ハ即チ財產ニ外ナラザルナリ。猶ホ此他備荒儲蓄ノ金穀及共有金



穀ノアルアリ。是等ノ保管上ニ就テハ自然權利者トナリ、又義務者タルノ場合ナキ能ハズ。特ニ一時便宜ノ處分ニ出ルトハ雖ドモ、現ニ貸借ヲ爲スノ縣アリ、已ニ斯カル事實ノ存スルアリ之レニ向テ法律上無形人ノ資格ヲ與ヘ、之レヲ認メテ儼然タル自治區ト爲スモ聊カ不可ナルコトナカルベシ。惟ダ豫メ其分合廢置論ヲ一定シ、其區劃ヲ豫成シ容易ニ之レヲ變更損益シテ其自治及經濟上ヲ紊亂スルコト勿ラシムベキノミ。又郡ニ至リテハ純然タル行政區劃ニシテ、而カモ其復舊僅カニ數年前ニアリテ、之レヲ府縣ニ比スレバ行政區劃ニ關スル事項スラ猶ホ未ダ完整ニ至ラズ。況ンヤ郡會ノ法郡稅ノ制ナキヲ以テ、毫モ其自治ノ事實ヲ見ルヲ得ザルヲヤ。然ラバ則チ自今府縣ヲ認メテ自治區ト爲サント欲セバ、併セテ郡制改正ノ大體ヲ議定スルコト肝要ナルベシ。

府縣ヲ法律上ノ無形人ト認メ、之レニ起債ヲ許サントスルニ就テハ、其起債シテ經營セントスル事業ノ種類ヲ指定シ、以テ一時地方ノ負擔ヲ輕ウセンガタメ、通常ノ費途ニ向テ濫リニ債ヲ起スノ弊ナカラシムベキヲ要ス。蓋シ起債以テ經營スベキ事業ハ全ク鴻益事業ニ限ルベキノ外、元來中央政府ノ負擔ニ屬スベキモノニシテ、今猶ホ地方ノ負擔ニ屬スルモノアリ。彼ノ國道及ビ大河港灣改修ノ事業即チ是レナリ。方今地方ニ於テ大工事ト稱シ、一時經費ノ支給方ニ苦シミ、或ヒハ政府ノ補助或ヒハ低利借入ノコトヲ請求スル等、恰モ地方債ヲ起スノ便要ヲ感

ズルモノハ多クハ道路ノ開鑿河川ノ改修工事ニアリトス。今興業銀行ノ設置アリテ、起債ノ道開クルニ至ラバ、道路ノ開鑿河川改修ノ爲メ債ヲ起サントスルモノ陸續トシテ出デ、數年ナラズシテ道路河川ノ狀況一變、改良スベキハ期シテ俟ツベシト雖ドモ、熟々其起債ノ利用及ビ償却ノ方法ヲ按ズルニ、之レヲ地方ノ負擔ニ歸スルニ忍ビザルノ情理アルヲ奈何セン。

道路ノ制、治水ノ儀ニ就テハ曩ニ意見ヲ上陳シテ採納ヲ被リ、將ニ財計ノ宜キヲ圖テ實施スベキノ秩序ニ至リ、加之申書ニモ縷陳スルガ如ク、國道及全國中屈指ノ大河險川ノ改修ハ到底政府ノ負擔ニ歸セザレバ交通運輸ノ便、治水灌漑ノ利、舉ク全國經濟上ノ不利タル測ル可カラザルヲ以テ、早晚政府ノ管理ニ移サバルヲ得ズ。到底政府ノ管理ニ移スモノトセバ、是レガ爲メ府縣ニ於テ負債ヲ起サシムルトキハ將ニ政府ノ管理ニ歸スルノ日ニ於テ、政府ヨリ之レヲ償却セザルベカラズ。故ニ是等ノ事業ノタメニハ初メヨリ起債ヲ許サザルニ若カザルナリ。然ルニ國道大河ノ爲メ起債ヲ許サズトスルトキハ、獨リ縣道以下ノ道路及ビ修治容易ノ川渠ノミ興業銀行設立ノ幸福ヲ得ルモ、國道大河ハ依然現今ノ體ニ差置ニ至テハ、其修築ノ事業遂ニ退歩スベシ。然ラバ試ミニ國道大河ノ爲メ起債ヲ許スモノト爲スモ、其工費ノ全部ヲ舉ゲテ地方ノ負擔ニ歸シ、從來ノ慣例ニ從ヒ、國道開鑿費等ニ對シ給與シタル三分一ノ補助ヲ廢セントスルトキハ、實際政府ハ土木ノ事業ヲ放擲シテ毫モ其興廢ニ關セズ、又其經費ヲ分擔辨給スルコ



トナカルベシ。果シテ如此ナルトキハ元ト起債ハ一時ノ融通法ニ過ギザルニ、之ニ因テ却テ地方ノ負擔ヲ重カラシムルノ結果ヲ呈出スルニ至ルベシ。故ニ國道大河ノ爲ノ起債ヲ許スモ、仍ホ時トシテ三分ノ一ノ補助ヲ給與スベキハ止ムヲ得ザルモノトス。

各國其治ヲ異ニシ、地方分權ノ度互ニ等差アリト雖ドモ、國道大河ノ如キ利害ノ關係スル所ノ廣大ナルモノハ多ク政府ノ負擔ニ歸スルガ如シ。佛白塊ノ諸國現ニ國道及ビ之レニ准ズベキ大河ハ皆政府ノ經費ヲ以テ之レヲ直管ス。地方費支辨ノ事項中ニ於テ彼我ノ制度ヲ比照スルトキハ、彼ニ於テハ裁判所ノ廳費ノ如キハ却テ之レヲ地方費ノ負擔ニ屬スルモ、我國ニ於テハ府縣廳舍費ヲ地方稅ノ負擔ニ屬スルニモ拘ハラズ、初審治安ノ裁判所ノ廳舍費ヲ悉ク官費ト爲スニ至リテハ、裁判所創設ノ當時ニ於テ自ラ止ムヲ得ザル所アリシモ、裁判ノ事務稍々緒ニ就キ完備スルノ今日ニ及デハ、之レヲ地方稅ニ負擔セシムルモ、國道大河ノ改修費ノ如キ世人得失ノ最モ賾易キモノハ速カニ之レヲ國稅ノ負擔ニ歸スベキヲ要セントスルニ似タリ。

府縣郡區ノ自治區ト爲スベキノ理由既ニ斯クノ如ク、又起債ヲ許スニ至テハ、前件ノ如ク考慮スル所アルヲ以テ、興業銀行設立ノ舉ニ先チ制定スベキ法令ノ一案ヲ左ニ起草シテ瀏覽ニ供ス。

第一條 府縣郡區ハ仍ホ町村ト同ジク財產ヲ有シ貸借ヲ爲スヲ得隨テ之レニ關スル權利義務ヲ有スルモノトス。

〔附シタルモノハ朱書タナリシモノノ下ニ做之レ〕

『負擔ヲ起シ自ラ事業ヲ經營セシメントスレバ隨テ財產ノ所有ヲ許サザルベカラズ。即チ本條ニ於テ所謂法律上無形人タルノ資格ヲ與フルモノトス。府縣郡ニ此資格ヲ與フルハ頗ル重大ニシテ且全ク今日新ニ確定スベキ要點タルコトハ既ニ前議ニ縷陳スルガ如シ』

第二條 府縣有ノ財產ハ府知事縣令之レヲ管理シ、郡區有ノ財產ハ府知事縣令ノ監督ヲ受ケ郡區長之レヲ管理ス。東京、京都、大阪ノ如キ數區共有ノ財產ハ該府知事之レヲ管理ス。

『府縣郡區ヲ認メテ自治區ト爲シ財產ヲ所有セシムル以上ハ、府知事縣令郡區長モ行政官吏タルノ外猶ホ其自治區ノ理事者ト爲サザルベカラズ』

第三條 府縣及區所有ノ財產若クハ貸借ニ關スル權利義務ハ府縣會若クハ區會ノ決議ニ從ヒ、又ハ常置委員ニ諮問シ、其管理者タル府知事縣令若クハ區長之レヲ行フ郡有財產若クハ郡ノ貸借ニ關スル權利義務ノ執行方法ハ追テ布告ヲ以テ定ムベシ。

『府知事縣令及ビ區長ハ前條ニ財產ノ管理者タレバ、法衙其他ニ對シ權利者タリ、又ハ義務者タルノ場合ナキニアラズ。此ノ場合ニ於テハ府知事縣令郡區長モ仍ホ町村ノ事務ニ付キ戸長ノ半民ノ性質ヲ帶ブルト一樣ナルベシ。然レドモ府知事縣令及區長ハ畢竟本文ノ權



利義務ノ執行者タルニ過ギザルモノトシ、其執行ノ方法ハ會議ノ決スル所ヲ以テ定メシム。郡ハ尙ホ郡會等ノ制立ナキヲ以テ別法ヲ以テ之レヲ定メントス』

第四條 府縣郡ニ於テ借入金ヲ爲スハ左ノ費途ニ充ルガタメニ限ルモノトス。

- 一、縣道以下ノ道路ノ開鑿及橋梁架設費
- 一、府縣郡區ノ負擔ニ屬スル河川堤防ノ改修費
- 一、港灣ノ浚鑿運河ノ開通費
- 一、用惡水ノ流通沿澤ノ乾燥費
- 一、原野ノ開墾山林ノ植付費
- 一、土沙扞止費

『負債ハ元來通常經費ノ負擔ヲ輕ウスルガタメニ起スベキモノニアラズ。眞ニ鴻益事業ノ經費ニシテ其利用ノ後世ニ傳ヘ得ベキモノニ限ルベキナリ。サレバ當初ヨリ其事業ノ種類ヲ指定シ置カザレバ起業者其方針ヲ知ラズ、政府モ其許否ノ詮議ニ煩ハシカルベシ。一回府縣起債ノコト行ハル、ヤ各地方ノ民度狀況ノ異同アルニ拘ハラズ、比々皆起業ニ熱心シ、其間不得策ノモノナキヲ保セザルナリ。又爰ニ起債ノ目的トシテ豫メ議究スベキハ外患内亂ノ非常事變ハ格別、概シテ天災ト唱フル水火ノ災害ニ罹リシトキ、之レガ回復ヲ圖ルガ

爲メ起債ヲ許スベキヤ否ノ事是レナリ。元來起債ノ正當ナル所以ハ、其經營スベキ事業新規廣大ニシテ、一時其負擔ニ堪ヘズ、其便益モ永年ニ及ブヲ以テ、其經費ノ幾分ヲ後年ノ負擔ニ遺シテ相當ナルベキニ是レ由ルト雖ドモ、一時ノ災害ニ遭遇シ、其回復ヲ圖ルガ如キハ多ク現在ノ事物ヲ保持スルカ、若クハ舊形ニ復サシムルガタメノ事業ニシテ、敢テ新規興利ノ事業ニアラザレバ、其經費ノミヲ後世ニ遺スハ改進ノ本旨ト云フベカラズ。故ニ起債シテ經營スベキ事業ヲ指定スルニ就テハ、第一天災復舊ノ事業ヲ除キ、第二前議ニ縷述スル國道大河ノ改修費ヲ除キ、第三通常ノ經費補足ノタメ之レヲ起スベカラズトス。果シテ斯クノ如ク制限スルトキハ、起債ノ區域至テ狹少ナルノ感アリト雖ドモ、凡ソ物ハ慎重ヲ要シ、事ハ激變ヲ戒ム。先ヅ其區域ヲ狹少ニ制限シ置キ、多少ノ實驗ヲ經タル後善ク事實ヲ考究シテ漸次ニ擴張スベキナリ』

第五條 區制ヲ設ケタル地方ニ於テハ前條ノ外左ノ費途ニ充ルモノヲ増加スルヲ得。

- 一、水道瓦斯燈ノ設置改良
- 一、諸取引所市場船渠等ニシテ相當ノ收入アルベキモノ、建築費、其他市街改良工事ニシテ特ニ政府ノ許可ヲ請ヒタルモノノ費用。

『區制ヲ行フノ地ハ其經營スベキ事業ノ急要ナルモノ府縣ヨリモ甚シク、其種類モ幾分ノ



多キヲ致ス所以ノモノハ、區ハ素ト町村ト同ジク舊來自治ノ區域ニシテ都會ノ地タルヲ以テナリ』

第六條 府縣郡區ノ借入金ハ年賦償還又ハ一時償還ノ約ヲ以テスルヲ得。

第七條 前條借入金ヲ爲サントスルトキハ其府縣區會ノ決議ヲ取り、府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ其認可ヲ請フベシ。

『借入レノ期限及其許可ノコトノミヲ舉ゲテ其金額及ビ償還方法等ヲ示サバハ特ニ法章ノ明文ヲ要スル迄モナク當然府知事縣令ヨリ詳悉ニ具狀スベキヲ以テナリ。本條ニ所謂認可ハ政治上必要ノ事項ニ付、方今府縣會ノ議決ニ對シ行フ所ノ認可ト稍々其趣ヲ異ニス。畢竟地方隨意事業ニ關スルモノナルヲ以テ、全國ノ利害若クハ經濟ニ障害スル事ナキニ非ザレバ不認可スルコトナキヲ要ス』

第八條 前條府縣區會ノ議決ハ議員三分ノ二以上ノ多數決ヲ要ス。

『起債ハ專ラ自治事業ノ爲メニス、自治事業ノ經理ハカメテ政權ヲ以テ控刷スルヲ爲サズ民度ノ遲速ハアルベシト雖ドモ一ツニ民意ニ放任シテ漸次ノ進歩ヲ期スベキナリ』

第九條 町村ニ於テ貸借ヲ爲サントスルトキハ町村會ノ議決（議員三分二以上）ヲ取り、戶長ヨリ郡長ヲ經府知事之ヲ許可シタルトキハ直チニ之レヲ内務大藏兩卿ニ報告スベシ。

『町村ハ方今ノ制ニ於テ既ニ金穀ノ公借ヲ許シタリ、惟タ此法律ニ據ルヲ許シ以テ低利寬約ニ借入ルノ事ヲ得セシムベキナリ』

第十條 内務大藏兩卿ハ借入金ヲ爲シ若クハ爲サントスル府縣郡區町村連年ノ負債高及ビ收入支出ノ實況ヲ視察シ借入ノ金額ヲ制限スルコトアルベシ。

『負債ノ制限高ヲ今日ニ豫定スルハ甚ダ難シ、何トナレバ其高大ニ過グレバ徒ラニ起債ヲ誘導スルノ嫌ヒアリ、小ニ過グレバ廣大事業ヲ起スニ足ラザルノ悔ヒアルベシ。内藏兩卿常ニ狀況ヲ視察シ、實際制限ヲ要スルノ時ニ當テ之レヲ定ムルモ遲カラザルベシ。』

町村ノ如キ舊來起債ヲ許シタルモノスラ其高ハ意外ニ僅少ナルガ如シ。一年若クハ數年ノ歲入高ヲ超過スルガ如キ起債ヲ見ルハ遙カニ後年ニアルベシ』



## 地方債規則

第一條 地方債ハ其地方公益ノ爲メ若クハ非常ノ天災ニ遭遇シ、一時ニ其收入ヲ以テ其費用ヲ支辨シ能ハザル場合ニ於テ之レヲ施行スルモノトス。

第二條 前條地方債ヲ要スル場合ニ於テハ府縣會規則第一條第二項若クハ區町村會法第一條第二項ニ據リ、之レガ決議ヲ爲スベシ。但シ其金員ハ日本興業銀行ヨリ借入ルルモノトス。

第三條 前條金員借入ノ件ヲ決議シタルトキハ、府知事縣令ハ其事由ヲ具シ之レヲ內務大藏兩卿ニ稟申スベシ。但シ此場合ニ於テハ左ノ事項ヲ副申スルモノトス。

第一、借入金使用ノ目的

第二、借入金ノ員額

第三、償還ニ充ツベキ財源

第四、借入當初年度ノ歳入出豫算高

第五、借入金ヲ否議シタル議員出所ノ地名但區町村ノ議決ニ係ル者ハ此限ニアラズ

第六、舊地方債アルトキハ其未償還金額、年限、及ビ其ノ償還ニ充テタル財源

第四條 地方債ノ期限ハ十五ケ年以内トス、其總高ハ左ノ制限ヲ超過スルヲ許サズ。

一、府縣會ノ決議ニ係ル者ハ其府縣經常歳入ノ總高

一、區部會若クハ郡部會ノ決議ニ係ル者ハ各其郡區經常歳入總高ノ二倍

一、區町村會、區町村聯合會、水利土木功會ノ決議ニ係ル者ハ其關係區町村經常歳入總高ノ

三倍、但シ非常ノ天災若クハ特別ノ事情アル者ハ府知事縣令ヨリ其事由ヲ內務大藏兩卿ニ

具狀シ兩卿之レヲ適當ト認ムルトキハ之レヲ太政官ニ稟申シ其特裁ヲ請ヒ本條ノ年限又ハ

制限ヲ超過スルコトヲ得。

第五條 地方債ノ借入金ハ其目的外ノ事項ニ充テ、又ハ直チニ其償還ニ供シ、若クハ當初ノ豫算額ニ超過スルヲ許サズ。

第六條 府知事縣令ハ毎年府縣會開會ノ初メニ於テ地方債ニ係ル金員使用ノ顛末及事業ノ景況

ヲ報告シ、之レニ據リ更ラニ前年度中地方債ヲ以テ支出シタル費用ノ明細書ヲ製シ、其府

縣ノ出納決算報告書ト共ニ之レヲ內務大臣大藏大臣ニ上呈スベシ。

第七條 町村會又ハ區町村聯合會若クハ水利土木功會ノ決議ニ係ル地方債償還ノ豫算及ビ決算ハ

各會ノ決議ヲ經テ郡區戶長ヨリ之レヲ府知事縣令ニ報告スベシ。



第八條 郡區戶長ハ區町村會又ハ區町村聯合會若クハ水利土功會ノ初メニ於テ其地方債ニ係ル金員ノ使用ノ顛末及事業ノ景況ヲ報告シ、之ニ據リ更ラニ前年度中支出シタル費用ノ明細書ヲ製シ、前條ノ決算報告書ト共ニ之ヲ府知事縣令ニ上呈スベシ。

第九條 府知事縣令ハ第八條ニ掲載スル明細書ヲ受ルトキハ之レニ據リ更ラニ前年度地方債ヲ以テ支出シタル費用ノ明細書ヲ製シ内務大藏兩卿ニ上呈スベシ。

第十條 地方債アル府縣若クハ區町村ニシテ其配置ヲ變更シ分離合併シタルトキハ、其部分ニ於テ從來負債辨償スベキ義務ヲ因襲シ新舊府縣若クハ區町村ノ全部ニ於テハ辨償ノ義務ナキモノトス。

第十一條 前條合併ノ場合ニ於テハ新府縣若クハ區町村ノ各會議ハ特ニ合併シタル部分ニ賦課シ、其負債辨償ノ方法ヲ議定スベシ。但既定ノ辨償期限ハ之レヲ變更スルコトヲ得ズ。

第十二條 前條決議ヲ爲シタルトキハ豫等決算報告書上呈其他一切負債ノ處理ハ本規則ニ據ルベシ。

第十三條 地方債取扱ニ係ル諸細則書式等ノ廢置變更アルトキハ其府縣ニ係ルモノハ府知事縣令之ヲ定メ、大藏卿ノ承認ヲ請ヒ、其區町村會區町村聯合會若クハ水利土功會ノ決議ニ係ル者ハ其決議施行ノ任アル郡區戶長之ヲ定メ府知事縣令ヲ經由シ大藏卿ノ承認ヲ請フベシ。

## 財産等級稅講說

ルードルフ氏 口述  
伊東巳代治 筆記

財産等級稅ニ就テ垂問ヲ辱フス、今其要領ヲ述ベシニ、國ノ内外ニ在ルヲ問ハズ、凡ソ普國臣民タルモノニシテ一ケ年ノ歳入一千ターレルヲ有スル者ハ此ノ財産等級稅ヲ納メザルベカラズ。試ミニ其割合ヲ示サンニ、千ターレル以上千二百ターレル以下、一ケ年ニ付三十ターレルヲ納ムベシ。一千二百以上一千四百以下ハ三十六ターレル、千四百以上千六百以下四十二ターレル、千六百以上千八百以下四十六ターレル、千八百以上二千以下五十五ターレル、二千以上二千四百以下ハ六十ターレル、二千四百以上二千八百以下七十二ターレル、二千八百以上三千二百以下八十二、三千二百以上三千六百以下九十六ターレル、三千六百以上四千以下百八ターレル、四千以上四千八百以下ハ百二十ターレル、ヲ納ムベシ。此ノ如キ割合ニテ其收入額ノ増加スルニ隨ヒ賦課ノ額ヲ増スナリ。此ノ増額ヲ示ス爲メニハ別ニ表アレドモ今其煩ヲ省キ茲ニ



略ス、今此表ニ據ルニ財産等級税ハ凡ソ歳入百分ノ三ニ當ルナリ。

其賦課法ニ至テハ各郡長其郡内ニ在リテ千ターレル以上ノ歳入ヲ有スル者ヲ取調ルノ職務ヲ有スルヲ以テ、財産等級税ヲ納ムル者ノ人名表ヲ調整ス。其納税者人名簿ヲ調整スルニハ初メ千ターレルノ額ヲ以テ標準トシ、千ターレル以上ノ歳入アル者ノ姓名ヲ取調べ、而シテ其内各個人ニ就テ其歳入額ノ差ヲ精査シ、其納税額ヲ定ムルナリ。郡長ハ歳入ヲ取調ル爲メニ戸長ニ命ジテ其町村内ノ人名簿ヲ差出サシム。即チ戸長ノ職務ハ其町村内ノ千ターレル以上ノ歳入ヲ有スル者ノ人名ヲ取調べ、猶其内ノ各個人ニ就テ其歳入額ノ差ヲ示スベキノ職務ヲ有スルナリ。戸長ノ取調果シテ確實ナルヤ否ヤヲ糺ス爲メニ、郡長ハ自ラ其當否ヲ調査スル事ヲ得、必ラズシモ戸長ノ報告ニ拘束セラレザルナリ。然レドモ其調査ノ方法ハ別ニ法律ニ指明セズ、一個ノ信認ヲ以テ之レヲ取調ルナリ。例ヘバ不動産所有者ニシテ其納ムベキ財産等級税額ニ疑ヒアルトキハ、則其人ノ知友ニ就キ或ヒハ親シク其人ニ就テ其當否ヲ尋問シ、以テ戸長ノ調査果シテ其當ヲ得ルヤ否ヤヲ検討スル等即チ是ナリ。一郡ニテ千ターレル以上ノ歳入アル者ハ其數僅少ナルヲ以テ之レヲ取調ルノ法種々アリ、凡ソ家ニ餘裕アル者ハ平素ノ衣食住ト歟又ハ夏期ニ及テ旅行スル等、總ベテ上等ノ生活ヲ爲ス者ニシテ、人ノ屬目羨望ヲ受クルコトモ多ケレバ、其家計ノ如何ハ大概外面ヨリ之レヲ分明ニスルコトヲ得ルナリ。郡長此ノ如クニシテ其力ノ及ブ丈穿鑿

ヲ極メ、其當否ヲ確定スベシ。然レドモ其家ニ就キ躬ラ帳簿ヲ検査スル等ノ權ヲ有セズ、日本ニテハ例ヘバ一千ターレルヲ四百ターレルトスルモ富者ハ自ラ郷邑間ニ其數僅少ナルベケレバ、之レヲ取調ルコト甚ダ簡易ナルベシト思ハル。各個人ニ賦課スルノ額ハ郡會ヨリ公撰サレタル賦課委員ノ定ムル所ニ依ル。其委員ハ一郡ニ付六名ヲ限ル、郡長モ委任長トナリテ議事ヲ統理スルナリ、委員ハ専ラ財産等級税ヲ納ムル者ニシテ、其郡内ノ事情ニ通曉スル者ヨリ公撰スルナリ。郡長ハ納税者ノ人名簿ヲ委員ニ示シ、委員ハ其簿中ノ各個人ニ就テ納額ノ當否ヲ議ス。委員ノ調査ヲ經ルニ及デ却テ郡長ノ注意ノ及バザル所ヲ提起シテ大ニ整頓ノ功ヲ顯ハスコトアリ例ヘバ調査ノ粗漏ニ係ハル一千ターレル以上ノ者ヲ摘發シ、或ハ其内ノ各個人ニ就テ何某ハ千五百ターレルトアレドモ二千ターレル收入アリ、其納額ヲ更ラニ増スベシト發議スル等ノ如キ即チ是ナリ。各個人ノ納額ヲ議スルトキ各個人ノ平素ノ生活等ヲ詳細ニ評議シテ、而シテ後チ其納額ヲ議決スルナリ。此委員ノ議ヲ經テ各納税者ノ納額決定スルニ及ンデハ書面ヲ以テ其納額ノ若干ナル歟ヲ各納税者ニ通知スルナリ、納税者ハ此通知ヲ得テ後二ヶ月以内ニ其賦課ノ當否ニ付キ委員ニ對シテ異論ヲ申立ルコトヲ得、若シ納税者ノ申立ル所委員ノ之レヲ採用セザルトキハ、納税者ハ四週内ニ縣ノ委員ニ訴出ルコトヲ得ルナリ、此縣ノ委員トハ縣會ヨリ公撰セラレテ收税上ノ苦情ヲ審聽スルガ爲メ設ケラレタルモノヲ云フ。納額確定スルニ及ンデハ毎



月月賦ニテ之レヲ納メシムル者トス。

歳入ノ計算法ヲ述ベシニ、土地ノ歳入ハ總テ土地ヨリ擧グル所ノ收入ヲ包括ス。例ヘバ其之ヲ他人ニ貸スモ又自ラ之レヲ耕スモ總テ其收入ヲ云フナリ。地面ヲ他人ニ貸渡スノ場合ニ於テハ、其借地人ノ負擔スル義務ヲモ之レヲ金錢ニ見積リ收入ノ一分トス。之レニ反シ若シ貸主ニ於テ義務ヲ負擔シ、之レガ爲メ費用ヲ要スルモノハ其費額ヲ收入ヨリ差引クナリ。斯ハ是レ借地ノ例ナリ。自ラ耕スノ場合ニ於テハ前三年ノ平均收入高ヲ計算シテ其額ヲ定ムルナリ。三ヶ年平均收入ヲ以テ標準トスベキモノハ土地ニ關係シタル製造所、例ヘバ煉瓦製造、陶器製造、石灰、石切場等ノ如キ是レナリ。土地ト家屋トハ常ニ分離スベカラザルモノナルヲ以テ、家屋ヲ所有シテ之レヲ他人ニ貸ス者ハ亦三ヶ年平均ノ借家料ヲ以テ其額ヲ定ム。自ラ之レニ住居スル者ハ之レヲ他人ニ貸シテ收ムルコトヲ得ベキ借家料ヲ概算シテ其額ヲ定ムルナリ。

以上述ブル所ハ土地ノ利益ニ就テ言ヒタルナリ。之レヲ財産等級税課目ノ第一種トス。其收入額ノ内年々ノ租税其他負債ノ抵當トナリタル者ハ其利子ヲ差引クナリ。是ヨリ財本ヨリ生ズル所ノ歳入ニ就テ述ベシ。之レヲ財産等級税課目ノ第二種トス。此財本ノ利益トハ金錢貸借ノ利子、公債證書ノ利子、或ヒハ會社株式ノ利子等ヲ總稱ス。財本ノ利子ノ外其余ノ歳入例ヘバ生命保險會社ヨリ年々受取ル所ノ配當金ノ如キハ別ニ從來積金シタルモノ、内ヨリ償却ヲ受ク

ル者ニシテ、敢テ之レヲ金利トナスコト能ハズト雖ドモ、亦之ヲ以テ金利ト見做シ、財本ノ利益トシテ税ヲ課スルナリ。

課目ノ第三種ハ商業工業總テ利益ヲ得ル所ノ營業並ニ勞力トス。官吏ノ俸給退隱料モ亦之ニ屬ス。此三種類ニ屬スルモノハ總テ前三年ノ比較平均高ヲ以テ標準トシ、納税ノ額ヲ定ム。此收入高ヨリ差引クベキモノアリ、商業ヲ營ムモノハ商業ニ必要ナル家屋ノ保存費、書記手代ノ給料等是ナリ。家屋土藏ノ如キハ年々歲月ヲ經ルニ隨テ其價格ヲ損ズルヲ以テ、幾分カ其損耗ノ額ヲ差引クナリ。官吏ノ如キハ毎歳收入ノ定額アリテ更ラニ其收入ヲ得ルニ費ス所ナキヲ以テ別ニ其歳入額ヨリ差引クベキモノナシ。之レニ反シ官宅ニ居住スル者ハ官宅料ヲ見積リ其歳入ノ額ニ加フベシ。

以上叙述スル所財<sup>クラシフサ、アインコンメン、スタイル</sup>産<sup>クラシフサ、アインコンメン、スタイル</sup>等<sup>クラシフサ、アインコンメン、スタイル</sup>級<sup>クラシフサ、アインコンメン、スタイル</sup>税<sup>クラシフサ、アインコンメン、スタイル</sup>ノ大要トス。此ノ財産等級税トハ獨リ千ターレル以上ノ收入ヲ有スル者ノミニ賦課スルモノニシテ、郡長專ラ其任ヲ擔當シ、戸長ハ其指揮ヲ仰ギテ事ニ任ズルノミ。一千ターレル以下ノ額ニ課スルモノハ之ヲ單稱シテ等<sup>クラシフサ、アインコンメン、スタイル</sup>階<sup>クラシフサ、アインコンメン、スタイル</sup>税<sup>クラシフサ、アインコンメン、スタイル</sup>ト云フ。其名稱相異ナリト雖ドモ其實同種類ノ税目ニシテ、彼レハ一千ターレル以上ヲ云ヒ、此ハ其以下ヲ稱ス。要スルニ以上以下ノ區別ニ過ギズ。然レドモ其以下ニ課スルモノニ至テハ殆ンド日常ノ生計ニ窮迫スル細民ヲモ網羅シテ之レニ其税ヲ課スルモノナルガ故ニ、我普國ニ於テハ方今



等級稅廢セザルベカラザルノ說政治社會ニ喧シク、既ニ之レヲ廢スベキノ傾向ヲ示シテ未ダ全ク法律ヲ以テ之レヲ廢スルコトヲ得ルノ時機ニ達セザルハ我國民ノ甚ダ痛歎スル所ナリ。今試ミニ其賦課ノ割合ヲ示サンニ、百五十ターレル以上二百二十ターレル以下一ターレル、二百二十ヨリ三百ターレル以下ハ二ターレルヲ課シ、其等級總ベテ十二等トス。細民ヲ驅テ苛稅ニ苦メントスルモノ却テ實際ニ於テ其徵收ニ非常ノ困難アリ。故ニ今日ニ於テハ未ダ法律ヲ以テ全ク之レヲ廢セズト雖ドモ、實際下等ノ等階納稅者ハ舉テ納稅ヲ免除スルノ狀勢ナルガ故ニ、實際ニ於テ此ノ稅法ハ既ニ之レヲ廢セリト云フモ敢テ不可ナルベシ。等級稅ノ弊害實ニ舉テ數フベカラズ。此ノ如キ惡法ハ固ヨリ取ラザル所、日本ノ徒ニ此法ニ模倣シテ細民ヲ困窮セシメザランコト實ニ仰望ノ至リニ堪ヘザル所ナリ。

之レニ反シ財產等級稅ハ則チ然ラズ、凡ソ一千ターレル以上ノ歲入アル者ノミニ課スルノ法ナレバ、實際之レヲ徵收スルニモ甚ダ易キ所アリ。況ンヤ此ノ納稅者ハ多ク財產ヲ有シ、家ニ餘裕アルモノノミナレバ、其負擔ニ堪ユルコト固ヨリ彼ノ細民ト日ヲ同フシテ論ズベキニ非ルニ於テヲヤ。我普國ニ於テ一千ターレルヲ以テ標準トスルモノ、若シ之レヲ日本ニ施行スルニ於テ、或ヒハ其額ノ多キニ過グルノ患アラバ、則チ之レヲ減ジテ五百乃至六百ヲ以テ其最下額トスルモ可ナリ。唯々細民ヲ苦メザル様注意スルコソ肝要ナリ。其以上ノ人民ニ課スルニ此ノ

稅ヲ以テスルハ素ヨリ稅法其當ヲ得ルモノト云フベシ。我國ニ於テ此ノ稅法ヲ設ケタルハ實ニ一千八百五十一年トス。爾來星霜ヲ經ル既ニ三十年ヲ超ユ、此ノ間ノ經驗ニ由レバ此稅法中賦課ノ割合未ダ穩當ナラザルモノアリ。回顧スレバ此ノ法三十年前ノ創設ニ係ル、今日ヨリ之レヲ見レバ素ヨリ多少ノ修正說アリト雖ドモ、要スルニ此稅ヲ課スルノ大體ニ至テハ動カスベカラザルモノアリ。又毎歲之レヲ賦課スルニ於テ其割合ノ穩當ナラザルヨリ紛議ヲ起スコト猶ホ今ニ絶ユルコトナシ。毎年納稅者中其賦課ノ額ニ就テ紛議ヲ起ス者ノ數平均一割ヲ以テ數フ因テ以テ未ダ割合ノ穩當ナラザルヲ見ルベシ。日本ニ於テ此稅法ヲ施行スルニ及ンデ最モ其ノ割合ヲ斟酌セザルベカラズ。賦課ノ事ニ就テ紛議ヲ起シタルトキハ隨分事面倒ナリ。初メ賦課ノ額ヲ定ムルニ當リ、素ヨリ各納稅者ノ家ニ就キ其帳簿ヲ檢討シテ其收入額ヲ計算シタルニアラズ、郡長モ亦此ノ徵稅ニ關シテ其家宅ヲ搜索スルノ權ナシ。外面ヨリ其家産ヲ概算スルモノ若シ其當ヲ得ザルガ爲メニ之ニ不服ヲ懷クモノ、之レヲ縣ノ委員ニ訴ヘ其改正ヲ求ムルニハ其ノ果シテ當ヲ得ズ、其歲入ノ定額ハ何程ナルト云フコトヲ證明セザルベカラズ。委員ニ於テモ亦其家ニ就キ帳簿ヲ検査スルコトヲ得ルナリ。若シ自ラ之レヲ證明スルコトヲ拒ミ、或ヒハ其帳簿ノ検査ヲ拒ムニ於テハ素ヨリ立證ノ効ナキヲ以テ、其不服ノ申立ヲ採容セズ、故ニ強迫シテ其帳簿ヲ検査スルノ要用ナシトス。此ノ財產等級稅ハ恰モ二重稅ヲ課スルモノ、如シト雖ドモ



決シテ然ラズ。二重税トシテ之レヲ擯斥スルハ皮相ノ見ノミ。試ミニ思ヘ、税ヲ課スルニ貧富各其分ニ應ジテ負擔ノ度合ヲ定ムルハ税法ノ最モ主眼トスベキ所ナリ。復タ試ミニ見ヨ、此ノ他一個ノ物ニ課スル税ノ如ク唯ダ均一ヲ主トシテ貧富ノ別ヲ見ズ、故ニ之レヲ負擔スル者ニ至テハ其貧富ノ差ニ由テ大ニ難易ノ別アリ、百頃ノ田園ヲ有スルモノ一頃平均三圓ノ税、即チ三百圓ヲ納ムルト僅ニ二頃ノ田園ヲ有シテ六圓ヲ納ムルトハ其額ノ多少固ヨリ比較スル迄モナキコトナレドモ、富者ノ三百圓ヲ拂フニ比スレバ貧者ノ六圓ヲ拂フハ最モ難キモノアリ。故ニ貧富各其力ニ應ジテ納税ノ負擔ヲ穩當ナラシムルニハ此財產等級税ヲ設クルニ如カズ。要スルニ他ノ税ハ一個ノ物ニ課スルモノニシテ此税ハ人ノ活動ニ課スル者ナリ。凡ソ人ノ此世ニ生活スルヤ各其力ニ應ジテ貨殖ノ道ニ勞働スルモノナルガ故ニ、其勞働ニ賴テ得ル所ノ利益即チ其歲入ニ税ヲ課スベキハ猶一個ノ物ニ課スルガ如クナラザルベカラズ。之レヲ以テ淺薄ニモ二重税ナリトシテ之レヲ擯斥スルハ大ナル謬見ナリ。

此項 聞ク我獨逸帝國内ノ薩克遜ニ於テ過般財產等級税ノ新法ヲ設ケタリト、我普國ノ財產等級法ハ前ニモ述ベタル如ク三十年前ノ創設ニ係ルヲ以テ往々妥當ナラザル條款モ今猶現存スルナレドモ、今此新法ハ我普國三十餘年實驗ノ成跡ニ就テ其利害ノ存スル所ヲ詳カニシ、務メテ利ヲ擧ゲテ害ヲ剔キタルモノナリトハ多ク世人ノ傳唱スル所ナルヲ以テ、若シ日本ニ於テ此

ノ法ヲ實施セラル、ノ意アラバ彼ノ新法ノ立條ヲ參觀シテ以テ斟酌ノ具ニ供セバ蓋シ多少ノ得益アルベキヲ信ズルナリ。



## 營業稅法案ニ對スル意見

井 上 毅

本案ニ對シテ考究スベキ要點ニアリ、一ニ曰ク本邦ノ今日ハ新稅法ノ施行ニ適スルノ時世ナルヤ、二ニ曰ク本邦稅制發達ト其ノ將來ノ方向トヲ觀察スレバ營業稅ハ果シテ國庫ノ稅源トナスベキモノナルヤ是ナリ。

## 第一

時勢ニ依テ之レヲ觀ルトキハ本邦ノ今日ハ稅法ノ改革ニ最不適當ナル期節ナリ。何トナレバ今日ハ專制政治ヨリ立憲政體ニ更遷スルノ秋ニシテ、邦家未曾有ノ大改革ニ遭遇スルノ時ナレバナリ。古今各國ノ經歷ヲ觀ルニ、凡ソ專制政治ヨリ立憲政體ニ遷ルノ當時ニ於テハ、民心激昂シ政治上ノ熱度非常ニ上昇スルヲ例トス。英佛獨塊ノ諸國實ニ之レヲ經驗シ、其干戈ヲ動かサズシテ平穩ノ更遷ヲ爲シタリ。邦國ハ實ニ希有ニ屬シタリ本邦固ヨリ事情ヲ異ニスルヲ以テ、

歐洲ノ例ヲ推シテ之レヲト定スベカラズト雖ドモ、而カモ國會開設ノ前後一二年間ニ於テ、民心激昂シ政論熱沸スルハ必然ノ勢ニシテ、到底避ケ能ハザルモノナリ。是時ニ當リテ邦家ノ爲メ特ニ意ヲ用ユベキハ民間營利ノ事業ヲシテ成ルベク變動ナカラシメ、人民ヲシテ各々其業ニ安ゼシムルニアリ。若シ然ラズシテ其未曾有ノ大變動ノ如キ稅法改革ノ如キ、苟クモ人民各自ノ營業ニ變動ヲ起サシムルモノアレバ、苦情囂々往々騷擾ノ端トナリ、或ヒハ過激ノ徒其機ニ乘ジテ民心ヲ挑發シ、竟ニ火焰ヲ發スルニ至ルモ未ダ知ルベカラズ。故ニ二十三年ノ大事業ヲ竣成スルマデハ民間營利ノ組織ニ變動ヲ起サシメザルヲ以テ政治上第一ノ緊要トス。

抑々租稅ナルモノハ納稅義務者必ラズシモ之レヲ負擔スルニアラズシテ大抵之ヲ他人ノ負擔ニ推移スル者ナリ。故ニ當初之レヲ賦課スルノ際ニ於テハ縱令不平均ニシテ負擔平等ノ原則ニ適セザル所アルモ、積年因襲ノ久シキ、竟ニ當初ノ不平均ヲシテ漸次ニ平均セシムルニ至ル。是レ財政學ニ於テ租稅負擔ノ移轉ト稱スル經濟上自然ノ法則ニ由テ然ルモノニシテ、畢竟多年積習ノ結果タラザルハナシ。租稅負擔ノ移轉ハ課稅セラレタル物體ノ種類ニ從テ全部ナルアリ一部ナルアリ、緩慢ナルアリ、急激ナルアリテ固ヨリ一定セズト雖ドモ、概シテ不動產ニ課スルノ稅ニ在テハ甚ダ緩徐ニ其稅額ノ一部ヲ他ニ推移ス。之レニ反シテ營業稅ニ在テハ稅額負擔ノ轉移往々急速ニ起リ、或ヒハ其營業品ノ代價ヲ騰貴シ、或ハ職工ノ給料ヲ減ジ、其他各種ノ



事業ニ千百ノ變動ヲ起シテ以テ負擔ノ平均ヲ得ンコトヲ求ムベシ。此際特ニ恐ルベキハ營業者中ニ計利上ノ競争ヲ起シ、資本ノ大ナル營業者ハ資本ノ小ナル營業者ヲ壓倒シ、即チ大營業者ハ其ノ稅額ヲ他ニ推移スルニ於テ容易ナルモ、小營業者ハ之レヲ爲スニ難ク、往々其ノ全額ヲ自ラ負擔スルノ外ニ尙大營業者ノ稅額マデ一身ニ負擔スルコト是レナリ。是等ノ關係ヨリシテ起ル經濟社會ノ變動ハ僅カ數月ニシテ鎮靜セズ、延イテ數年ノ久シキニ互ルベシ。又其ノ變動ハ一小地方ニ止マラズ、延イテ全國ニ渉ルベシ。何トナレバ本案ニ依テ課稅セラルベキ者ハ全國一般ノ營業者ナレバナリ。財政學者ワグネル氏ノ言ニ曰ク「凡ソ稅法ノ改革ハ設令其ノ新稅法ノ完全無缺ノモノニモセヨ又設令其改革ノ爲メ全體ニ於テ別ニ租稅ノ負擔ヲ加重セザルニモセヨ、一時人民ノ產業ニ障礙ヲ與ヘ、社會ニ一ノ波瀾ヲ起スモノナリ、是レ稅法ノ改革ニ隨伴スル所ノ避クベカラザル結果タリ。古今ノ政治家稅法ノ改革ニ苦心スル所ハ實ニ此點ニアリ」ト又歐米財務家ノ諺ニ曰ク「人民ノ慣習シタル舊稅法ハ皆可ナリ。學理ヨリ生ジタル新稅法ハ皆不可ナリ」ト此語ヤ古今各國ヲ通ジテ適用スベカラズト雖ドモ、而カモ歐米ノ實務者ヲシテ此ノ語ヲ發セシムル所以ノモノハ畢竟年月ヲ經テ民生ニ慣レタル稅法ハ、既ニ負擔ノ平均ヲ得テ產業社會ニ自然ノ權衡ヲ保タシムルモノナルニ、新ニ施行スル稅法ハ營業上ノ權衡ヲ打破シ計利ノ方向ヲ攪亂シ、幾數年ヲ經ルニアラザレバ復ビ靜穩ノ道ニ就カサルノ故ヲ以テナリ。

新ニ營業稅ヲ施行スルニ因テ民間營利ノ事業ニ一大波瀾ヲ起スベキハ右ニ述ベタルガ如シ。而シテ其稅率ハ本案ニ依ルニ甚ダ重カラザルモノ、如シト雖ドモ、現ニ地方稅及區町村費中營業稅割トシテ全國ノ營業者ヨリ徵收スル金額ハ毎年三百三十一萬八千圓餘ナルヲ以テ、此上國稅ヲ課スルトキハ營業者ノ負擔ハ今日ニ二倍若クハ三倍スベシ。其經濟社會ニ變動ヲ起スベキハ火ヲ觀ルヨリモ明カナリ。而シテ其變動ハ前陳シタルガ如ク國會開設政論熱沸ノ時ニ於テハ全國ノ治安上ヨリシテ最嫌忌スベキモノタリ。

## 第二

假リニ今日ノ時世ヲシテ稅法改革ニ適スルモノト定ルモ、營業稅ヲ國稅ノ一ニ列セシムルノ利害得喪ハ尙一步ヲ進メテ考究セザルベカラザル者アリ。抑々各種ノ租稅ハ一得一失アリテ、或ヒハ賦課ノ平均ヲ得ルニ難キモノアリ、或ヒハ巨多ノ徵收ノ費ヲ要スルモノアリ、或ヒハ稅源トナルベキ收穫ヲ辨知スルニ難キモノアリ、今營業稅ハ直稅中ノ最モ不利最モ不便ナルモノニ屬ス。語ヲ更ヘテ言ヘバ營業稅ハ各種ノ租稅ニ隨伴スル百失ヲ併有スルモノナリ。是レ小官ノ私言ニアラズ。各國ノ學者、實務家ノ舉テ是認スル所ナリ。故ニ各國ニ於テ今日尙營業稅ヲ國稅トシテ施行スルハ其歷史上ノ沿革ニヨリテ之レヲ保續スルニ過ギズ。英國ハ主トシテ間稅ヲ以テ國費ヲ支ヘ、直稅ハ殆ンド之レヲ舉ゲテ地方稅ニ讓與シタリ(全國直稅ノ五分四ハ地方稅ニ屬ス)殊ニ其ノ直接



國稅トシテ現行スルモノハ僅ニ地稅(年額百五萬五千磅)家屋稅(同上百七十九萬磅)及所得稅(同上千二百萬磅)ノ三種ニ過ギズ。國ノ營業稅は僅カニ二三ノ特別營業者ニ課スルモノアルノミ。(年額二百萬磅)佛國ハ有名ナル營業稅ヲ施行スルモ國家ノ主トシテ財源トナスモノハ間稅ニアリテ直稅ニアラズ、千八百七十一年獨逸ト交戦シタル後、各種ノ稅ヲ増重シタルニ當リ獨リ直稅ノミハ甚ダシク増率セザリキ。是レ直稅ノ國稅タルニ適セザル一證トナスヲ得ベシ。獨逸帝國ハ間稅ノミニテ政費ヲ支辨シ、嘗テ直稅ヲ施行セズ、倭國ニ於テモ亦營業稅ハ當世紀ノ初メニ於テ施行シタル儘ヲ繼續シ、絶テ進張スル所ナク、之レニ反シテ所得稅法ニ至テハ五十年來大イニ之レヲ改良シタリ。薩索尼ニ於テハ千八百七十八年稅法改革ヲ行ヒ、新タニ普通所得稅ヲ起シ、從來ノ營業稅及人稅ヲ全廢シ、且大ニ地稅ノ率ヲ減ジタリ。夫レ各國ニ於テ其稅法ノ年々ニ發達スルニモ拘ハラズ、營業稅ハ獨リ舊態ニ止マリ、或ヒハ全ク之レヲ廢シ、或ヒハ之レヲ地方自治體ニ讓與スル所以ノモノハ即チ營業稅ハ國稅トスルニ、最モ不適當ノモノタレバナリ。本邦ニ於テ歐洲風ノ稅法ヲ實施スル日尙淺ク未ダ俄カニ各種租稅ノ利害得失ヲ判斷スベカラズト雖ドモ、今維新以來ノ實驗ニ徵シ以テ將來稅法ノ方向ヲ推考スルトキハ、營業稅ハ本邦ニ於テモ尤モ國稅ト爲サルヲ得策トス。明治十一年地方稅ヲ施行シタル以來家屋稅及營業稅ノ二者專ラ地方ニ行ハレ、既ニ二十年ヲ經過シタリ。將來ニ於テモ英國ニ於ケルガ如ク此二稅ヲ一ニ地方稅ニ讓與シ、政府ハ

專ラ間稅ニ向テ財源ヲ求メラレンコト最良便ナルガ如シ。

上文營業稅法ニ代テ寧ロ間稅ノ擴張スベキヲ論ジタリト雖ドモ今日ノ時勢ハ稅法改革ニ適セザルヲ以テ、止ムナキ事情アルニアラザレバ其間稅モ猶之レヲ起サルヲ得策トス。

或ヒハ今回新ニ營業稅ヲ起サントスルノ目的ハ地租減輕ヲ行ヒテ其減租ヨリ生ズル政費ノ不足ヲ補フニ在ル者ナレバ、全國人民ニ對シテ此ノ一方ノ負擔ヲ減ジ彼ノ一方ノ負擔ヲ増スニ過ギズト謂ハンカ、然レドモ減租ハ一大美舉ナリ、抑々政費ヲ減ズルニ起因シテ地租ヲ減ズルノ結果ヲ得ルハ果シテ一大美舉ナリ。然ルニ地租ヲ減ジテ其不足額ヲ營業稅ニ取ラントスルハ極メテ下策ナルコトヲ免レザルノミ。減租ノ件ニ關シテハ別ニ意見ヲ具ヘテ更ラニ高裁ヲ仰ガント欲ス。謹白

明治二十一年十二月二十日

井上毅

大藏大臣閣下



## 租税ニ關スル憲法上ノ規程ハ其ノ 徴收ノ機關ノ法律ニ依テ設置セザ ルベカラザルヲ結果ス

租税ニ關スル憲法上ノ規定ハ其ノ徴收ノ機關ノ法律ニ依テ設置セザルヘカラザルヲ結果トス。

故ニ既定ノ法律中租税徴收ノ機關ヲ定メタルモノ存在セザル限リハ、勅令ヲ以テ之レヲ定ムルニ法理上障礙アルコトナシ。

然レドモ一タビ法律ヲ以テ定メタルモノアルトキハ、勅令ヲ以テ之ヲ變更スベカラザルハ論ヲ持タズ。

但其ノ所謂法律ヲ以テ定メタルモノニ二種アリ、前段ノ原則ハ此二種ヲ併セテ支配スルヤ否、左ニ之レヲ研究セン。即チ一ハ全ク其ノ法律ニ依テ組織セラル、モノ是ナリ。例ヘバ所得税法第七條ノ調査委員ノ如キ、假リニ所得税法全部ヲ法律ナリトスルトキハ、全ク其ノ法律ニ依テ

組織セラレタル機關ナリ。此ノ如キ機關ノ勅令ヲ以テ廢止若クハ變更スベカラザルハ何人モ疑ヲ容レザルベシ。但シ現行所得税法ハ勅令ナル名義ヲ以テ明治二十年、即チ議會ノ開設以前ニ制定セラレタルモノナルガ故ニ、其ノ全部法律ナリヤ否ヤハ別ニ研究ヲ要スト雖ドモ、今ハ唯假リニ法律トシテ法律ヲ以テ機關ヲ設置シタル場合ノ一例ヲ示セリ。

次ハ其ノ機關ノ組織ハ元來勅令ニ依テ定マリ、而シテ其ノ機關ガ徴税ノ職權ヲ有スルハ法律ニ據ルモノ是レナリ。今又國稅徴收法ヲ以テ議會ノ協賛ヲ經タル法律ナリト假定スレバ、徴税令書ヲ發スル府縣知事ノ職權（第八條）ハ、法律ニ依テ定マレル職權ナリ。此ノ職權ハ勅令ヲ以テ之ヲ廢止若クハ變更スルヲ得ベキヤ否、疑問ハ專ラ此ノ點ニ存スルガ如シ。

府縣知事ノ或ル職權ヲ定メタル法律ハ獨逸法ノミナラズ、選舉法府縣制等ノ如キモ亦之レヲ掲グ、且法律ハ獨リ府縣知事ノミナラズ、勅令ヲ以テ設置セラレタル其他ノ機關ノ職權モ亦之レヲ定ム。例ヘバ現行鑛業條例ニ於テ、鑛山監督署長ノ職權ヲ規定シタルノ箇條ハ甚ダ多シ、其ノ他ノ官制ナル勅令ニ依リテ設置セラレタル各省ノ職權ニシテ法律ニ淵源スルモノハ一々枚舉スベカラズ。故ニ若シ「從前府縣知事若クハ郡長ノ管掌ニアリタルモノヲ稅務專任ノ官吏ニ移スハ大權當然ノ作用ニシテ、現行法律ノ爲メ其ノ運動ヲ妨ゲラル、コトアルベカラズ」ト主張セルコトヲ得ベシトセバ、選舉法ニ依テ府縣知事ノ有スル職權ハ勅令ヲ以テ之レヲ內務大臣



ニ移シ、鑛業條例ニ於テ鑛山監督署長ニ屬スル職權ヲ勅令ヲ以テ大林區署長ニ移シ、新聞紙條例出版條例集會政社法等ニ依テ内務大臣ニ屬スル職權ヲ勅令ヲ以テ大藏大臣ニ移シ、而シテ是レ大權當然ノ作用ナリト主張スルコトヲ得ザルベカラズ。官制ヲ定ムルハ大權ナリ。法律ヲ裁可スルモ亦大權ナリ。官制法律共ニ大權ノ作用ニ基ツク所ノ法規ナリ。故ニ若シ此ノ兩種ノ法規ニシテ制定ノ形式ニ區別ナキトキハ新法ハ舊法ヲ廢スルノ原則ヲ應用スルコトヲ得ベシ。然レドモ若シ一ハ勅令ノ形式ヲ以テ制定セラレ、一ハ法律ヲ以テ制定セラレタル場合ニ於テハ憲法ハ勅令ト法律トノ形式上ノ區別ニ就テ「命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズ」ト云ヘル効力ノ區別ヲ設ケタリ。

之レヲ要スルニ官制ヲ定ムルハ大權ナリト言ヘル原則ト「命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得ズ」ト言ヘル原則ヲ綜合シテ本問題ノ上ニ顯ハル、結果ハ左ノ如シ。

一、機關ノ或ル職權ニシテ法律ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テ、此ノ職權ノミハ法律ヲ以テ變更スルハ法律ヲ要セズ。然レドモ其ノ他ノ職權ヲ變更シ又ハ其ノ機關ノ組織ヲ變更スルハ法律ヲ要セズ。

一、新タニ機關ヲ設クルハ法律ヲ要セズ。然レドモ若シ法律ヲ以テ既ニ他ノ機關ニ屬セシメタル職權ヲ更ラニ新機關ニ屬セシメントスルトキハ此ノ職權ノ移轉ハ法律ヲ要ス。

以上ハ現行税法ヲ以テ既ニ議會ノ協賛ヲ經タル法律ナリト假定シ論究シタル結果ナリ。

然レドモ現行税法ハ多クハ憲法實施以前ノ制定ニ係リ所得税法ノ如キハ勅令ナル名義ヲ以テ發布セラレ、法律ノ名義スラモ有セズ。而シテ徵稅ノ事務ハ元來法律ナラザルベカラザルモノニアラズ。乃チ徵稅事務ハ未ダ法律ノ境域ニ編入セラレズト云フノ論ニ據テ、尙今日ニ於テハ徵稅事務ハ一切勅令ヲ以テ規定スルヲ得ト主張セバ是レ自ラ別論ナリトス。



## 市公債證書ニ對スル内訓

曾テ東京市公債證書ノ儀ニ關シ、東京市參事會ヨリ稟請ノ事項ニ對シ、閣議ヲ經タル處、第一市公債ヲ國立銀行ニ於ケル發行紙幣ノ抵當トシテ政府ニ預ルコトハ國立銀行條例ニ抵觸シ、法律ノ改正ヲ爲スニアラザレバ到底許可難相成モノナレバ、詮議可相成限ニアラズ。第二官廳ノ預ケ金ニ對シ爲替方ヨリ抵當其他保證金ノ代用トシテ差出ス事ハ、法律ノ改正ヲ要スル部分ヲ除キ（米商會社條例株式取引所條例等）勅令以下ノ命令規則ニシテ、今之レヲ改正シ得ベキモノハ之レヲ改正シテ許可ヲ與ヘラルベク、第三第二ニ依リ抵當トシ、又ハ保證金ニ代用スル市公債ノ價格ハ命令ヲ以テ六分利付金祿公債證書ト同額ナラシメンコトヲ稟請スト雖ドモ、是等ハ市場ノ實價ニ依ルベキモノナレバ、宜ク公債證書ノ價格ヲ定ムルノ例ニ準ズベシ。第四稟請ハ日本銀行ニ於テ市公債ヲ抵當又ハ擔保品トナスコトヲ得セシメントスト雖ドモ、右ハ銀行ノ消長ニ關スル至大ノ問題ナレバ、同行ニ於テ之レヲ大藏大臣ニ稟請スルニ當リ、之レヲ許可スルハ格別ナレドモ、今命令ヲ以テ政府ヨリ之レヲ銀行ニ強ユベキモノニアラザレバ、固ヨリ

許可ヲ與ヘラル、限ニアラザルベシ。之レヲ要スルニ第一第四ハ到底許可ヲ與ヘラルベキモノニアラズ。第二、第三ハ條件付ニ之レヲ許可セラレ可然モノトス。尤モ今勅令ヲ改正シ稟請事項ノ一部ヲ許可セラル、トモ、未ダ以テ稟請ノ目的ヲ達スルモノトイフ可カラズ、依テ稟請書一應却下候條、右ノ旨趣ヲ以テ市參事會ニ諭示シ、猶閣議ノ旨ニ基キ、第二、第三ニ限り許可ヲ受クルノ必要アル儀ニ候ハバ、更ラニ其旨ヲ具ニ稟請セシメラルベシ。

右内訓ス。

明治二十四年九月十八日

内務大臣子爵 品川 彌二郎  
大藏大臣伯爵 松方 正義

東京府知事 富田鐵之助殿



參考

市參事會ヨリ稟請シタル事項

- 一、東京市公債證書ハ國立銀行ニ於テハ發行紙幣ノ抵當トシテ政府ニ預ルコトヲ得ベキ事
- 一、同上各官廳預ケ金ニ對シ爲替方ヨリ抵當其他保證金ノ代用トシテ差出ヲ得ベキ事
- 一、同上抵當トナシ又ハ保證金ニ代用スル場合ニ於テ其價格ハ六分利付金祿公債證書ト同額ナル事
- 一、同上日本銀行ニ於テハ之レヲ抵當トシテ定期貸及ビ當座勘定貸又ハ割引手形ノ擔保品ト爲スコトヲ得ベキ事

内訓ニ基キ市參事官ヨリ稟請

東京市公債條例ニ基キ發行スベキ公債證書ハ可成運用ノ區域ヲ擴メ、世人ノ使用ヲ計ルニアラザレバ募集ノ目的難相立ニ付、別紙ニ記載スル事項ニ對シテハ法律ヲ以テ定メラレタル部分ヲ除キ（米商會社條例株式取引所條例等）特ニ御許可ヲ與ヘラル、様御詮議相成度此段及稟請候也。

明治二十四年九月十九日

東京市參事會

東京府知事 富田鐵之助

内務大臣子爵 品川彌二郎殿

内訓ニ基キ市參事官ヨリ稟請



大藏大臣伯爵 松方 正義殿

- 一、東京市公債證書ハ官廳ノ工事及ビ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結バン  
トスルトキ保證金ニ代用スルヲ得ベキ事
- 一、同上地方經濟ニ屬スル府縣廳ノ預ケ金ニ對シ爲替方ヨリ抵當トシテ差出スヲ得ベキ事
- 一、同上國庫金取扱ノ爲メ日本銀行ニ於テ代理店ヨリ差出サシムベキ保證金ニ代用セシメン  
トスルトキハ御認可相成候様豫メ御詮議相成度事
- 一、同上保證金ニ代用シ又ハ抵當トスル場合ニ於テハ市價ニ依ル相當ノ價格ヲ御定メ相成度  
事

(參考)

- 一、東京市公債證書ハ官廳ノ工事及物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結バン  
トスルトキ保證金ニ代用スルヲ得ベキ事。

會計規則 二十二年勅令第六十號

- 第六十九條第二項 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其債約ヲ結バントス  
ル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムベシ。

- 一、同上地方經濟ニ屬スル府縣廳ノ預ケ金ニ對シ爲替方ヨリ抵當トシテ差出スヲ得ベキ事。

太政官達 明治十二年十二月二十七日第五十一號

明治十年七月第五十號及第五十一號達各廳爲替方命令書案第五十一條左ノ通改正候條此  
旨相達候事但抵當價格ノ儀ハ大藏省ヨリ可相達事。

第十一條當廳預ケ金ニ對シ抵當トシテ公債證書ヲ成規ノ手續ヲ經テ差出シ置クベシ。



大藏省達乙第二十四號 明治十二年四月廿二日

地方税爲換方命令書ノ儀ハ十年第五十號公達命令案ニ照準シ施行ノ上届出スベク此段相達候事。

大藏省達内務卿 十五年 連署 第五十號 府縣

地方税爲替方預ケ金抵當公債證書價格ノ儀ハ十三年一月大藏省乙第一號達ニ準據スルニ不及儀ト心得ベシ。此旨相達候事。

一、同上國庫金取扱ノ爲メ日本銀行ニ於テ代理店ヨリ差出サシムベキ保證金ニ代用セシメン  
トスルトキハ御認可相成候様豫メ御詮議相成度事。

一、同上保證金ニ代用シ又ハ抵當トスル場合ニ於テハ市價ニ依リ相當ノ價格ヲ御定メ相成度事。

大藏大臣達 十九年六月二十五日

公債證書種類抵當價格

|      |         |
|------|---------|
| 新公債  | 八十圓     |
| 七分金錄 | 百圓      |
| 六分金錄 | 百圓      |
| 五分金錄 | 九十圓     |
| 起業   | 百圓      |
| 金札   | 百圓      |
| 配當錄  | 百圓      |
| 中山道  | 百圓      |
| 舊公債  | 價額金高四分一 |
| 整理公債 | 九十圓     |
| 海軍公債 | 九十圓     |



## 國立銀行ニ於テ市公債ヲ所有スル ニ付府知事稟申

東京市ニ於テ發行スル公債證書ニ關スル事項ニ付テハ、是迄市參事會ヨリ數回及上申候通、可成運用ノ區域ヲ擴メ、金融上ノ利便ヲ計ルニアラザレバ募集ノ目的難相立候處、先般御内訓ノ趣モ有之候ニ付其趣旨ニ從ヒ更ラニ市參事會ヨリ及稟請候儀ニ有之候。尤市内水道改良ノ事業ハ本年四月ヨリ施行ノ計畫ナリシ處、空シク年度ノ半モ經過セシニ付、右稟請ノ事項ハ爾日御許可可相成儀ト拜察シ、曩ニ御認可ヲ得タル公債募集及償還方法ニ基キ、本年度ニ於テ金二百萬圓ヲ募集スルモノトシ、本年十月十六日ヨリ同月二十六日マデヲ應募申込ノ期限ト定メ、募集ニ着手仕候。然ルニ市公債ノ運用ハ會テ御内訓ノ通り政府ノ公債ト同様ナラザルモ、各國立銀行ニ於テ之レヲ所有シ又ハ賣買シ得ル儀ト確信致居候。右ハ小官一己ノ私見ノミニ無之、市參事會ハ勿論各國立銀行ニ於テモ同案ト被察候。右ハ國立銀行條例ヲ誤認シタルニハ無之、只解釋上適當ト認メ候儀ニテ、其理由ハ國立銀行ニ於テ大藏省證券ヲ所有シ得ルハ勿論、先年

日本郵便會社々債發行ノ當時、其ノ債券ヲ所有シタル例證モ有之ノミナラズ、近クハ長崎水道公債券モ亦同様ノ次第ナルニ基キ候。加之貯蓄銀行ノ如キハ尤確實ヲ主トスルモノナルニ、貯蓄銀行條例第五條ニ於テハ明カニ地方債證券ノ買入ヲ許サレ、夫是考慮スルモ右解釋ノ適當ナルヲ信ジ居リ候。然ルニ圖ラザリキ今般市公債募集着手後ニ當リ、一ノ困難相生タルハ、市公債ハ國立銀行ニ於テ所有シ得ベカラザルモノナリトノ巷說市場ニ流布シ、意外ノ障礙ヲ來タセル一事ニ候。之レガ爲メ募集價格頓ニ下落シ、不容易狀況ヲ呈シ、市參事會ノ苦慮難捨置ニ付、屢々大藏大臣ニ内陳種々御配慮ヲ請タルモ、終ニ國立銀行條例第五十四條中土地家屋其他物件ヲ所有シ得ベカラズ云々ト之レアル條項中、其他物件ノ内ニ東京市公債證書モ含有スベキモノトノ御解釋ニ拜承、實ニ豫期外ノ困難ニ陥リタル次第ニ候。乍去其理由ハ別ニ公布セラレタルニモ無之、市場彼是疑惑ノ間ニ募集期日經過候處、漸ク募集額二百萬圓ニ充實シ、初期ノ募集ニ當リ東京市ノ面目ヲ汚サ、リシハ不幸中ノ幸ニ候。然レドモ募集額ノ内國立銀行ノ名儀ヲ以テ申込者相見候ニ付、退テ取消ノ義申出候者有シベクモ難計、果シテ然ルトキハ募集額二百萬圓ニ不足ヲ生ジ、且市公債運轉ノ區域ハ彼ノ郵船會社々債券ニモ劣ルノミナラズ、長崎水道公債券ニモ及バザル極メテ狹隘ノモノト相成候。

今茲ニ縷述候迄モ無之候ヘドモ、水道改良工事ハ一大事業ニシテ、本年ヨリ更ラニ進ンデ向



四ヶ年間ニ殘額八百萬圓募集ノ計畫ヲ爲サルベカラズ。然ルニ國立銀行ニ於テ之レヲ所有シ能ハザルト御確定ニ相成候ハバ、已ニ募集シタル市公債證書ハ運轉ノ自由ヲ缺キ、其價格ヲ低落スルハ當然ノ結果ナルベク、次テ將來ノ募集上頗ル困難ノ地位ニ陥リ、到底募集繼續モ難相成ト被察候。然ラバ半途マシテ止マンヨリハ寧ロ事業ノ着手ヲ見合ハスノ勝レルニ如カザルヤト市參事會ニ於テモ苦慮不一方次第ニ有之、付テハ國立銀行條例ニ牴觸セザル限リハ、可成市公債運轉ノ自由ヲ缺カザル様御詮議相仰度、目下市參事會ニ於テ事業着手躊躇罷居候段、何分之儀至急御指揮被下度此段及稟申候也。

明治二十四年十一月十一日

東京府知事 富田鐵之助

内務大臣子爵 品川彌二郎殿  
大藏大臣伯爵 松方 正義殿

(參考)

國立銀行條例

第五十二條 此ノ條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ(引受貸シ抵當貸シノ別ナク)貸付ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲替手形、約束手形、代金取立手形、其他ノ證書ヲ割引シ又ハ公債證書、外國貨幣、並ニ金、銀、銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスベシ。

第五十四條 此ノ條例ヲ遵奉スル銀行ハ前五十二條ニ掲ダル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスベカラズ。又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許サズ。尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ、又ハ之レヲ引取リ又ハ之レヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之レヲ宥恕スベシ。但銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フベシ。

第一、銀行ノ業ヲ營ムベキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之レヲ買取り之レヲ所持シ之レヲ賣拂フヲ得ベシ。

第二、滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取りタル物件ハ之レヲ引取り之レヲ所持シ之レヲ賣拂フヲ

國立銀行ニ於テ市公債ヲ所有スルニ付府知事稟申



得ベシ。

第三、貸金返済ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之レヲ引取之レヲ所持シ之レヲ賣拂フヲ得ベシ。

第四、銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之レヲ引取リタルモノ又ハ右質入レ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返済スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之レヲ買取り之レヲ引取り之レヲ所持シ之レヲ賣拂フヲ得ベシ。

### 貯蓄銀行條例

第五條 貯蓄銀行ハ左ニ掲グル事項ノ外其資金ヲ運轉スルコトヲ得ズ。

第一、貸付

第二、證券ノ割引

第三、國債證券及地方債證券ノ買入

## 東京市公債證書ノ儀ニ付再上申

本月十一日付ヲ以テ東京市公債證書之議ニ付及稟申候處、未何分之御指令無之、然ルニ公債應募者ノ内國立銀行ノ名義ヲ以テ申込タルモノニシテ既ニ應募申込取消之儀申立候者有之、右ハ國立銀行ニ於テ東京公債證書ハ所有シ得ベカラズトノ御詮議ヲ傳承シ、即今募金拂込ノ期ニ際スルヲ以テ、右様申出候儀ニ可有之、尙其他ニモ國立銀行ノ申込ニシテ果シテ所有相成ラザルトキハ取消サレ度旨申出候者モ有之、事實右様ノ次第ニテ第一回募集額二百萬圓ニ對シ欠額ヲ生ズルノミナラズ、若シ國立銀行ニ於テ所有シ得ベカラズト御確定相成候トキハ、兼ネテ及縷陳候通り將來募集上大ナル障碍ヲ與ヘ、遂ニ水道改良工事モ成功ノ目的不相立成ト懸念不少候。目下事業着手ニ際シ前陳ノ通り應募取消ノ申出モ有之頗ル困難ノ地位ニ陥リ苦慮罷在候儀ニ付、事情御洞察之上曩ニ及稟申候趣ハ速ニ御詮議相成候様仕度此段及上申候也。

明治二十四年十一月二十六日

東京市公債證書ノ儀ニ付再上申



東京府知事 富田鐵之助

内務大臣子爵 品川彌二郎殿  
大藏大臣伯爵 松方 正義殿

### 品海築港ノ儀ニ付上申

東京府知事 芳川 顯正

秘

案ズルニ凡ソ都會ノ繁盛ヲ致セル所以ノモノハ政治若クハ通商ニ起因セザルハナシ、甲ニ因  
スル者ハ政權ノ聚散ニ由テ榮枯ヲ顯ハスコト實ニ甚シク、乙ニ起ル者ハ一ニ貿易ノ振否ニ關シ  
而シテ政權ノ影響ヲ受クルコト著シカラザルナリ。

今マ卑職熟々東京ノ地勢ヲ察スルニ、西北遙カニ武相常野ノ諸山ヲ負ヒ、而シテ東南海ニ面  
シ又隅田利根多摩等ノ諸川ノ周圍ヲ環流スルアリ、中間平濶ニシテ渺茫トシテ際涯ナク、沃野  
千里實ニ天府ノ地タリ。其形勝豈ニ他ノ諸州ノ能ク肩ヲ比ス可キ者ナランヤ。然ルニ細ニ其裏  
ヲ察スルニ、港灣アリト雖トモ僅々東北數州ヲ牽連スルニ過ギズシテ未ダ全ク海内商業ノ牛耳



ヲ執ルニ堪エザルナリ。是レ吾人從來憾ヲ遺ス所トス。是ヲ以テ昔載太田氏其居城ヲ此地ニ占ムルノ日ニ方テヤ、唯々寥寥乎タル一市邑ニ過ギザリシモ、嗣デ徳川氏覇府ヲ開キ天下ノ政權ヲ掌握スルヤ、諸侯ニ參勤交代ノ法アリ、家眷ハ茲ニ居住セザルヲ得ザルノ制アリ、是ヲ以テ荒野頓ニ茅宅ノ美ヲ現ハシ、街路忽チ車駕ノ繁ヲ極メ、百般ノ需用日ニ月ニ増進スルニ及ンデ齊工此ニ聚リ、商賈此ニ群リ、四方ノ貨物ヲ運入シ其需求ニ應ズルニ至リ、市廛鱗次シ民庶蟻集シ、遂ニ東海ノ大都會トハナリタルモ、是レ海内ノ富庶ヲ強テ都下ニ集合セシムルノ政策ニ職トシテ由ラズンバアラザルナリ。故ニ幕府ノ末葉ニ於テ其參勤交代ノ制ヲ解キ、家眷ヲシテ、各其州郡ニ放還セシムルニ及ンデオヤ、士民之ニ從ツテ四方ニ離散スル者甚ダ多ク、延テ維新ノ初メニ至テハ所謂四里四方ノ大都モ殆ント往時ノ一市邑ニ變ゼントスルノ傾向アリ、然ルニ爾後幾モナク帝都ヲ此地ニ定メララレシヨリ、向ニ離散シタル士民ノ復歸スルアリ、又新タニ居ヲ此地ニ移ス者アリ、方今ニ至リテハ再ビ往時ノ昌盛ニ復セントスルノ勢アリ、固ヨリ彼ノ通商ニ因テ盛大ヲ致セル大坂等トハ其趣ヲ同フセザルナリ。

今夫レ大坂ノ地勢ヲ觀ルニ、河海亦淺游ニシテ其便十分ナラズト雖ドモ、之レヲ我東京ニ比スルニ其優レルコト已ニ幾層トス。之レニ加フルニ其地タル四通八達ニシテ關西諸州ノ咽喉ヲ扼シ、而シテ貨物ヲ四方ニ配付スルニ甚ダ便ナリ。故ヲ以テ當時西南諸州ノ貨物ヲ諸國ニ運ス

ルヤ一旦坂府ヲ經過セザルモノ殆ント稀ナリ。實ニ海内商業ノ中心ト謂フモ不可ナキナリ。是故ニ豐臣氏ノ居城一旦故坵ニ付シ、而シテ政權坂府ノ地ヲ拂フニ至ルモ、常ニ海内通商ノ權ヲ執リ、賈人商戸ハ依然トシテ其舊觀ヲ改ムルコトナキナリ。由是觀之、人爲ノ都府ノ天然ノ都府ニ加カザルヤ、昭々乎レシテ明カナリ。若夫レ人爲ト天然ノ便ヲ併有スルノ都府ヲ得ルニ至テハ其利豈ニ勝ゲテ言フ可ンヤ。

然則東京ハ縱令ヒ其河海ノ便ヲ盡スモ、政治的ノ都府タルニ過ズ。而シテ到底商業ノ都府トナスコト能ハザル乎。曰ク否只ダ未タ曾テ善良ノ工事ヲ起シ、之レガ利用ヲ試ミザルノミ、之レニ善良ノ工事ヲ施シ内外ノ大舶ヲシテ自由ニ出入スルコトヲ得セシムルハ蓋シ其難ノ事ニ非ザルナリ。

夫レ東京ハ我八洲ノ首府タリ。單ニ武藏國ノ首府ニ非ザルナリ。況ンヤ又タ外國互市場ト定メラレタルニ於テオヤ。於是務メテ河海ヲ浚鑿シ、以テ船舶ノ出入ヲ便ニシ、道路ヲ改修シ、以テ車馬ノ來往ヲ自在ニシ、水道及下水ヲ改良シ以テ人士ノ健康ヲ進メ、或ヒハ家屋ヲ改築シ以テ祝融ノ害ヲ防ギ、或ヒハ歌舞音曲場ヲ改良シ、或ヒハ遊園ヲ設ケ以テ精神ヲ慰シ、耳目ヲ娛マシムル等ノ如キハ寔ニ今日府政ノ止ム可カラザルモノトス。是レヲ以テ卑職曩ニ裁可ヲ賜ハリ、現ニ其審査會議ニ付セラル、ニ至ル、則チ品海艇港ノ舉亦一日忽諸ニ付ス可カラザル



ナリ。蓋シ市區改正ノ舉タル道路ヲ擴ゲ橋梁ヲ堅クシ河川ヲ浚濬シ、或ヒハ新タニ之レヲ開鑿スル等固ヨリ水陸運輸ノ便ヲ盡スノ方法タリト雖トモ、苟クモ固有ノ港灣ヲ浚鑿シテ以テ大舶ヲ容レ、而シテ海陸ノ便ヲ併有スルニ非ズンバ亦只ダ舊來ノ便ヲ益スニ過ギザルノミ。若シ大舶ノ自由ニ出入シ、以テ海内外ノ貨物ヲ運輸スルコトヲ得セシメバ、則チ東京ヲシテ獨リ政策ノ力ニ之レ由ラズ、通商的ノ便益ヲ併有シテ以テ益々昌盛ノ域ニ進マシムルコトヲ得ベキナリ。是レ品海築港ノ今日ニ止ムコト能ハザル所以ナリ。是レヲ以テ曩ニ卑職海軍省水路局ニ協議シ、又僚屬ニ命ジ先ヅ品海ノ深淺ヲ測量セシメ、頗ル其實際ノ利弊ヲ討論考究シ、尙内務省土木局傭工師蘭人ムルドル氏ノ意見ヲ問ヒ、遂ニ別紙圖面ノ如ク築港ノ計畫ヲ遂ゲタリ。或ヒハ云フ。品海築港ノ舉、美ハ則チ美ナリト雖ドモ費額甚ダ多クシテ策ノ得タルモノニアラズ、京濱間既ニ鐵道ノ布設アリ、寧ロ橫濱若クハ相州地方ニ於テ天然ノ地形ヲ選ミ、良港ヲ設ケ、而シテ單ニ隅田川ノ下流ニ就テ小船ノ繫留シ得ベキ一小川港ヲ設クルノ優レルニ加カズト、今或氏ノ説ヲ考フルニ、是レ一論ナリト雖ドモ唯ダ目前ノ小利ヲ見テ深ク府下永遠ノ利益ヲ圖ラザルモノニ似タリ。蓋シ宇内各國運輸最モ盛ナルノ地ニ於テ、人工ヲ加ヘ以テ良港ヲ造成セザルモノ其例少シトセズ。蘇格蘭ノ「グラスゴ」港ノ如キハ其最モ著シキモノニシテ、十數年前ニ在テハ其深サ僅カニ十尺内外ニ過ギザリシガ今日ニ在テハ大西洋ヲ航行スル巨大ノ船舶ヲ容

易ニ出入スルニ至レリ。其他英國ノ「リバプール」米國ノ「ニューヨーク」等ノ良港ノ名ヲ得タルモ亦常ニ人工ヲ以テ浚鑿セルニ非ザルハナシ。況ンヤ品海ハ敢テ工ヲ施シ難キ所ニ非ザルニ於テオヤ。此レ卑職ガ愈々築港ノ舉ニ熱心シテ止ムコト能ハザル所ナリ。

然リト雖トモ築港ノ舉タルヤ、亦至大至重ニシテ其關係スル所甚ダ廣シ。決シテ輕々ニ看過スベキ者ニ非ザルナリ。故ニ政府幸ニ卑見ノ其正鵠ヲ失スルコトナシトシ、而シテ的當ノ委員ヲ選ビ、其審査ニ付シ彼ノ市區改正ト竝ヒ行ハル、ニ至ラハ、果シテ東京ハ政治及通商ノ二利ヲ兼併スルノ都府トナシ、以テ永ク東洋ノ一大都府トナスコトヲ得ルハ期シテ待ツベキナリ。今謹ンデ圖面竝ヒニ工事解説書工師意見書ヲ進達ス。伏シテ望ムラクハ速カニ廟議ヲ盡シ、府下將來繁榮ノ基礎ヲ確定セラレンコトヲ。謹言。

明治十八年二月五日

追申

本文亦其費額ノ出處ヲ論ゼザルモノハ彼ノ市區改正ノ費額ト共ニ其方法ヲ定メ不日將サニ

品海築港ノ儀ニ付上申



### 品川灣築港工事解説

茲ニ計畫スル所ノ東京灣築港ハ内務省土木局備工師蘭人ムルドル氏ノ調査ニ係ル深港策ニ基キタルモノニシテ、圖上ニ示ス如ク隅田川口西派ヲ塞斷シ、東派ヨリ全流ヲ海ニ注ギ、而シテ更ラニ突堤ヲ築キ、海ニ向テ漏斗ノ狀ヲ爲シタル大池ヲ造クルニアリ。

永代橋上流隅田川改修ノ工事ハ自ラ別問題タルヲ以テ茲ニ掲ゲズト雖ドモ、今企圖スル所ノ深港策ノ目的ヲ完全ナラシムルニハ、其下流ヲ制治センガ爲メ左ノ工事ヲ施スベキモノトス。

第一 隅田川口西派ヲ塞斷スル爲メニ靈岸島石川島間ニ於テ緩ナル彎曲ヲ爲シ、延長二百四十間ノ粗朶工導流堤ヲ設クベシ。

第二 永代橋際ヨリ越中島沖ニ達スル全長六百八十間ノ導流杭柵ヲ設クベシ。

第三 石川島東端ヨリ南ニ向ヒ延長千四百五十間ノ導流杭柵ヲ海中ニ設クベシ。

第四 前項導流杭柵ヲ猶ホ延長シ東南ニ向ヒ緩ナル彎曲ヲ有スル同長ノ粗朶工導流堤ヲ設クベシ。

粗朶工導流堤ノ構造ハ海底ノ深淺ニ隨ヒ、幾屬ノ沈床ヲ爲シ、捨石ヲ以テ之レヲ覆ヒ、堤頭ヲ低水面ノ高サニ達セシムルニアリ。導流杭柵ノ構造ハ東京灣浚浚工事ニ使用セシ導流杭柵ニ異ナルコトナシ。

第五 隅田川東川口ヨリ導流杭柵ニ沿ヒ延長約千間ノ間浚浚ヲ施スベシ。

以上ノ工事ハ川ト港トヲ全ク區別シテ、而シテ隅田川下流ヲ制治スルニ必要ナルモノニシテ左ニ掲グル所ハ築港工事ノ本體ヲ爲スニアリ。

第一 石川島第三砲臺間ニ於テ上幅十一尺延長千七百十間ノ突堤ヲ設クベシ。

第二 第一、第四、及品川砲臺ヲ相結ビ上幅十五尺全長四百四十間ノ突堤ヲ設クベシ。

第三 第三、第四、砲臺ヨリ南々東ニ向ヒ上幅十五尺全長四千六百〇五間ノ突堡ヲ設クベシ。

突堤ノ構造ハ海底ノ深淺ニ隨ヒ一層或ヒハ二層ノ沈床ヲ爲シ、捨石ヲ投ジ、之レヲ覆ヒ堅牢ナル基礎ヲ造リ以テ石壁ヲ築キ、最高潮面上ニ突出セシムルニアリ。抑モ突堤ヲ設ケ其海ニ向